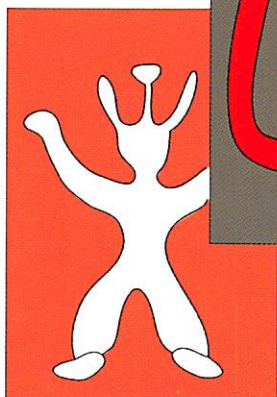
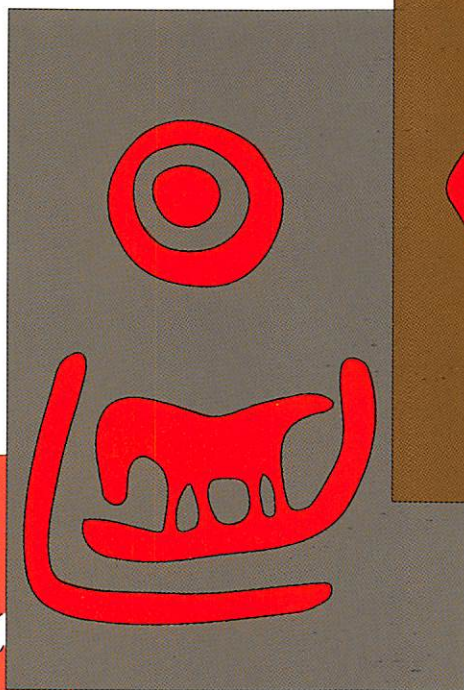
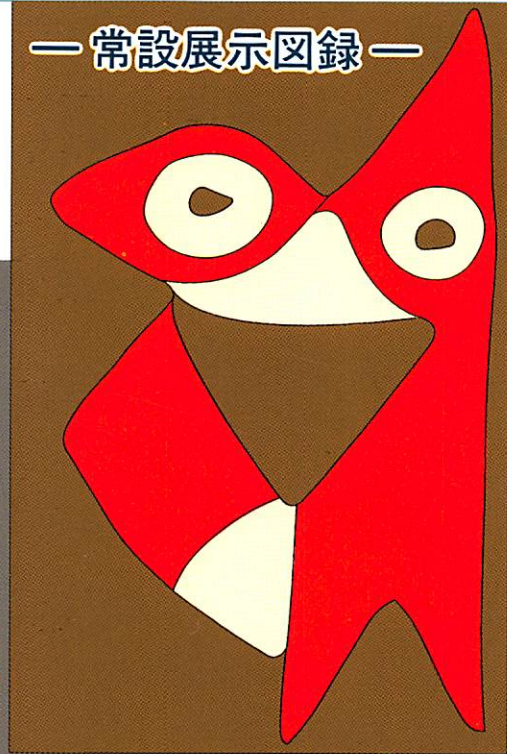


舟と馬と太陽と

— 常設展示図録 —



熊本県立
装飾古墳館
展示案内

表紙の図柄

表紙の右上の文様は、チブサン古墳の石屋形の中央に描かれた装飾で、チブサンの語源ともなったものです。

昔の人にはこの文様が、乳房に見えたのでしょうか。近世には、乳の神様としての土俗信仰も盛んでした。

真中の文様は、弁慶が穴古墳の装飾で、まさに、「舟と馬と太陽」を表しています。この古墳の被葬者の、生前の活躍を写したものと思われます。

下段の文様も、チブサン古墳の装飾で、王冠をつけた人物像です。この古墳の被葬者自身かも知れません。

白色で描かれていますが、脇から下は白色の顔料が剥落していたため、先頃までは、王冠を表したものと解釈され、古い文献にもそのような記載が見られます。中央から訪れる学者達も、誰一人として疑いを挟むものはいませんでした。

しかし、この文様が、王冠をつけた人物像であることを指摘したのは、当館学芸課職員の前田氏でした。

昭和29年当時、高校一年だった同氏は、この図柄の白色顔料の剥落部分を観察し、人物像との判定を下しました。当時の彼の瑞々しい感覚は、権威ある大学の見解をも覆したのです。



はじめに

平成4年4月の開館以来、数多くの方々に御来館を頂き、誠に感謝に堪えません。厚くお礼を申し上げます。

さて、当館に入館されて、装飾古墳の美に感動された方々から、観覧後種々の御意見や御要望を戴く事がございます。

その中の一つに、「余り学問的な難しいものでなくてもいいから、来館の記念や思い出になるような図録はないのか」というお尋ねがよくあります。

このような、お尋ねに応える意味において、今度、常設展示図録一冊と馬と太陽と一を刊行することにいたしました。

当館における観覧時の手引書として、また、装飾古墳に関する一般的啓蒙書として、広く御活用頂ければ幸いです。

平成6年3月31日

熊本県立装飾古墳館長 原口 長之

常設展示図録目次

- 中表紙 ・舟と馬と太陽と
- はじめに ・熊本県立装飾古墳館長
- 目次
- 館の設立目的と展示の基本理念
- 館内の御案内（館建物平面図）

I. 館の概要

- 1 館の概要……………(1)
- 2 見どころガイド……………(2)
 - (1)常設展示部門 (2)企画展示部門
 - (3)体験学習部門 (4)視聴覚部門
 - (5)屋外展望施設 (6)発掘現場再現
 - (7)館の構造 (8)実習棟の建設

II. 常設展示部門

- 1 常設展示室 —— 菊池川流域の文化 —— (5)
 - (1)菊池川の文化 (2)主な展示遺物
 - (3)先土器時代 (4)縄文時代
 - (5)弥生時代 (6)古墳時代
 - (7)古代の菊池川流域
 - (8)中世の菊池川流域
- 2 装飾古墳室
—— 花開いた装飾古墳文化 —— ……(20)
 - (1)装飾古墳室を観覧するに当って……………(21)
—— 装飾古墳に関する予備知識 ——
 - ・熊本県の主要装飾古墳分布図
 - ・全国装飾古墳分布図
 - ・古代人の死生観
 - ・装飾古墳室の観覧順路
 - (2)記録する事の大切さ……………(27)
—— 鍋田横穴群27号墓と矢野一貞 ——
 - (3)直弧文の謎を追って……………(28)
—— 鴨籠石棺と井寺古墳 ——
 - (4)華麗な装飾とレリーフの美……………(30)
—— 小田良、千金甲、大鼠蔵、広浦、大村 ——
 - (5)菊池川流域の装飾文様と石人……………(33)
—— 菊池川流域の特色 ——
 - (6)三角形の系譜……………(35)
—— チブサン、塚坊主、大坊古墳 ——
 - (7)舟と馬と太陽と……………(37)
—— 弁慶が穴古墳と永安寺東古墳 ——
 - (8)装飾古墳室内の展示遺物……………(39)
—— 鏡、埴輪、農具、工具、武具、装身具 ——
- 3 地下ロビー展示および回廊展示……………(41)
 - (1)装飾文様のパネル展示……………(41)

- (2)弥生時代の甕棺展示……………(41)
- (3)館のオブジェの須恵の大甕……………(42)

III. 企画展示部門

- 1 時宜にあった企画展示……………(43)

IV. 視聴覚部門

- 1 検索システムとマジックビジョン
(装飾古墳室内) ……(44)
- 2 イマジネーションホール
・3D(立体映像)等の上映……………(45)

V. 屋外展示施設

- 1 寒原遺跡……………(46)
 - ・第1号石蓋土壙墓 ・第2号石蓋土壙墓
 - ・第1号小円墳 ・第2号小円墳
 - ・第3号小円墳
- 2 舟形石棺等(地下中庭展示場)……………(48)
- 3 家形石棺と箱式石棺(館東側展示場)……………(48)
- 4 移築復元された横山古墳……………(49)

VI. 肥後古代の森の史跡と遺跡

- 1 肥後古代の森(鹿央地区)……………(51)
- 2 空から見た岩原古墳群……………(52)
- 3 館周辺の遺跡……………(53)
 - ・岩原台地上の遺跡群 ・岩原横穴墓群
 - ・舟葬について ・長岩横穴墓群
 - ・桜の上横穴墓群 ・見学の御案内

VII. 体験学習部門

- 1 県民参加型の博物館をめざして……………(56)
- 2 体験学習会……………(56)

VIII. 参考資料

- 1 菊池川流域関係歴史年表……………(57)
- 2 県内主要装飾古墳見学案内一覧……………(60)
- 3 全国風土記の丘一覧……………(63)

IX. 利用の御案内

- 1 利用のご案内
(開館時間、休館日、観覧料等)……………(66)
- 2 交通機関 (所在地、略図等)……………(66)
- 3 装飾古墳館周辺拡大図……………(66)
- 4 関連施設のご案内(食堂、物産館等)……………(66)

館の設立目的と展示の基本理念

○設立目的

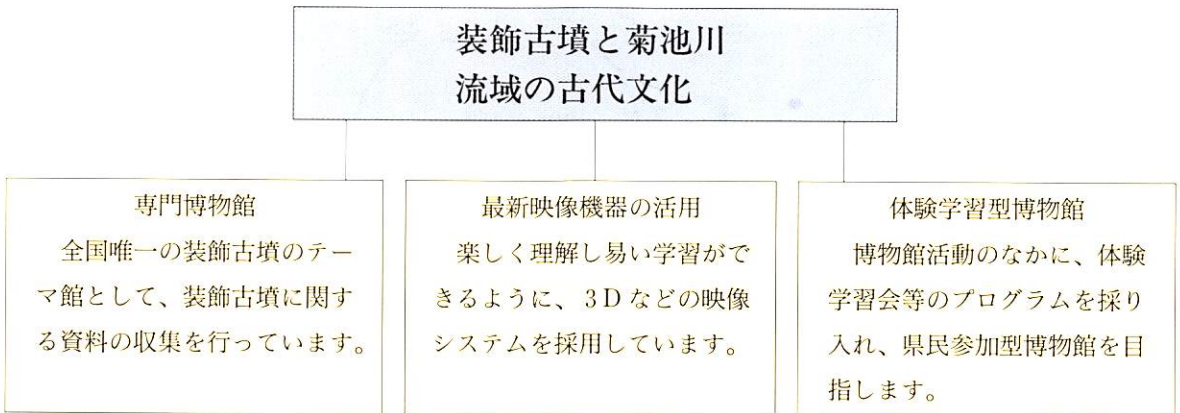
熊本県では、文化庁の「風土記の丘」の一つとして、菊池川流域の山鹿市・鹿央町・菊水町の3地区を指定し、それぞれ地区内の史跡の整備を進めてきました。

平成3年（1991）には、3地区を総称して「肥後古代の森」という名称が決定しました。そして、その中核施設として、鹿央町に「熊本県立装飾古墳館」を設置しました。

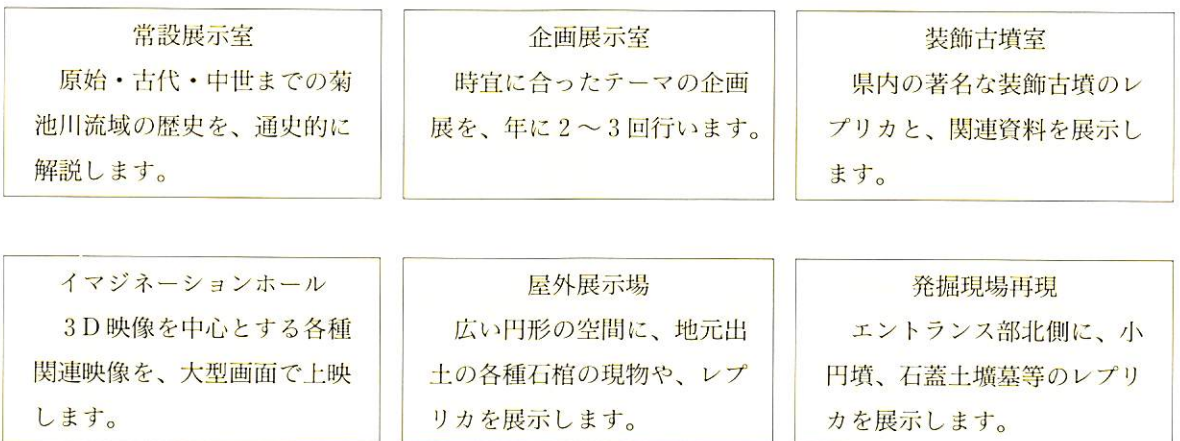
郷土熊本には、歴史的な多くの遺跡・遺物が残されています。なかでも装飾古墳は全国の本場です。装飾古墳館では、それらの遺跡・遺物を通して歴史に対して深い理解と興味を持っていただきたいと考えています。

○展示の基本理念

展示のテーマ



本館・展示棟



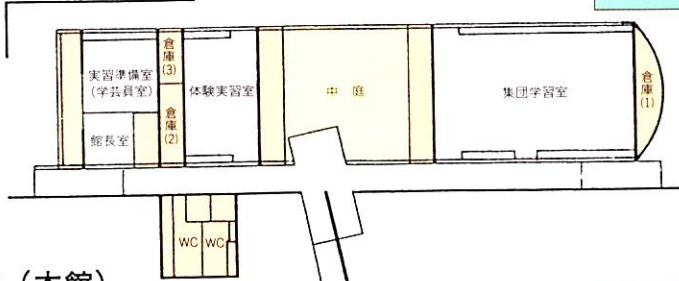
別館・実習棟

○入館者向けオリエンテーション ○体験学習会 ○考古学教室 ○各種関連学会 ○シンポジウム
以上のほか、各種関連行事等も行います。

館内のご案内

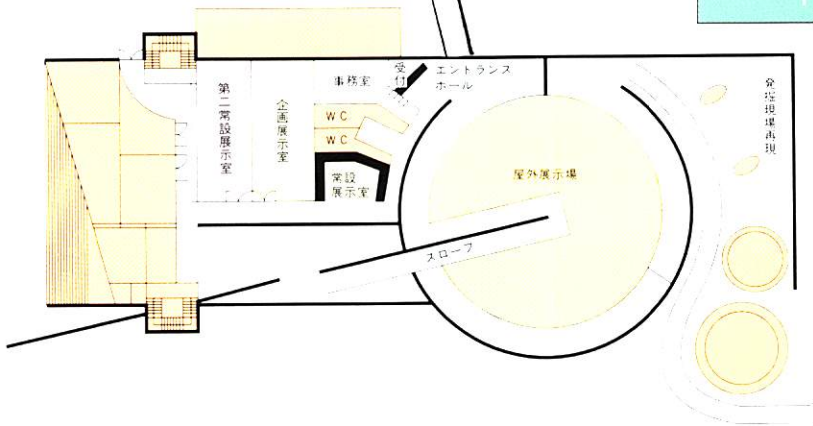
1. 実習棟 (別館)

実習棟平面図

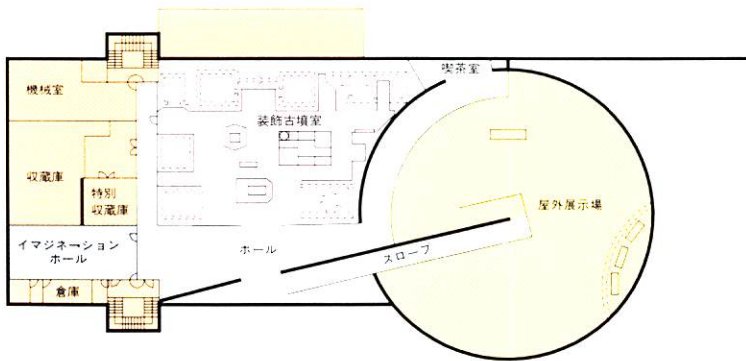


2. 展示棟 (本館)

1階平面図



地階平面図



1. 実習棟 (別館)

- 建築面積 783.39㎡
- 延床面積 683.15㎡
- 設計 安藤忠雄

- 構造 鉄筋コンクリート
- 規模 平屋1階
- 総事業費 273,000,000円

2. 展示棟 (本館)

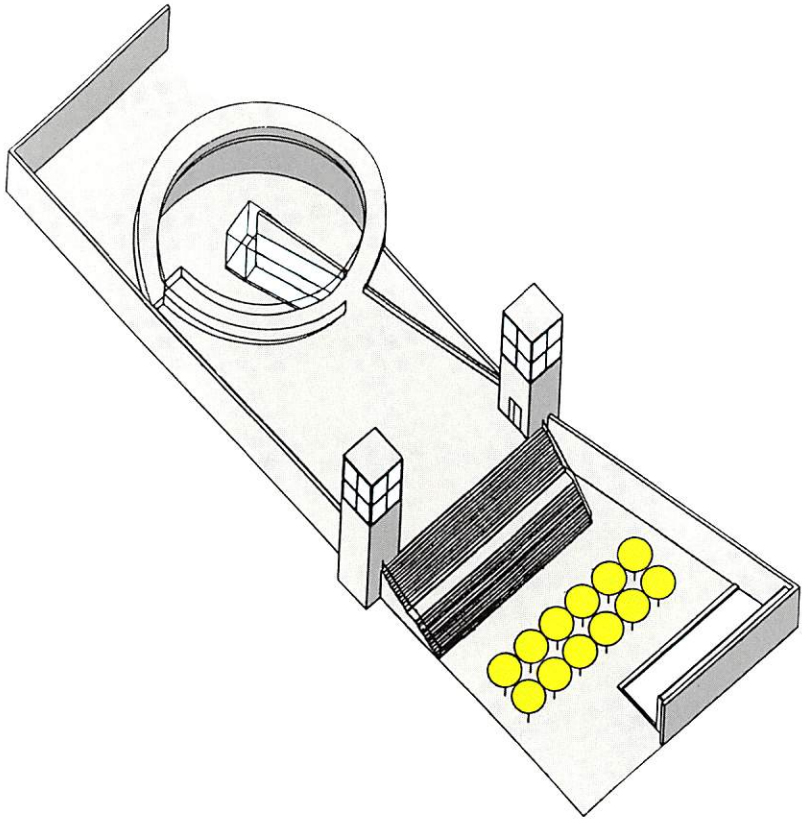
- 建築面積 1,448.83㎡
- 延床面積 2,098.98㎡
- 設計 安藤忠雄

- 構造 鉄骨鉄筋コンクリート
- 規模 地上1階/地下1階
- 総事業費 1,680,568,000円



舟と馬と太陽と

—— 常設展示図録 ——



—— 熊本県立装飾古墳館 ——

(発行・熊本県文化財保護協会)

館の概要

1、館の概要

館のふもとの駐車場で車を降りた来訪者は、森の中の園路をたどり、自然と親しみながら、260mほどの坂道をゆっくりと登って行きます。

現世から、古代黄泉の国への旅立ちです。しばらく行くと急に眼前が開け、館の建物が広がります。さらに、ウォーターカーテンやケヤキの並木の合間を抜け、館の階段を登り、屋上の展望所に立ちます。



6月爽やか、あじさいの道



県駐車場時計台周辺



館のメインシンボルであるチブサン石人

屋上からは、緑に輝く広大な岩原古墳群(国指定史跡)や、阿蘇連峰が遠望されます。目的の肥後古代の森と熊本県立装飾古墳館への到着です。さて、熊本県には、全国にある484例の装飾古墳の、半数近くの186例が所在します。さらに、その中の122例が、菊池川流域に集中して分布しているのです。このため県では、国が提唱した「風土記の丘構想」に基づき、国指定史跡の装飾古墳などが所在する山鹿・鹿央・菊水の3地区の古墳群を「肥後古代の森」と命名して、その整備を進めてまいりました。これら3地区の管理運営とガイドセンター的性格と、装飾古墳の保護・活用、そして研究の場を持つ施設として設置されたのが、当装飾古墳館であります。

装飾古墳に関する常設展示のほか、年2～3回の時宜に合った企画展をはじめ、体験学習や各種イベント、屋外コンサート、3地区史跡巡りなどを開催して、広く県民に親しまれています。

平成4年4月15日の開館以来、丸2年で、すでに約14万人の入館者を数えるに到っています。



装飾古墳館全景（南方よりのぞむ）

2、見どころガイド

(1) 常設展示部門

当館の常設展示は、「菊池川文化」をテーマとして、当地方の各時代を彩った歴史の基盤を、菊池川がはぐくんだ肥沃な菊鹿盆地の経済力に求め、先土器時代から中世末までの歴史を、菊池川流域の各遺跡から出土した遺物によってつづる内容となっています。各展示物に関する歴史的把握が容易なように、年表と並行して展示がなされているのも特色の一つです。

もう一つの常設展示は、本館のメインである「装飾古墳室」です。県内に所在する国指定、県指定の主要な装飾古墳12基の原寸大のレプリカを展示し、ここを訪れることによって、県下の代表的な装飾古墳の石室の構造や文様をすべて把握することができるようになっていきます。国指定史跡の場合、その保護のため一般公開をしていないところが多く、著名な装飾古墳を一堂に集めてある装飾古墳室は、見学者の人気の的となっています。

常設展示としてはこのほかに、地下ロビー展示があります。このコーナーでは、弥生時代の墓制の一つである甕棺葬の甕3点を、時期別に展示します。また、隣合わせに、全国に設置されている「風土記の丘」と資料館を、簡単な解説と写真入りのパネルで紹介します。展示ケース内には、熊



エントランス部カウンター



常設展示室と菊池川流域の地形模型

本県「肥後古代の森」三地区の地形模型を展示しています。

(2) 企画展示部門

このほかに、年2～3回企画展を行う「企画展示室」があります。平成4年度は、前期に「装飾古墳展」、後期に「黒橋貝塚発掘展」、その合間に中間展として「装飾古墳パネル展」を開催しました。

(3) 体験学習部門

これら常設展示部門のほかに、当館が理念として掲げている「県民参加型」博物館の実現のため体験学習室が設けられています。

4年度の体験学習は、休・祝祭日等を利用して「親子古代絵画教室」「縄文土器ってなあに」「土器はどこだ、石器はどこだ」「どんな味かな、どんぐりクッキー」などの体験学習を、小学生・中学生、その保護者を対象に実施してきました。

(4) 視聴覚部門

日常生活ではなかなか体験できない事らについては、映像による擬似体験が得られるように「イマジネーションホール」が設けられています。ここでは、立体映像やハイビジョン方式による映像などを、常時上映しています。縄文時代の食生活の再現や、県内各地の遺跡の紹介などを、子どもたちにもわかるようにやさしい内容で解説します。このほか、装飾古墳室内でも「マジックビジョン」や「検索システム」などの視聴覚機材を使って、各自が装飾古墳についての学習ができるように工夫されています。

(5) 屋外展望施設

館内の展示および各種施設のほかに、屋上には実際の国指定史跡を眺めることのできる展望所が設けられており、ここから双子塚前方後円墳を中心とする岩原古墳群を一望することができます。

(6) 発掘現場再現

古墳館の敷地内には、館の建設に伴う試掘調査時に発見された小円墳3基と石蓋土壙墓2基を、レプリカで再現して屋外展示を行っています。

(7) 館の構造

建物の設計は、安藤忠雄建築研究所があたり、周囲の環境との調和を重視する環境博物館といった発想のもとに完成された施設です。

建物は、岩原古墳群の主墳である双子塚前方後円墳をモチーフとして造られているため、全体が前方後円墳の形をしており、安藤氏独特のコンクリートの打ち放しと曲線の多用で、スティックで簡潔な美



常に新しい情報を提供する企画展示室



体験学習室



「親子古代絵画教室」の作品を手に全員で記念撮影

しさを漂わせています。

敷地面積は6,338㎡、建物延べ面積は2,098㎡で、構造はSRづくりを採用しています。地下1階、地上1階と屋上展望所からなっており、館内へは、屋上から続くらせん状のスロープを下り、エントランス部に導かれます。建物自体のデザインのユニークさと設計者の知名度で、夏季休暇時には、一般入館者以外に建築関係者、大学の工学部建築学科学学生などの来訪も数多く見られます。

(8) 実習棟の建設

県民参加型の博物館を目指す当館にとって、実習棟の新設は開館以来の懸案事項でありました。

このため、開館と同時に、実習棟建設の基本構想の策定に着手すると共に、建設用地の候補地設定を、関係者間で進めてきました。

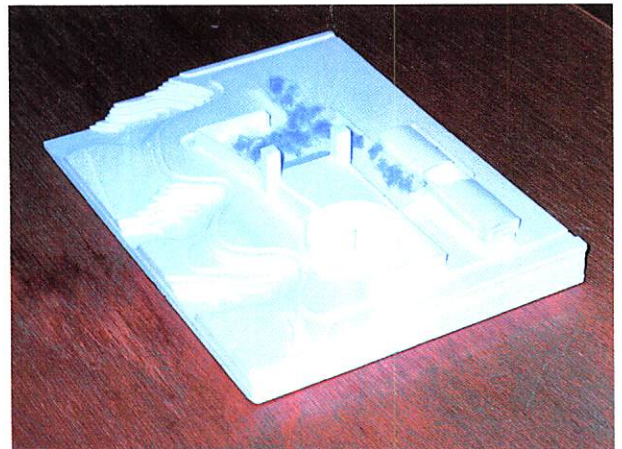
平成5年度当初予算に、土地買収、建設費用を計上し、県財政課の査定を受け、正式に実習棟新設が決まりました。しかし、土地買収が難航し、実際に新設工事に着手するのは平成6年4月13日になります。

実習棟の建設費は、約2億7千万円で、体験学習を実施する「体験実習室」や、集団学習室を中心に、実習準備室（学芸員室）や館長室などが組み込まれています。

今後の活用に県民の期待がよせられています。



ストイックで簡潔な美しさを漂わせる本館の建物



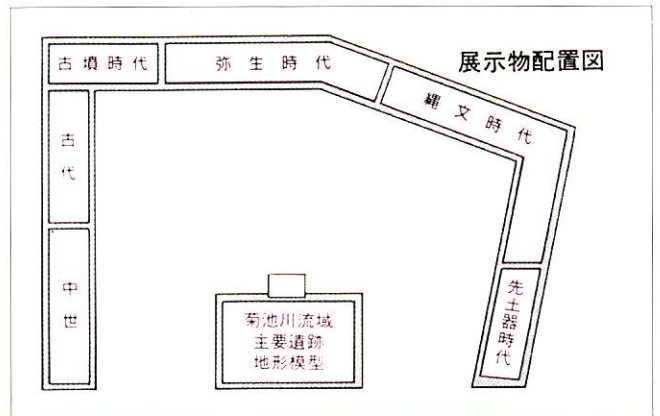
実習棟（別館）のパス（右側建物）

常設展示室

—— 菊池川流域の文化 ——



館内常設展示室の一部



菊池川流域を中心に、先土器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代（飛鳥～平安時代）、中世（鎌倉～室町時代）と、その時代を代表する遺物を展示しています。

また、ボタン1つで各時代の遺跡の所在地が調べられる模型が配置されており、楽しみながら歴史の移り変わりを学ぶことができます。

菊池川の文化



蛇行する菊池川（菊水町白石堰付近）

母なる川

菊池川は、阿蘇外輪山の深葉国有林に源を發し、追間川を始め7つの支流を集め西流して有明海に注ぐ一級河川です。本流の全長は71km、流域面積996km²、流域内に菊池・山鹿・玉名の三市と16町2村、約22万の人口をかかえています。

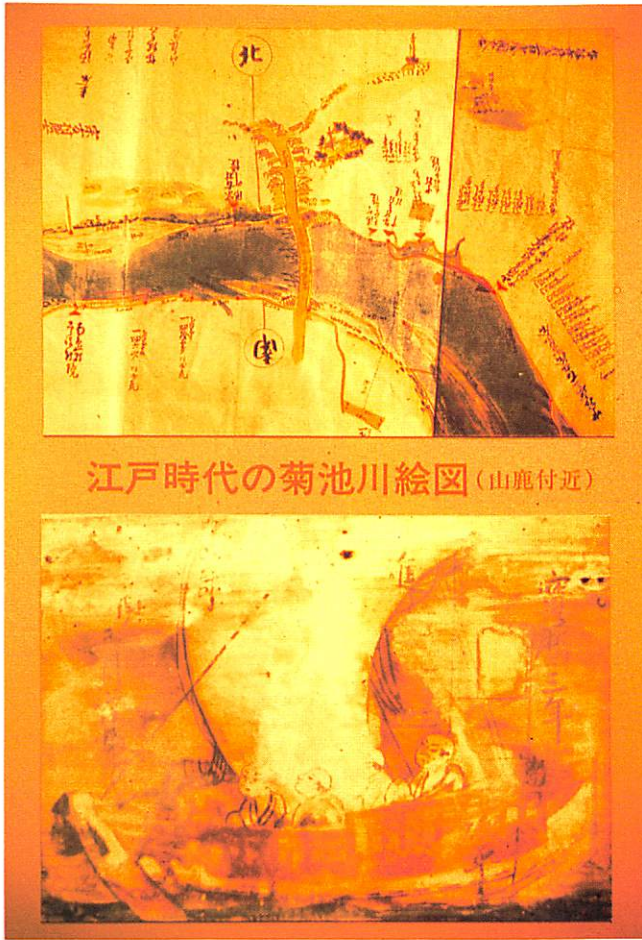
県北の住民にとって、この川は「母なる川」であり、「涙の川」であります。梅雨期には、川沿いの大部分は大氾濫地帯となり、茂賀の浦三千町の湖水伝説を生み、堤防の決壊を防ぐために人柱をたてたという哀しい話もあります。

しかし、定期的に来襲する大洪水は、上流から新鮮で肥沃な堆土をもたらし、菊鹿盆地という一大穀倉地帯を形成しました。

こうした豊かな自然環境に恵まれて、先土器、縄文時代の昔から現代まで、県下有数の文化集積地帯となりました。弥生時代の銅剣・銅矛は、当時の首長が権威の象徴としたものですが、県下約24例の出土のうち、11例がこの流域から出土しております。この事実は、この流域における、いわゆるクニの存在を示すものですが、古墳時代になりますとこの流域には多くの古墳が造られます。特に装飾古墳は、全国の半数近くがこの菊池川流域に集中的に分布しています。

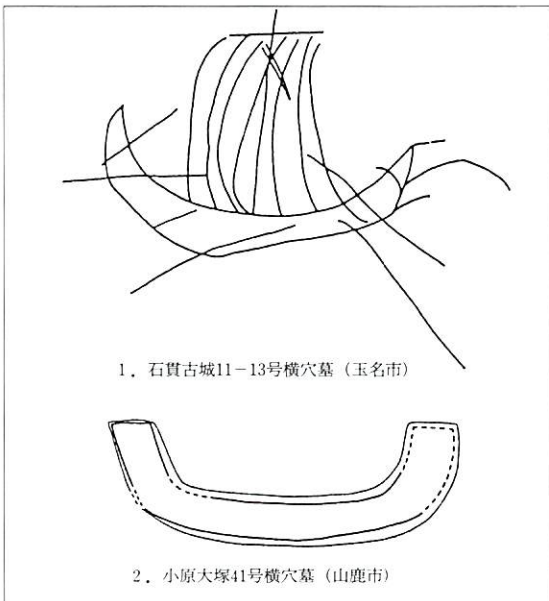


昭和初期の菊池川水運の図（七城町高島における筏流し） 金森一男氏寄贈



江戸時代の菊池川絵図（山鹿付近）

菊池川絵図（上段）と奉納された当時の絵馬（下段）



1. 石貫古城11-13号横穴墓（玉名市）

2. 小原大塚41号横穴墓（山鹿市）

菊池川流域の横穴墓に見られる舟図

また、八角形の建物跡の発見で近来話題になっている菊鹿町の鞠智城跡は、古代における大和朝廷の一大拠点であったと考えられ、遠く朝鮮半島との関連も検討されており。

中世は、菊池一族の時代です。一時九州に君臨したその勢力の基盤は、流域の生産力にあったことは疑いを入れません。

近世の菊池川は、物資輸送の大動脈でした。沿岸の村々から集められた年貢米やその他の物資は川岸の倉庫におさめられ、川平田船に積んで川口に運ばれました。天保年間頃は千艘ちかくの川平田船が川を上下していました。

近・現代になって菊池川の輸送の時代は終わりましたが、ダム、導水路、貯水池等の建設によって、今、新しい産業基盤としての流域の整備が進められています。

当時を語る船絵馬

江戸時代の菊池川の水運を知る資料としては、天和2年（1682）建立の長谷山智徳寺観音堂に、2枚の船絵馬が残っています。内1枚（下段絵馬）は帆かけ船の絵で、高欄に囲まれた船内に4人の人物が描かれています。4人の人物の内3人はちょんまげ姿の男で、他の1人は頭をそった僧侶であることが判ります。朱塗りの高欄（てすり）、および4人の人物が乗合わせているところなどから、高瀬下りの乗合船を写したものと思われます。額面には「寄進寶曆3年（1753）鍋田村次平」等の墨書が残り、白・黒・黄・赤等の顔料で、帆・人物・高欄・船体を塗り分けています。

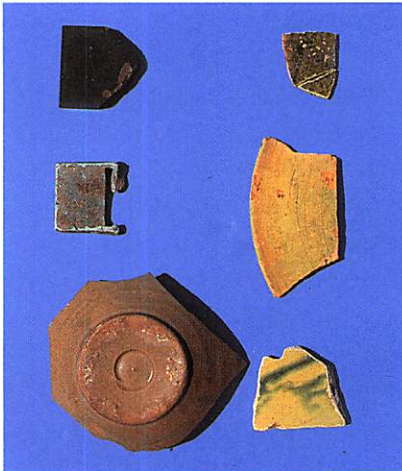
別の船絵馬にも、2人の水夫にあやつられ順風満帆で菊池川を下って行く帆掛船2隻が描かれています。船尾に屋号を染め抜いたと思われる船旗が見られるので、荷物船と思われます。これも先の絵馬と前後する頃のものでしょう。

共に、江戸時代中期頃の、菊池川の水運の情景を写すものとして貴重な資料です。絵馬の奉納されたこの寺は禅の古刹跡ですが、山鹿33所5番の札所として当時も参拝者が多かったようです。特に山鹿湯町商人でも水運関係者の信仰が厚く、堂内に小路忠七・万屋左助・魚屋庄左衛門などの墨書も残っています。魚等の海産物も、このような船で山鹿まで運ばれたものでしょう。

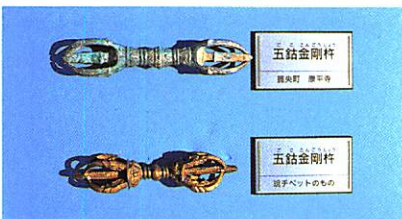
常設展示室の主な展示遺物



④古墳時代



⑤古代（奈良・平安）



⑥中世（鎌倉・室町）

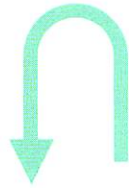


③弥生時代

常設展示室の上の年表と下の展示物とは、ほぼ時期が一致するように配置しております。

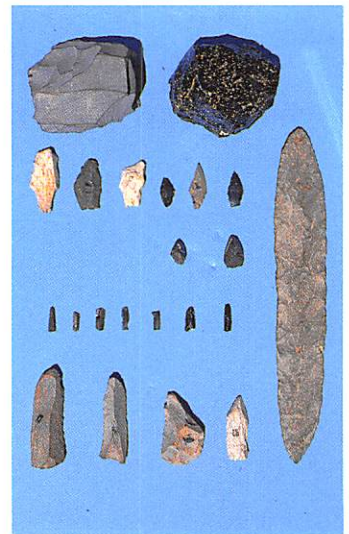


②縄文時代



主な展示物

- ①先土器時代
尖頭器（鹿北町・柿原遺跡）
石核（水俣市・石飛遺跡）
スクレーパー、ナイフ形石器、
細石刃（菊池市・伊野遺跡）
- ②縄文時代
磨製石斧、石盤、石鏃、石錘
（城南町・黒橋貝塚）
- ③弥生時代
鉄斧、手鎌、鉄鏃、
（菊水町・諏訪原遺跡）
鏡（阿蘇町・下山西遺跡）
- ④古墳時代
鉄斧、鉄鏃、鋤先
- ⑤古代（奈良・平安時代）
巡方、蛇尾、緑釉陶器、三彩、
青磁碗（鹿本町・御宇田遺跡）
- ⑥中世（鎌倉・室町）
五銖金剛杵（鹿央町・康平寺）
和鏡、滑石製品
（荒尾市・前田遺跡）
權（鹿央町・日羅山）



①先土器時代



菊池川流域地形模型



順路

先土器時代

先土器時代

人類の祖先は、今からおよそ200万年まえ、アフリカ大陸でサル仲間である類人猿から別れたといわれています。その後、猿人・原人・旧人・新人へと進歩を遂げます。われわれ現代人の直接の祖先は、この新人の仲間でおおよそ3万年以降の人々を指すと考えられています。

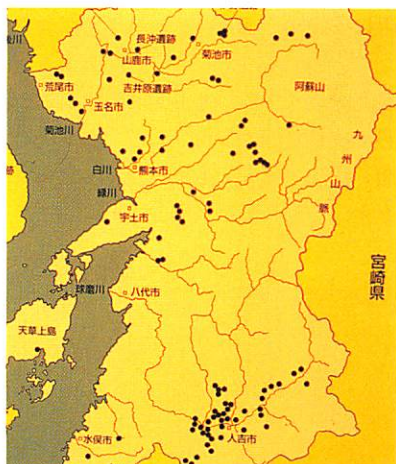
人類の時代である180万年前から1万年前は、「氷河時代」とも呼ばれています。この「氷河時代」には海水面が下がり、日本列島とアジア大陸とが度々陸続きとなりました。そこでマンモスやナウマンゾウなどの動物と同じように、先土器時代の人々もアジア大陸から渡ってきたことが想像されます。

日本列島は、酸性の土壌が多く人骨の保存には適しません、^{あかし}明石原人^{げんじん}ほか数例の化石人骨の一部が発見されています。

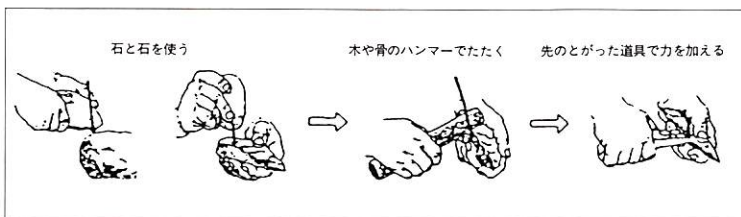
最近、全国各地でたくさんの遺跡が発掘されていますので、完全な姿の化石人骨が発見されるのも夢ではありません。



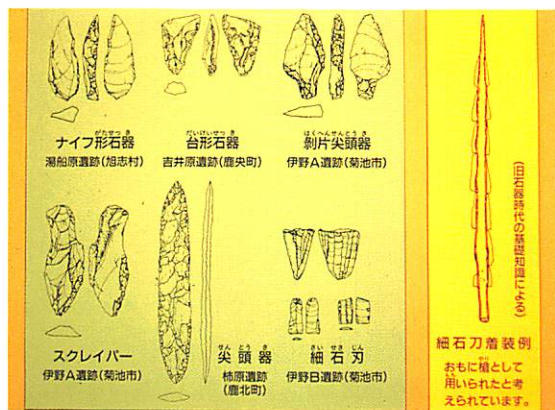
2万年前の日本列島と哺乳動物
氷河時代の日本は、海面が下がり、大陸と陸つづきとなったため、さまざまな動物が渡ってきました。



先土器時代遺跡分布図
熊本県内の先土器時代の遺跡は、現在107ヶ所が知られています。この中で菊池川流域には18ヶ所が集中し、上流から下流までくまなく分布しています。



石器のつくり方 (LIFEネーチャライブラリーより)



道具のいろいろ

先土器時代の人々が使った道具には、さまざまなものがあります。代表的なものを紹介しましょう。

石器の材料には、黒曜石や安山岩など、硬くて加工しやすいものが利用されました。

ナイフ形石器

石器の一部に「刃潰し加工」という独特の加工が施されています。主に動物の皮や肉を切るのに使われたと考えられています。

台形石器

剝片尖頭器

スクレイパー

木や骨を削るなどの加工や、動物などの解体に使われていたと考えられている「削器」と、動物の皮なめしに使われたと考えられている「搔器」の2種類があります。

尖頭器

槍の先端に付け、狩猟の道具として使われたと考えられています。

細石刃

木や骨の槍先状の両側に溝を掘りこみ、溝に埋め込んで使われたと考えられています。

縄文時代

縄文時代

縄文時代はC14年代等によれば、約12,000年前には始まり、約2,500～2,200年前ごろに終わると考えられています。この時代に使われた土器を縄文土器とよび、現在知られるかぎり世界で最も古い土器といわれています。

縄文土器は食物の煮沸容器として発達したことから、主に植物性食料に大きく依存していたことが分かります。とくにドングリのあく抜き技術の発達とむすびついて、縄文人の植物食文化はおおいに発展しました。

いっぽう弓矢は縄文時代のはじめから出現していて、狩猟活動も盛んに行われていたことが分かります。このように縄文時代は採集・狩猟を中心とした生活が中心でしたが、前代の先土器時代と大きく異なるのは、魚や貝をとる漁撈活動が盛んで、全国各地に多くの貝塚が残されているという点です。こうした食料確保のためのさまざまな活動や折からの気温の温暖化によって、縄文人の生活は安定し、集落をつくり定住生活が実現しました。

この時代にもっとも多く出土し、変化に富んだ遺物は縄文土器です。これらの土器をもとに、考古学では土器の形や文様の変化によって、縄文時代の約1万年間を草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6時期に区分しています。



ドングリの貯蔵穴（曾畑貝塚）



散乱する貝殻（御領貝塚）



縄文人の四季

縄文人の四季

四季の移り変わりの中で、縄文人の食糧獲得の方法や手段も変化して行きました。それぞれの季節での生産活動の中で、住居をつくり、土器を焼き、石器を作っていました。これらの活動は一年をとおして、計画的に行われていたと考えられています。



前期（曾畑貝塚）



早期（大丸藤ヶ迫遺跡）

早期（中後迫遺跡）



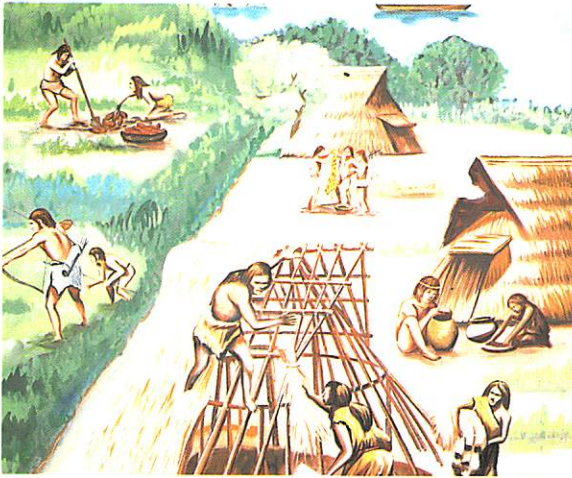
晩期（天城遺跡）



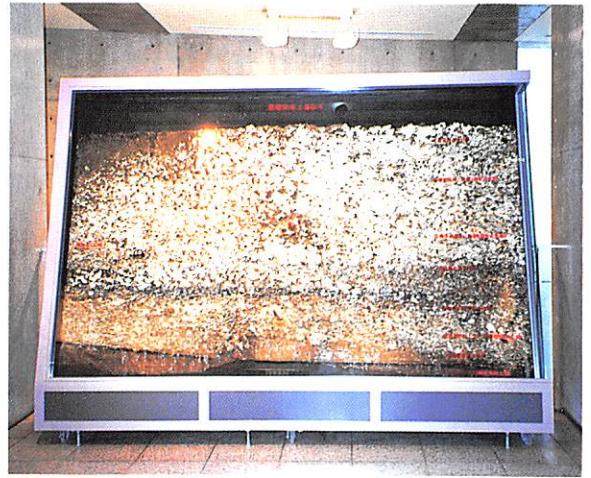
後期（古閑遺跡）



中期（黒橋貝塚）



縄文人の住居（菊水町提供）



黒橋貝塚の貝層転写展示（現物）

黒橋貝塚とは

下益城郡城南町下宮地にある縄文時代中期(約4500年前)の遺跡で、緑川支流である浜戸川の河川敷に位置しています。一帯は海拔3～6mの低湿地にあり、また、遺跡の一部は国指定史跡として保存されています。この遺跡の南西約400mには阿高貝塚(縄文時代中期、国指定史跡)、南側700mには御領貝塚(縄文時代後期、国指定史跡)があり、この一帯は熊本での貝塚の密集地帯といえるでしょう。

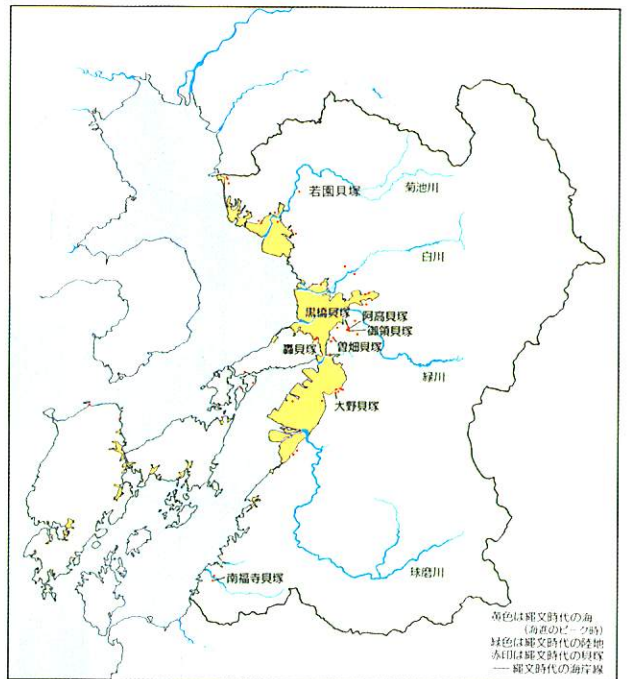
A. 人工遺物

材料 粘土・石・骨・歯・木・草

土器	阿高式土器・南福寺式土器・出水式土器
石器	〔工具〕 打製石斧(だせいせきふ) 磨製石斧(ませいせきふ) 石のみ 石錐(せきすい) 紡錘車(ぼうすいしゃ) 〔狩猟具〕 石鏃(せきぞく) 石槍(せきそう) 〔調理具〕 石匙(せきひ) 石皿(いしざら) 磨石(すりいし) 〔漁具〕 石錘(せきすい) 石製浮子(せきせいりうき) 〔工具〕 骨角製へら状工具 角製工具 〔装身具〕 筭(こうがい) 骨製耳飾り(ほねせいみみかざり) 牙製耳飾り(きばせいみみかざり) 牙製腕輪(きばせいりうわ)
貝製品	〔工具〕 貝刃(かいじん) 〔装身具〕 貝輪(かいわ、腕かざり)
土製品	〔工具〕 紡錘車(ぼうすいしゃ) 〔装身具〕 土製耳飾り

B. 自然遺物

貝類	〔鹹水性貝類〕 二枚貝 マガキ・イタボガキ・ハマグリ・ハイガイ・サルボウ・アカガイ・カガミガイ・オキシジミ 巻貝=サガエ・テングニシ・アカニシ・ウミニナ・スガイ・ヒメミミガイ
魚類	〔汽水性貝類〕 二枚貝 ヤマトシジミ
哺乳類	〔淡水性貝類〕 巻貝=カワニナ・タニシ マダイ・クロダイ・スズキ・ボラ・イワシ・エイ・サメ
植物類	〔陸上〕 犬・イノシシ・ニホンジカ・タヌキ・テン・ウサギ 〔水中〕 クジラ・イルカ カシ・シイ類のどんぐり
糞石	人や犬の糞が貝層のなかで化石化したもの。



熊本県下における主要貝塚の分布図



出土した縄文人の骨（伸展葬）

弥生時代

弥生時代

弥生時代は、紀元前300年前頃から、紀元後300年頃までをいい、前・中・後の三期に分けています。

この時代は、日本にとって一大変革期で、大陸から稲作農耕と金属器の使用が伝えられたのです。

北部九州に伝えられた稲作技術は、瞬く間に日本中に広まります。菊池川水系では、無田原遺跡(大津町)、岡田遺跡(七城町)、中道貝塚(岱明町)や齊藤山貝塚(天水町)等に前期の遺跡が残されています。

中道貝塚からは、炭化した籾殻が採取されていますし、齊藤山貝塚出土の鉄斧は、前期のものとして全国的に知られています。県内での稲作技術は、有明海沿岸から内陸部へと伝わっていったようです。

稲作が本格化すると、人々は一定の土地に定住し、「ムラ」ができます。ムラは、話し合いや、ムラ同士の戦いによって、まとまっていきます。

こうして、弥生時代の後期になると、非常に大きなムラが各地に出現します。菊池川流域では、うてな遺跡(七城町)や、諏訪原遺跡(菊水町)がそれでしょう。これらのムラは、さらに合併を繰り返し、やがてその中から、中国と国際的交流をする有力な「クニ」も出現するようになります。奴国や邪馬台国等の名が、中国の文献に登場するのも、この頃のことです。

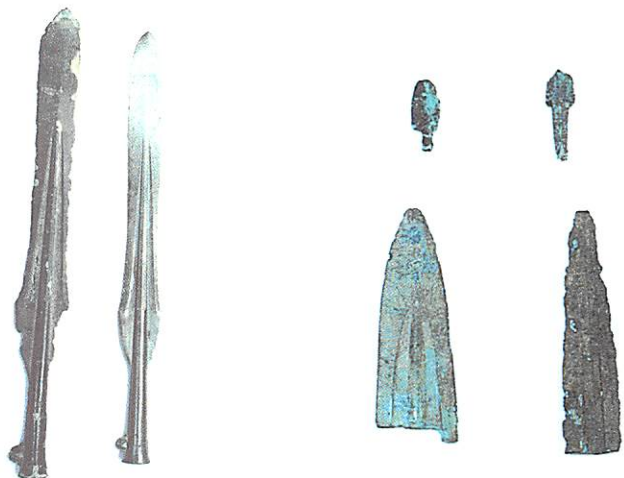
クニが大きくなっていく過程では、大きな戦闘も繰り返されたことでしょう。石鏃の刺さった人骨の出土は、その過程を物語っているようです。



空から見た二子塚遺跡(嘉島町)



熊本をイメージする免田式土器



菊池川流域出土の銅鏃

弥生時代の銅鏃と銅戈・銅剣片

弥生時代の住まいと墓

この時代の人々は、水稲耕作の関係で低地に定住し、集落をつくり竪穴住居に住みました。写真は、菊水町の諏訪原遺跡から発見されたベッドをもつ家の跡です。

一般にこの時期の集落の周囲には、二重、三重の環濠が巡り、集落を護っております。

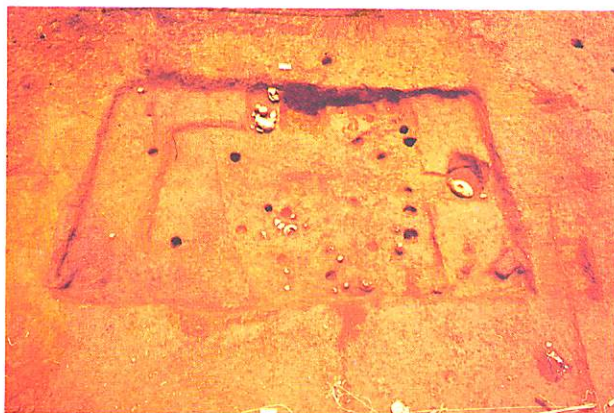
黄金色の稲穂が風になびく、一見平和なイメージの弥生時代も、実は、外敵の侵入と略奪を恐れる動乱の時代でもあったのです。

墓は、集落の近くに設けられましたが、諏訪原遺跡の場合は、隣接する現九州自動車道の菊水インター辺りに営まれていたようです。甕棺墓が一般的ですが、木棺墓や支石墓等もみられます。

石・銅器から鉄器へ

弥生時代は、石器から青銅器、そして鉄器へ変化していく時代です。日本の場合は、青銅器と鉄器の文化がほぼ同時に伝えられ、これらが併用された時期もありました。

この時代、稲の穂をつむ用具として石包丁が使われましたが、方保田遺跡(山鹿市)からは、石包丁と共に鉄製の包丁も出土しており、この事実を裏付けています。下図の石戈は、玉名市の菊池川川底から発見されたもので、木製の柄部がまだ残っていました。



弥生時代の竪穴住居



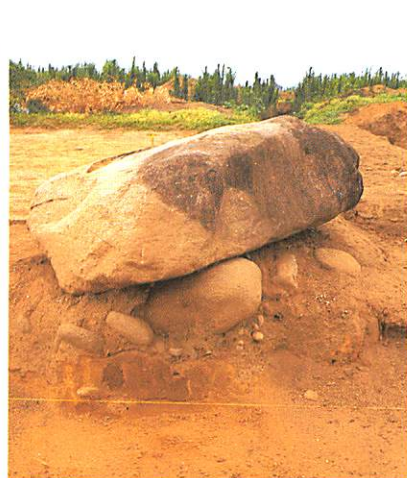
弥生時代の木棺墓



石包丁・石戈



鉄製包丁



弥生時代の支石墓

古墳時代

古墳時代

古墳時代は、3世紀末から7世紀までをいい、一般に4世紀を前期、5世紀を中期、6世紀・7世紀を後期に分けます。

この時代は、鉄器の普及、耕地の拡大、灌漑技術の発達で、本格的な農業生産にまで進んだ時期です。

古墳時代には、その名のとおり全国に多くの古墳が造られました。それは各地にできた小さな「クニ」を治めた豪族達が残したお墓です。

当、菊池川流域でも、多くの古墳が造られました。

その中には、大和朝廷の墳墓の形式である前方後円墳も数多く造られています。

このことは、この地方が、大和朝廷の全国支配の組織のなかに、組み込まれていたことを意味します。

また、生活の場で使われる土器・用具等からも一地方特有の特色が薄れて、全国共通する現象が著しくなってきます。これらの現象も、当地方が、全国組織の一部に組み込まれたあかしと言えるでしょう。

当然、国内での技術の交流はあったでしょうし、大陸からの技術の導入も、幾多の渡来人達によってなされたことでしょう。江田船山古墳出土の大刀の銘文に、大陸系の人名が見られるのも、それを裏付けるものと思われま



津袋大塚古墳（鹿本町）



茶臼塚古墳（鹿本町）



朱塚古墳の石室



方形周溝墓（鹿央町）



江田船山古墳出土の冠帽



左 同古墳出土の耳飾り

古墳時代の人々の生活

この時代の一般農民は、竪穴住居に住み、素焼きの土師器をものの煮炊きや、食事の際の器として使用し暮らしていました。

5世紀に入ると、大陸から新しい種々の技法が伝えられます。その中には、須恵器と呼ばれる成形にロクロを用い本格的な窯で焼く、硬い焼き物の技法も伝えられました。

そして、従来の土師器は主に煮沸容器に、須恵器は主に物の貯蔵容器に、供膳容器には両方が用いられるといった形で、人々の生活のなかに溶け込んでいったのです。

また、人々は屋外にあっては、耕地を広げるための苦しい努力を続けていました。水がかりの良いところは水田に、悪い所は畑地として開墾していったのです。

これら、農耕社会を反映してか、精神面では、ものを写す鏡への崇拝、人を害する悪霊への恐怖心等が知られます。

古墳に近寄る悪霊への畏怖の念から、魔除けのための武具等の彫刻等が、古墳の内外に施されているのです。これら彫刻等も、装飾古墳の仲間に入っていますが、当時の人々の考え方の一端を知ることができ、興味深いものがあります。



炉のある竪穴住居



塚坊主古墳出土の鏡



竈付きの竪穴住居



鞭を刻んだ石材



土師器



須恵器

古代の菊池川流域

古代の菊池川流域

肥後の古代における歴史上の具体的場所が、中央の国の記録に残った例は、極めて少なく、自然では阿蘇山の噴火、歴史的なものとしては鞠智城(現菊鹿町所在)や、浄水寺(現豊野村所在) くらいがその主なものとしてあげられます。

鞠智城は、7世紀代律令国家を目指す大和朝廷によって築城された古代の山城で、大宰府(大和朝廷の九州統括と対外交渉の基地)の支配下にあった六城のうちの一つです。

鞠智城をつくるにあたり、どうしてこの地が選ばれたかは学説が分かれるところですが、弥生・古墳時代に引き続き菊池川が育んだ肥沃な土地を基盤にした繁栄が、設置の一遠因であったことは事実でしょう。

それから200年程後、律令国家の衰退とともに、幾多の防人と共にあったこの城も終焉を迎えます。

この他、菊池川流域には、十指にも及ぶ古代寺院や、平安時代前期の赤水水溜遺跡(菊池市)をはじめ御宇田遺跡(鹿本町)等の古代集落跡や、駅家跡と思われる奈良時代の駄の原遺跡(鹿央町)等があり、かつての繁栄を物語っています。御宇田遺跡からは、越州窯青磁、緑釉陶器、三彩等の外来の焼物や、役人が着用したと思われる銅製鉈尾が出土しており、ある時期における「郡家」等の役所の存在も推定されます。駄の原遺跡からは、5棟の倉庫跡と4軒の住居、遺物としては刀子や鉄鏃の外、円面硯や「舎人」「注下」と書かれた墨書土器等多数が発見されています。

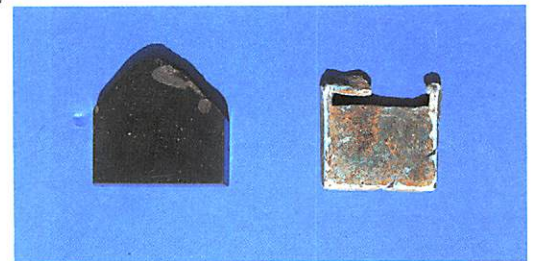
また、高さ50mの不動岩(山鹿市)の根元からは、久安元年(1145)銘のある滑石製経筒(県指定文化財)が出土しており、当時の仏教信仰の一端を物語っています。

菊池川流域関係略年表(古代)

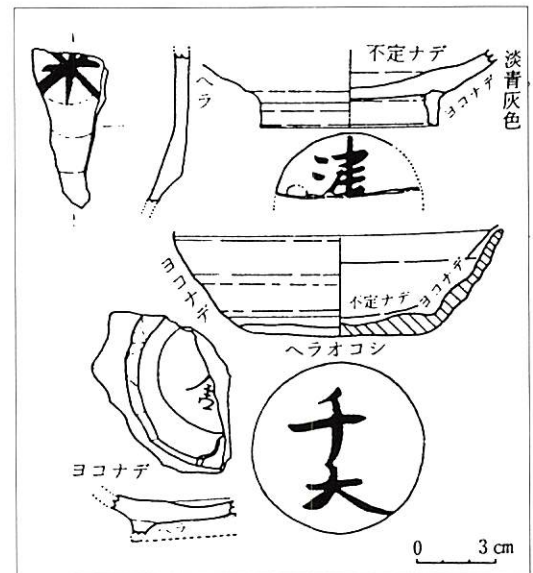
飛鳥時代	645	大化の改新
	663	日本軍白村江で破れる
奈良時代	698	鞠智城を修繕する
	710	平城京に遷都
	713	筑後風土記逸文に山鹿市の彦彦の名がみえる このころの「山鹿郡紫野白」と書いた木簡が出土 このころの「山鹿郡妙法」と書いた木簡出土
	743	合志郡井出原禰房で大般若経が写される このころ立願寺廃寺が建立される(8世紀後半)
	790	浄水寺に延暦9年の石碑がたてられる。
平安時代	794	平安京に遷都
	840	玉名郡の定野社を官社とする。 このころ十蓮寺(七城町)ができる このころ赤水水溜遺跡(9世紀)
	858	鞠智城の不動倉11棟焼ける 鞠智城院の兵庫の太鼓がひとりでに鳴る
	859	合志郡の一部を独立させて山本郡をおく
	876	合志郡の目下部辰吉が白亀を政府に献上する
	879	群島が菊池郡の倉倉のふきくきをかみぬく 大島の二群が玉名郡倉の上を西にないて飛ぶ
	1019	刀伊が攻めている
	1092	山鹿庄が白河院の荘園となる
	1097	山鹿庄が白河院から醍醐無量光院に寄進される
	1045	不動岩の根元に凡尊寺経筒が埋納される
1185	平氏滅ぶ	



鞠智城の八角形の建物



石製巡方と銅製鉈尾



駄の原遺跡出土の墨書土器

古代（奈良・平安）の生活と信仰

農村では、やはり前時代と同様、竪穴住居に住み、倉庫等は共同管理をしていました。ものの煮炊きの甕、なべそして食器には、殆ど土師器が使われました。

死ぬと、庶民も上層階級も、一部火葬を除いて土葬が一般的でしたが、上層階級の場合、墓に埋葬時に使った土器、化粧用具（鏡、毛抜き、刀子、紅入れ）等を伴う場合が多いようです。

平安時代に入ると、当地方にも仏教が広まり、地方役人を兼ねる土豪達によって寺院が建立されました。山鹿市の中村廃寺もそのような寺院の一つで、三重塔の心礎石等が残っています。また、不動岩の根元から出土した経筒は、その銘文から平安時代の終わり頃に、末法思想の影響のもと、僧「慶有」によって埋納された事が分かります。



当時の庶民の住居跡（鹿央町）



中村廃寺塔心礎石（山鹿市）



日用雑器類（鹿央町出土）



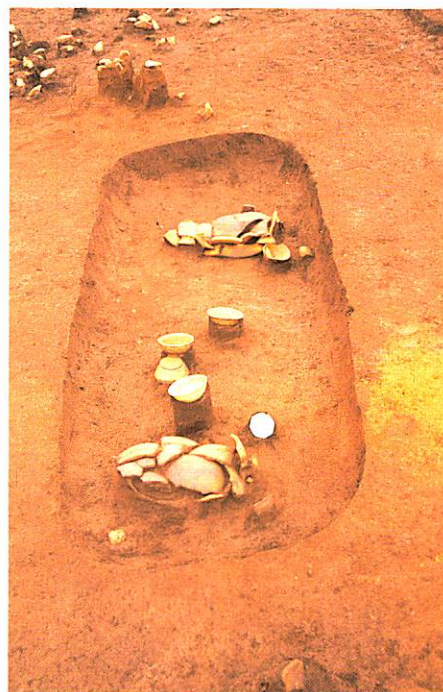
中村廃寺出土の軒丸瓦と鬼瓦（左鬼瓦は稲佐廃寺）



凡導寺の滑石製の経筒



経筒銘の拓本



奈良時代の土葬墓

中世の菊池川流域

中世の菊池川流域

菊池川流域における中世は、農村を基盤とする地元の土豪菊池氏の活躍の時期とほぼ重なりながら展開していきます。

菊池氏は、刀伊の入寇のさい奮戦した大宰府の府官藤原蔵規の子孫で、当初菊池川右岸に本拠地を置きます。平安末期から菊池郡内の中心勢力であった菊池氏は、元弘3年(1333)武重が肥後守となって以来、代々国主もしくは守護として肥後一国を統制するようになります。

前後して、菊池氏は、本拠地を現菊池神社の所在する菊池城に移し、南北朝時代には、南朝方に属し征西將軍宮を奉じ活躍します。その館跡は土居の外などの地名や出土遺物等から、城の麓の現菊池高校敷地一帯にあったと思われます。その間、菊池氏は麓集落である隈府(菊池市)を中心に菊池川流域に防備体制(十八外城制)を確立し、菊池川水運の整備や山鹿温泉の改修、朝鮮との貿易や菊池の孔子廟の設置に活躍します。

しかし、戦国期にはいと、家臣団に乱れを生じ、当主の夭折等と相まって間もなく菊池氏は滅亡します。その後家臣の勢力が増大し、戦国末期になると赤星氏や隈部氏が相次いで菊池城に入城し、隈部氏の行動は、城村城(山鹿市)や田中城(三加和町)を舞台とする国衆一揆を引起こす契機となります。国衆を代表する隈部親永は、国主佐々成政と城村城を中心として戦いますが、翌年隈部氏ら国衆も、佐々成政も、豊臣秀吉によって喧嘩両成敗で一挙に処分され、肥後における中世は終わりを告げることとなります。

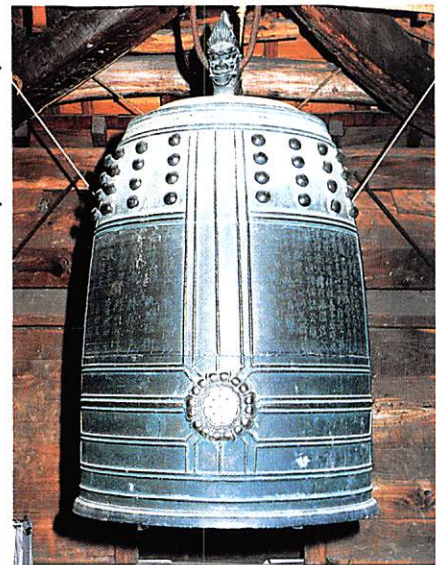
関連する中世の遺跡としては、隈部館(県史跡)、田中城(県史跡)等の城館跡や寺院跡、墳墓等が数多く残っています。

菊池川流域関係略年表(中世)

鎌倉時代	1192	源頼朝が征夷大將軍となる
	1193	紀国隆が玉名郡大野別府地頭となる。 このころ、オプサン古墳前室に地元有力者の追葬が行われる(12世紀)
	1221	菊池氏・築室氏朝廷方につく
	1247	小代幸俊が玉名郡野原庄の地頭となる
	1274	元軍の来襲
南北朝時代	1333	菊池武時・阿蘇惟直が九州探題を攻める 鎌倉幕府滅ぶ
	1334	建武新政はじまる
	1338	菊池武重が筑後平定・武重起請文
	1358	正平13年の南朝年号の銘のある梵鐘ができる
	1359	筑後川の戦い
	1361	菊池武光が大宰府を占領する
	1369	西福寺の磨崖仏ができる
	1375	菊池水鳥の戦い
1378	託麻原の戦い	
1381	隈府城がおちる	
室町時代	1392	南北朝朝合
	1446	菊池為邦が朝鮮に遣いをおくる
	1470	菊池重朝朝鮮に書状をおくる
	1477	重朝が隈府で釈奠の礼を行う
	1520	菊池武包が追われ菊池氏正系が滅ぶ
	1559	菊池氏の三家老の争いが激しくなる
1573	室町幕府滅亡	
安土桃山時代	1587	肥後国主として佐々成政入国 国衆一揆起こる(城村城)



菊池氏の菩提寺・日輪寺(山鹿市)



正平銘日輪寺梵鐘



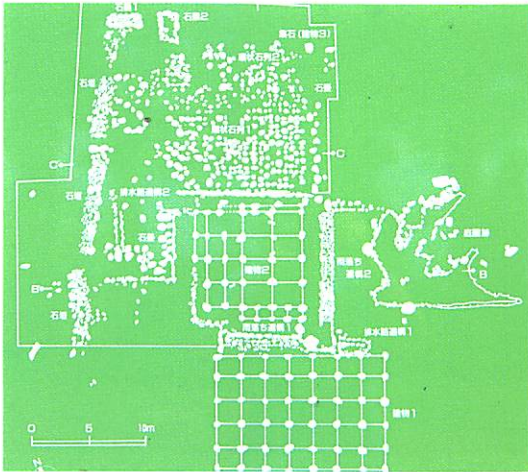
正平銘西福寺磨崖仏(山鹿市)



正平銘の白山宮の罎口（鹿央町）



隈部館の入口樹形部



隈部館の建物と庭園配置図



隈部館の庭園

隈部館とは（県指定史跡）

館は、菊鹿町上永野の眺望のきく山腹にあります。有力国衆の一、隈部氏歴代の居館跡です。堅固な土塁、石塁、空堀に守られた館敷地には、当時の対面所や茶室、居間等の礎石が良く残っています。

居間は、建物群の一番奥にあり、床は、転ばせ根太の手法がとられています。炉も部屋の2ヶ所に設けられています。

また、茶室に面して作庭された庭園は、手前に向拝石、次に心字池、奥に三尊石を配した禅宗系の、座観式の庭園です。

戦国末期の動乱の時代を生き、城村城で国衆一揆（1587）を指揮した隈部親永も、この庭園を見て、暫し、心ませた時期もあったことでしょう。

館の麓には、隈部氏の菩提寺である清潭寺が、古塔碑群とともに残っています。



肥後中世の終焉地・城村城（山鹿市）

装飾古墳室

—— 花開いた装飾古墳文化 ——



本館のメインの装飾古墳室

菊池川流域の装飾古墳

熊本県が他県に誇りうる文化財は、装飾古墳と眼鏡橋です。装飾古墳は全国で484基位あると推定されていますが、その内の186例（平成4年3月31日現在）が熊本県内に分布しています。186例の内訳は、石棺・石室が68例、横穴墓が118例となっています。また、驚くことにそれらの過半数が、山鹿を中心とする菊池川流域に集中しているのです。

山鹿には、チブサン古墳、弁慶が穴古墳、鍋田横穴墓群などの国指定の史跡や、馬塚古墳、オブサン古墳、長岩横穴、岩原横穴墓等の県指定の史跡が数多く残されています。

その菊池川流域における装飾古墳の集中的分布の背景をさぐり、装飾古墳の研究と保護を使命として新設されたのが当熊本県立装飾古墳館であり、館の存在意義もそこにあるといえましょう。

装飾古墳室を観覧するに当って

●熊本県の主要装飾古墳分布図



九州装飾古墳三つのタイプ

北九州から中九州、東九州は装飾古墳が多く分布している所ですが、古墳の造り方や装飾の仕方から、次の三つのタイプに分けることができます。

筑後型 —— 割石を積んだり巨石を組んで長方形の石室を造り、彩色を主とした人・馬・鞍・楯や幾何学文様を描いたもので、筑後川流域から菊池川を中心に分布しています。

肥後型 —— 割石の小口積みで石室は方形。装飾は円文を中心に鞍や楯などを配したものが多く、熊本平野から県南部さらに天草地方にかけて分布します。

近畿型 —— まだ一般に定説化されていませんが、近畿つまり中央勢力の影響下に成立したものではないかと推定して、近畿型と呼ぶことにします。

横穴式石室や横穴墓の壁面に釘の先で引っかいたような技法で、帆掛け舟とか人物・鳥・木の葉などを自由な画風で表現したもので、九州各地にも類例が多くみられます。

● 全国装飾古墳分布図

中国で、古墳に壁画や装飾が現れるのは、後漢の時代からです。それが朝鮮半島北部の高句麗に伝わり、4～5世紀には最盛期を迎えます。

日本の古墳に装飾や彫刻が現れるのは、5世紀からです。最初は九州の中西部の有明海東岸に現れ、その後、瀬戸内海、近畿、関東、東北に広がるのが7世紀頃と考えられています。装飾古墳の分布の北限は、宮城県の川北横穴墓群等で、北海道には発見されていません。また、関東・東北で装飾をもつ墳墓は、ほとんどが横穴墓です。

装飾古墳の図柄は、最初に、交差する斜線の中に様々な弧線を配した直弧文や円文・三角文・菱形文が現れ、次に靱・弓・楯・刀・人物等がこれに続きます。

図柄が時代によって異なるのは、古い時代には、呪術性や宗教性が極めて強かったからであろうと思われます。それが古墳時代も後期になると、次第に具体的な武器や人物像・動物等の図柄へと変遷していきます。

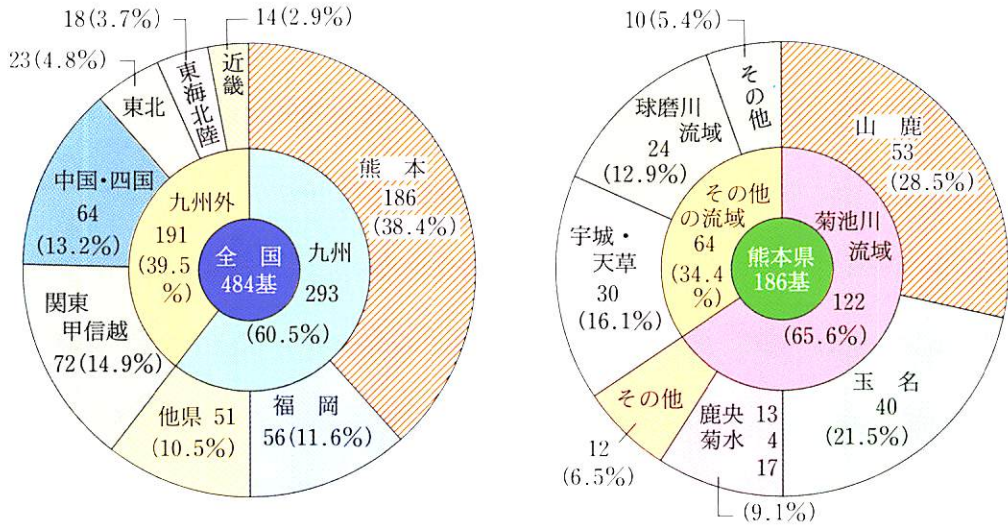


全 国 主 要 装 飾 古 墳 一 覧 表

所在地	番号	装飾古墳名	所在地	番号	装飾古墳名	所在地	番号	装飾古墳名	
宮城県	1	川北横穴墓群	神奈川県	58	千葉谷横穴墓群	鳥取県	117	三明寺古墳	
	2	迫戸横穴墓 A 地区 2 号		59	洗馬谷横穴墓		118	福庭古墳	
	3	亀井横穴墓 2・3 号		60	森久谷横穴墓 7 号		119	上神古墳 48 号	
	4	大迫高岩横穴墓 18 号		61	新林横穴墓 1 号		120	横手古墳 5 号	
	5	山畑横穴墓 6 号・10 号・15 号		62	杉久保横穴墓群		121	長和田古墳 20 号	
	6	矢本横穴墓 28 号		63	岡田横穴墓 2 号		122	久見古墳 17 号	
	7	愛宕山横穴墓 1 号		64	万田宮ノ入横穴墓 2・6・7・8 号		123	北福古墳 4 号	
	8	大年寺山横穴墓 11 号		65	清水北横穴墓 1 号		124	西穂波古墳 9 号・27 号	
福島県	9~10	山上横穴墓・船着横穴墓群		66	庄ノ久保横穴墓		125	土下古墳 229 号	
	11	羽山横穴墓 1 号		67	堂後下横穴墓 9・12 号		126	天神塚神社古墳	
	12	滑戸追横穴墓 76 号		68	たれこ谷ノ西横穴墓 20 号		127	長者ヶ平古墳	
	13	滑戸追 A 横穴墓 7 号		69	大目ノ窪横穴墓 14 号	島根県	128	飯の山横穴墓	
	14	福高追横穴墓 1 号		70	諏訪脇横穴墓 4 号		129	土王免横穴墓	
	15	岩井追横穴墓 4 号		71	飯取横穴墓 4 号		130	丹花庵古墳	
	16	泉崎横穴墓	山梨県	72	丸山塚古墳		131	狐谷横穴墓群 6 号・12 号	
	17~18	中田横穴墓・館山横穴墓 6 号	静岡県	73	兎沢 9 号古墳		132	深田谷横穴墓	
茨城県	19	かんぶり穴横穴墓 2・11・14 号		74	観音堂横穴墓群 3・10 号	岡山県	133	鶴山丸山古墳	
	20	原塚古墳		75	菅ヶ谷横穴墓 B-3 号		134	千足古墳	
	21	猫塚横穴墓 9 号		76	字刈横穴墓 B-11 号	香川県	135~136	豊ノ尾横穴墓・山ノ尾横穴墓	
	22	幡横穴墓 6・12 号		77	春岡横穴墓 B-3 号	135~136	宮ノ尾古墳・岡古墳 1 号		
	23	須和間 12 号墳	愛知県	78	大塚塚古墳	福岡県	140	瀬ノ横穴墓	
	24	白河内古墳	福井県	79	牛ノ島古墳		141	羅漢山横穴墓	
	25	権現山横穴墓 2 号		80~81	小山谷古墳・山頂古墳		142	古墳横穴墓	
	26	増井古墳	奈良県	82~83	高松塚古墳・キトラ古墳		143	上手の内横穴墓	
	27	虎塚古墳		84	水鏡古墳		144	桜京古墳	
	28	殿塚古墳	大阪府	85	高井田横穴墓群		145	一本松塚古墳	
	29	吉田古墳		86	安福寺境内石棺		146	竹原古墳	
	30	花園 3 号墳		87	安福寺横穴墓群		147	王塚古墳	
	31	船玉古墳	和歌山県	88	寺山 15 号墳		148	吉武古墳 7 号	
	32	太子古墳	兵庫県	89	佐江照門寺境内石棺		149	剣塚古墳	
埼玉県	33	地塚塚古墳	鳥取県	90~91	高江 6 号墳上野 6 号墳		150	権現塚古墳	
千葉県	34	押日横穴墓 3 号		92	美敷古墳 41 号・43 号		151	五郎山古墳	
	35	池和田横穴墓群		93	宮下古墳 19 号・20 号・22 号・32 号		152	観音塚古墳	
	36	大和田横穴墓群		94	鷺山古墳		153	仙道古墳	
	37	外部田ノツ横穴墓群		95	明屋古墳 30 号		154	狐塚古墳	
	38	鹿島横穴墓 3 号		96	畑山古墳 1 号		155	宮地塚古墳	
	39	組根方横穴墓群		98	梶山古墳 1 号		156	黒部古墳 6 号	
	40	岩井作横穴墓 3 号		99	坊ノ塚古墳		157	山田古墳 1 号	
	41	大瀧横穴墓群		100	広岡古墳 37・38 号		158	百留横穴古墳 1 号・2 号・3 号	
	42	東山横穴墓群		101	越路古墳 54 号		159	穴ヶ葉山古墳 1 号・2 号・3 号	
長野県	43	吉 3 号古墳		102	空山古墳 2・9・10・15・16 号		160	山ノ下古墳	
神奈川県	44	久地西前田横穴墓 3 号		103	宇野野山古墳 13・16 号		161	下馬場古墳	
	45	平瀬川庭道際横穴墓 4 号		104	大鳴古墳 1 号		162	若宮古墳	
	46	山野根谷奥横穴墓 1 号		105	米岡古墳 2 号・58 号・68 号		163	龍毛塚古墳	
	47	馬相古墳		106	池田古墳 29 号		164	中馬場古墳	
	48	新吉田四ヶ家横穴墓 2 号		107	福本古墳 4 号		165	森塚古墳	
	49	市ノ尾横穴墓 1・11・13・14・15 号		108	大塚古墳		166	前畑古墳	
	50	早野横穴墓		109	八束水古墳 55 号		167	薬師下北古墳	
	51	熊ヶ谷横穴墓 2・3・7 号		110	土居古墳 5 号		168	薬師下南古墳	
	52	浅間神社西側横穴墓 9 号		111	睦達古墳 11 号		169	大鶴寺古墳	
	53	坂本横穴墓		112	殿古墳 25 号		170	狐塚古墳	
	54	白山神社裏横穴墓		113	鎌谷横穴墓		171	寺徳古墳	
	55	中居丸山横穴墓 A-1 号		114	西中岡古墳 8 号		172	益生田古墳	
	56	桂町横穴墓 7 号		115	阿古山古墳 22 号		173	滑燈橋古墳	
	57	七石山横穴墓 1・6・12 号		116	吉川古墳 43 号		174	原古墳	
								175	珍敷塚古墳
								176	鳥船塚古墳
								177	吉畑古墳
								178	紋塚古墳
								179	富水古墳
								180	日の岡古墳
								181	重定古墳
								182	塚花塚古墳
								183	日輪寺古墳
								184	浦山古墳
								185	石入山古墳
								186	弘化谷古墳
								187	乗場古墳
								188	丸山古墳
								189	倉水古墳
								190	萩ノ尾古墳
						大分県	191	穴塚音古墳	
							192	法恩寺古墳 3 号	
							193	ガラノヤ古墳 1 号・2 号	
						194~195	鬼塚古墳・鬼ヶ城古墳		
							196	鬼塚横穴墓群	
							197	加賀山横穴墓	
							198	貴船平下の裏山横穴墓群	
							199	穴塚横穴墓群	
							200	鬼ノ岩塚古墳	
							201	水雲横穴墓	
							202	伊美鬼塚古墳	
							203	千代丸古墳	
							204	神下山古墳	
							205	一鬼寺横穴墓	
						長崎県	206	双穴古墳	
						207~208	百頭山古墳 5 号・山ノ神古墳 5 号		
							209	鬼屋久保古墳	
							210	善神さん古墳	
							211~212	長ノ鬼塚古墳・丸尾古墳	
						佐賀県	213	田代太田古墳	
							214	伊勢塚古墳	
						215~216	西隈古墳・西原古墳		
						217~218	渡木古墳 1 号・菅木古墳		
							219	山の上古墳群 STO14	
							220	天山古墳群	
							221	吉賀山古墳 4 号	
							222	米ノ塚古墳	
							223	坂井山古墳	
							224	箕貝崎古墳 2 号・3 号	
							225	湯塚古墳 2 号	
							226	勇猛寺古墳・勇猛山古墳 4 号・5 号	
							227	龍王崎古墳 6 号	
						宮崎県	229	上江横穴墓	
							230	土器田横穴墓東 1 号	
						231~232	広原横穴・祝田横穴墓群南 1 号		
							233	堀谷地下式横穴墓	

(97番と228番は欠番)

全国装飾古墳分布状況



県内装飾古墳市町村別所在内訳

地域	市 町	10	20	30	40	50	基
菊池川流域	山 鹿 市	[Bar]					53
	玉 名 市	[Bar]					40
	鹿 央 町	[Bar]					13
	菊 水 町	[Bar]					4
	南 関 町	[Bar]					4
	植 木 町	[Bar]					2
	そ の 他	[Bar]					6
(菊池・七城・鹿本・倍明・三加和・西合志) 各 1							122
計 (65.6%)							122
熊 本	本 市	[Bar]					7
	荒 尾 市	[Bar]					2
	そ の 他	[Bar]					1
(一の宮)							10
計 (5.4%)							10
宇城・天草	宇 土 市	[Bar]					8
	城 南 町	[Bar]					6
	不 知 火 町	[Bar]					5
	松 島 町	[Bar]					3
	大 矢 野 町	[Bar]					2
	そ の 他	[Bar]					6
(嘉島・御船・中央・松橋・小川・三角) 各 1							30
計 (16.1%)							30
球磨川	八 人 市	[Bar]					13
	吉 北 町	[Bar]					7
	そ の 他	[Bar]					2
(錦・相良) 各 1							24
計 (12.9%)							24
合計 (31市町)							186



平成4年(1992)3月末現在の熊本県内の装飾古墳の総数は、186例となっています。

●古代人の死生観

古代の人たちは、この世で死ぬことは、あの世に生まれ変わることでありと固く信じていました。したがって、あの世の生活のために、大きな古墳を造り永遠に壊れないように石積みをして堅固な部屋を作り、部屋をすこしでも美しく飾ろうと、赤や青や白などで絵を描いたり、いろいろな文様を彫ったりしました。その絵や文様から、当時の古代人の死生観が推察されます。古代人は死後の世界をどこにあると考えていたのでしょうか。

① あの世は地下にある

古事記や日本書紀に、愛する妻を失ったイザナギノミコトが妻を訪ねてヨモツヒラザカから、黄泉(よみ)の国に下って行き妻と問答する話があります。この物語をよく示しているのが、古墳内部に設けられた横穴式石室です。横穴式石室の通路、すなわち羨道部にあたるのがヨモツヒラサカで、妻に会うところが前室の入口、妻が寝ていたところが玄室です。当時あの世は地下にあり、自由に往来できると考えられていたのです。横穴式石室には後で何体も追葬したので、イザナギノミコトのような経験は誰にでもあったことでしょう。

② 死ねば魂は鳥になる

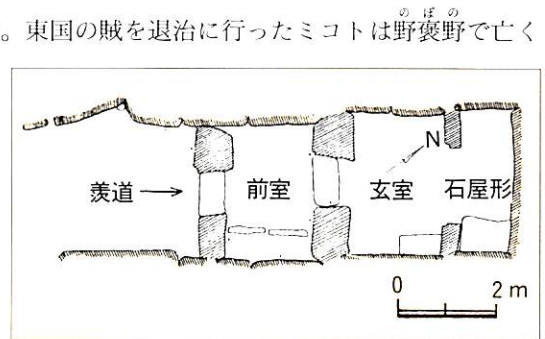
神話の中に、ヤマトタケルノミコトの話があります。東国の賊を退治に行ったミコトは野褒野で亡くなります。塚を築いてミコトを葬り祭っていると、ミコトの魂は白鳥となって、ふるさと大和をさして飛んで行く、という話です。弁慶ヶ穴古墳や珍敷塚古墳に描かれている鳥の絵はその好例といえます。

③ あの世は海の彼方にある。

万葉集の「おきつ国しらさむ君がしめ屋形 黄染のやかた神の門わたる」の歌は『あの世の君となるべき貴人を乗せた舟が山の峡門を静かに流れて行く』という光景を歌ったものとされています。隋書倭国伝には「葬におよび、屍を船上におき陸地にこれを牽く」とあります。

④ あの世は山の上にある

民俗学では、「死出の山といわれるように死ねば魂はそれぞれの村を見下ろせるような高山や霊山に行く」という信仰があった」といいます。万葉集にも、柿本人麻呂が、死んだ妻を求めて山に行こうと詠んだ歌があります。事実、村を見下ろす高いところに古墳があることが多いのです。装飾古墳の文様には見えませんが、古代から確かにその思想はあったものと思われる。



① 弁慶ヶ穴古墳石室平面図



② 珍敷塚古墳の鳥と舟

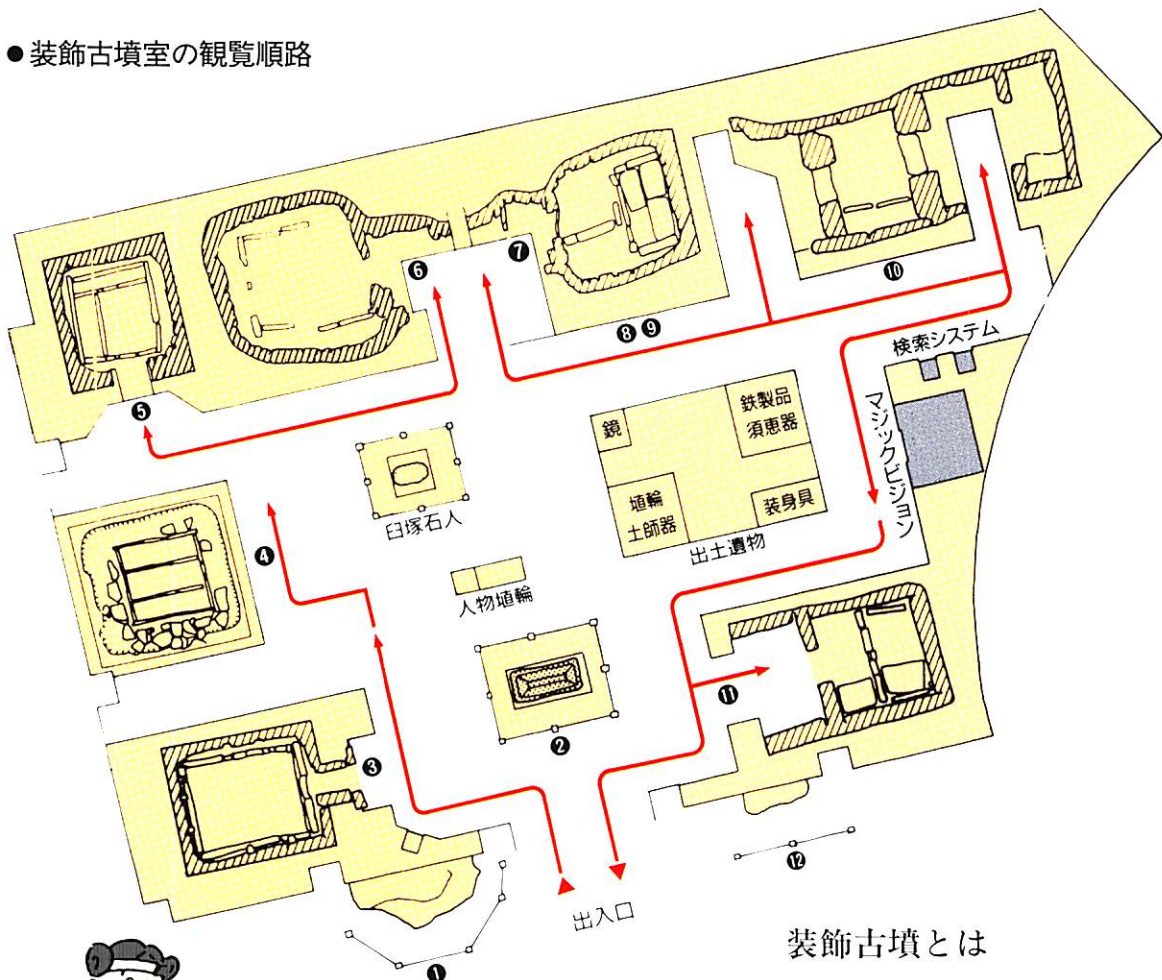


④ 羽山塚古墳遠景 (熊本市)



③ 奥屍床に檜ベソを持つ横穴墓

● 装飾古墳室の観覧順路



〔装飾古墳概略説明〕

番号	古墳名	時期	所在地	文様の種類
①	鍋田横穴墓群27号	7世紀	山鹿市	人物・剣・柄・鞆・弓矢・刀子・盾・馬
②	鴨籠古墳	5世紀	不知火町	直弧文・円文・梯子形文
③	井寺古墳	6世紀	嘉島町	直弧文・車輪文・鍵ノ手文など
④	小田良古墳	6世紀	三角町	同心円文・盾・鞆
⑤	千金甲1号古墳	6世紀	熊本市	同心円文・対角線文・鞆・船
⑥	チブサン古墳	6世紀	山鹿市	円文・三角文・菱形文・人物
⑦	大坊古墳	6世紀	玉名市	連続三角文・円文
⑧	大鼠蔵東麓1号古墳	6世紀	八代市	弓・鞆・二重円文・短甲・大刀
⑨	広浦古墳	5世紀	大矢野町	大刀・刀子・半円文・円文
⑩	弁慶が穴古墳	6世紀	山鹿市	人物・船・馬・鳥・連続三角文など
⑪	永安寺東古墳	6世紀	玉名市	連続三角文・円文・船・馬・三角文
⑫	大村横穴墓群11号	7世紀	人吉市	鞆・刀子・柄・円文

装飾古墳とは

古墳内部の石室や石棺、または横穴墓の壁面に彩色や彫刻による文様を施したものを、装飾古墳と呼んでいます。

こうした現象は5世紀に始まり、横穴式石室が盛んに営まれた6世紀から7世紀にかけて、九州北部を中心に広がりました。平成4年3月31日現在、全国で484例が知られていますが、186例が熊本県にあり、特に菊池川流域には122例と集中的の分布が見られます。

装飾古墳は、最初、石棺の外側や内側に、直弧文や円文などの装飾を施していましたが、次に、石障と呼ばれる石の板に文様を刻んで、それに色を塗るようになりました。そして、石障に代わって、石屋形と呼ばれる遺体安置所が作られるようになると、その石屋形に彫刻や絵が描かれ、やがて、石室全体に装飾が描かれるようになりました。

装飾古墳が各方面から注目されているのは、文字による記録のない古墳時代にあって、先祖の人々の考え方や社会のしくみを知る手がかりになるからです。

これらの文様を絵画、彫刻としてみる時、遠くわが国の美術史の源流を知る上での重要な資料となります。

記録することの大切さ

—— 鍋田横穴27号墓と矢野一貞 ——

鍋田横穴群第27号墓

山鹿市大字鍋田字東

山鹿盆地の西北、平小城台地の南崖には、城地区46基、付城地区96基、鍋田地区60基の横穴群が密集しています。中でもこの鍋田横穴27号墓が最も良く知られています。入口の右側が崩壊していますが、古く江戸時代嘉永2年（1849）の矢野一貞のスケッチを見ますと、この部分にも鞆や太刀や人物が描かれています。展示資料は入口左側の外壁に施されたもので、すべて浮彫りとなっています。右は、弓を持つ人物で墓室を守る人と思われます。続いて鉾先・鞆・大きな鞆と小さな鞆・鎌・矢をつがえた弓、さらに楯や馬が見られます。このように、鍋田横穴27号墓は図柄も豊富で、装飾のある横穴墓の代表的な例といえましょう。



① 鍋田横穴墓群27号装飾

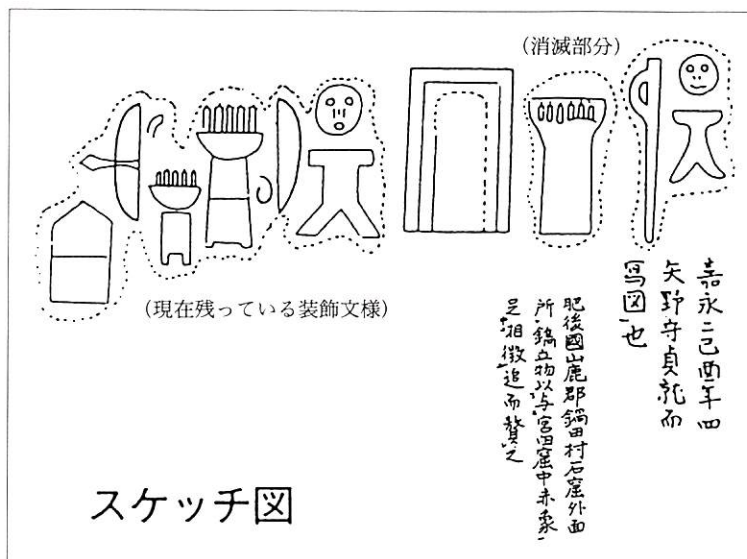
矢野一貞のこと

江戸時代もおわりに近い嘉永2年（1849）の4月のころ、山鹿の鍋田村の鍋田横穴墓を訪れた一人の旅の武士がいました。武士は、久留米藩士の矢野一貞（守貞）です。横穴墓に興味深く眺めていた一貞は、やおら矢立の筆を取り出し、横穴墓の外壁に浮き彫りされた絵を丁寧に写し始めたのです。

数年後、彼はこの図柄を他の墳墓に関するスケッチ

図と共に、「筑後将士軍談」（巻之52）という本に収めました。私達はこの残されたスケッチ図から、今は崩壊してなくなった幻の27号横穴墓右壁面の浮き彫りの存在を知ることができたのです。従って、27号墓の右側浮き彫りの崩落は、一貞が訪れた嘉永2年以後ということになります。

この図をもとに、現在山鹿市立博物館裏の古代の森（山鹿地区）に27号横穴墓の図柄の複製が出来あがり、現在、見学者の便に供されています。もし矢野一貞のスケッチ図がなかったなら、私達は永久に27号墓右壁面の図柄の存在を知ることがなかったでしょう。



① 筑後将士軍談掲載のスケッチ図

直弧文の謎を追って

—— 鴨籠石棺と井寺古墳 ——

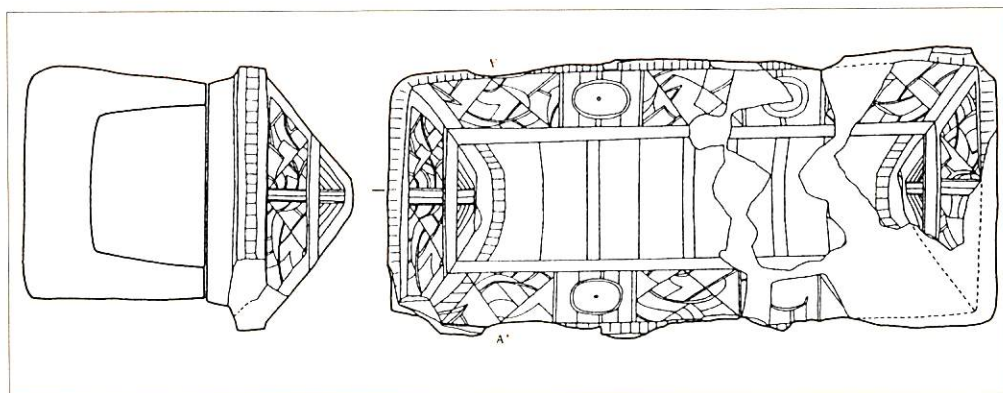


② 鴨籠古墳・石棺（レプリカ）

鴨籠石棺

宇土郡不知火町大字長崎字坊の平

鴨籠古墳は、宇土半島南岸の通称城の越丘陵にあった円墳です。内部に大きな板石を立てて造った堅穴式石室があり、石棺はその北壁にそって置かれていたものです。石棺は蓋・身とも阿蘇凝灰岩の一石をくり抜いて造られた家形石棺です。棺蓋の四周に幅の狭い縁取りがあり、両側の長い縁取りの下に、それぞれ2個の縄掛突起があったらしいのですが、今は残っていません。棺身内の一端には枕が設けられています。棺蓋の屋根には全面に「直弧文」が施され、もとは赤や青で彩色してあったと思われます。



② 鴨籠石棺蓋の直弧文

—— 推理小説作家・松本清張氏の推理 ——

直弧文は熊本県・福岡県に多く、特に熊本県に集中的に分布しています。文様についての解釈は、過去に多くの考古学者によって試みられていますが、依然として謎につつまれています。

直弧文の命名者である京都大学の浜田博士は、直弧文は「組み紐を表現したもの」であろうと解釈し、佐藤氏その他は「南海産の巻き貝である水字貝の裏面を図案化したもの」という見解をとっています。これら従来の見解に納得できない松本氏は、高倉洋彰氏（西南大学教授）の報文に触発されて、平成3年の文芸春秋11月号に「直弧文の一解釈」として、私見を述べています。

松本氏によれば、「この文様は、故意に破碎した鏡の欠片を表したものではないか」というのです。つまり、直弧文は、鏡の破片をベースに文様として意匠化されたものだとは推定したのです。また、どうして故意に鏡を割ったかという疑問に対しては、当時貴重品であった後漢鏡が九州地方に払底したため、その破片をもって代用するためとしたのです。

この鏡片をもとに、デザインの段階で気儘に飾りが付加され、直弧文の成立をみたと考えました。しかし、この松本氏の見解で、全ての疑問が説明できるものではありません。

これら松本氏の見解をもってしても、この文様の成立の謎は簡単に解けそうにもありません。それほど直弧文は、宗教性、呪術性に富む文様なのです。来館者の皆さんも、直弧文の謎解きに挑戦してみませんか。



直弧文の刻まれた矛頭（国越古墳）

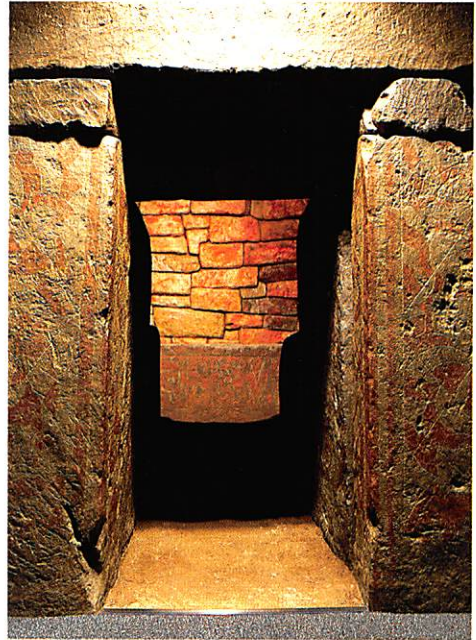
井寺古墳（6世紀）

上益城郡嘉島町大字井寺字富屋敷

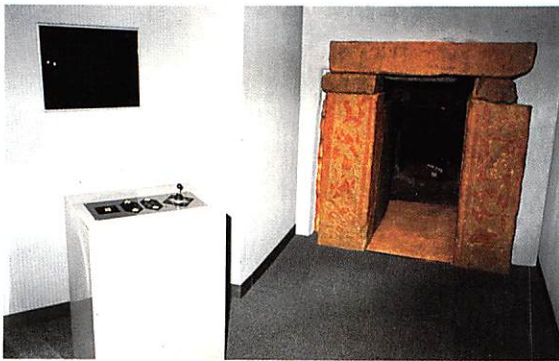
熊本平野を西に望む低い丘陵に築かれた古墳です。現在は変形していますが、直径24m、高さ5mほどの円墳であったようです。内部は入口を西側にした単室の横穴式石室で、阿蘇凝灰岩の切石を使い丁寧に積み上げられて造られています。玄室は幅2.30m、長さ3.20mの長方形で、天井までの高さはおよそ3mです。玄室の内側には高さ0.8mの石障をめぐらして、もとはその内側に石棚があり、奥壁と両側壁に二個ずつの突起がありました。石障に彫刻してある文様は、直線と弧線を組み合わせた直弧文・同心円文・梯子形文・柱状文で、もとは赤・白・青・緑の4色で塗り分けられ、実に華麗なものであったと思われます。



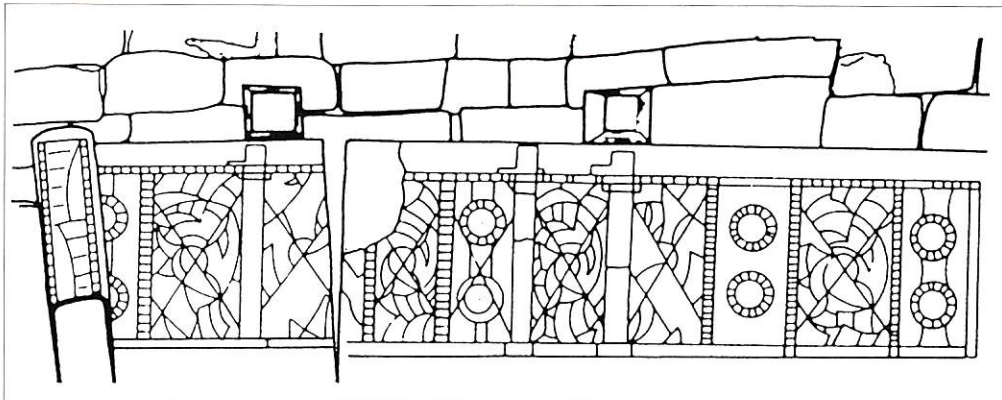
③ 井寺古墳の石障に施された直弧文



③ 入口より石室内部を見る



③ モニタテレビによる装飾文様の探索



③ 井寺古墳の直弧文の一部

華麗な装飾とレリーフの美

—— 小田良・千金甲・大鼠蔵・広浦・大村 ——

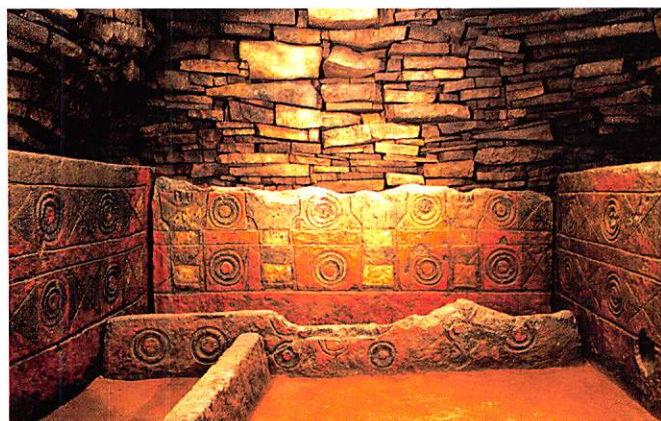
小田良古墳（5世紀）

宇土郡三角町大字中村字前畑

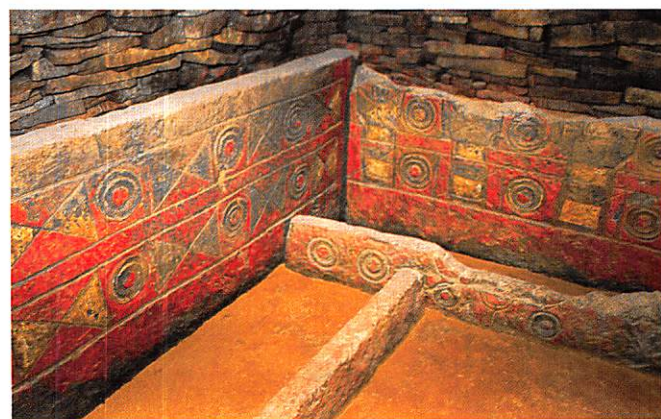
天草に向かう国道57号の右手の海岸にあり、墳丘を失っていますが、円墳であったと思われます。墳丘内部には、割石をドーム状に積み上げて築いた横穴式石室があったと考えられます。石室の幅は2.2m、長さ2.30mのほぼ正方形で、中央の通路をはさんで左右に屍床が設けられています。側壁に沿って高さ約0.3mの板石をめぐらし、それぞれの板石の内側に2条の横線をきざみ、その間に向かって正面には靱・楯をそれぞれ2個ずつと同心円文を3個、左側には円文4個、右側には円文3個、手前にも円文2個が刻まれています。石室からは人骨1体分と猪・犬・馬の骨や、ガラス製なつめ玉・白玉・直刀・鉄剣・銅製品などが出土しています。



④小田良古墳



⑤千金甲1号墳の入口より石室をのぞむ



⑤同上左屍床一帯の装飾文様

千金甲1号墳（5世紀）

熊本市小島下町勝負谷

金峰山系から南にのびる権現山丘陵にある千金甲古墳群の1基で、直径12mの円墳です。内部には、板石を小口にして積み重ねて壁を造った単室の横穴式石室が設けられています。玄室の内部には、阿蘇凝灰岩の切石の石障をたためぐらし、床面には奥壁に並行して1つ、中央の通路をはさんで左右に1つずつの計3つの屍床が設けられています。

装飾は主として石障の内側に刻まれています。同心円文を描くのにコンパスを使い、中心から赤・青・黄・赤の順番で塗り分けるなどデザインに工夫がみられます。開口が古く遺物はほとんど知られていませんが、大正5年（1916）には壁玉製管玉1個が発見されています。

なお、千金甲古墳群は5基から成っており、名称は、大正初期に京都大学の濱田耕作氏が命名したものです。

他に3号墳の石屋形の奥壁にも、ゴンドラ形の舟や8個の靱、6個の弓等緑の顔料で塗られた装飾文様があり、共に史跡として国の指定を受けています。



⑧⑨中央スポット内が展示レプリカ

大鼠蔵古墳石材

八代市鼠蔵町

大鼠蔵山東麓の古墳に納められていた箱式石棺の一部で、石材は砂岩が使われています。左から半月形の横長い舟のようなものは弓、次は鞆で、鋭い矢が5本納められています。その右側には紐でつるした鏡（二重円文の内円は鏡の紐を表す）、その右は鍔で、その図柄から、三角形の鉄板を横につないであることが判ります。次は革鞘入りの太刀に2本の紐でつるされた鏡です。ここに葬られている貴人の副葬品の代りに刻んだものでしょうか。

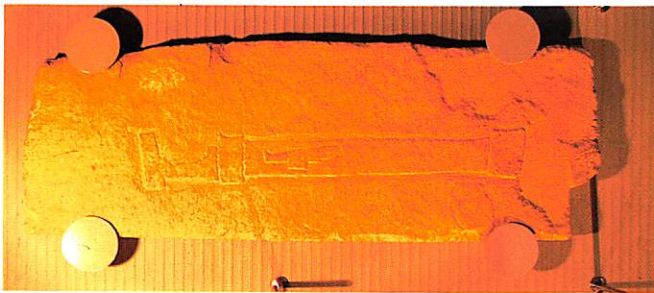


⑧大鼠蔵東麓1号古墳装飾

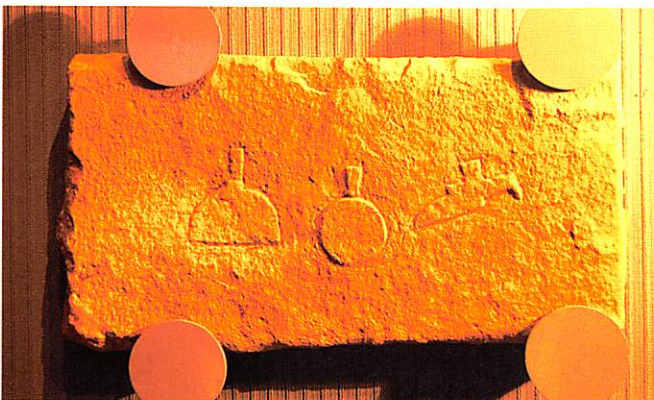
広浦古墳の装飾石材

天草郡大矢野町大字維和

広浦古墳は千束蔵々島の南端にあったものです。大正7年（1918）2月に工事のため破壊されたといわれ、この資料はその石材の一部です。石棺に納められたものかどうかは判りません。砂岩の切石を組み合わせた箱式石棺であったらしく、装飾を彫り込んだ石材は4個残されています。第1石は大刀とその上に革鞘の刀子を重ねて浮き彫りにしてあります。第2石は右側から革鞘の刀子柄鏡のようなもの、半円形に柄をつけたようなものをそれぞれ浮き彫りにしてあります。第3石は上段に刀子を下段に2個の円文を、第4石は一端が半円形、他の一端に末広がり状の方形のものが彫られていたといわれていますが、現在は行方不明となっています。展示資料は、このうちの第一石と第二石です。



⑨広浦古墳第1石の装飾



⑨広浦古墳第2石の装飾

刻まれた意味

古墳等から出土する刀剣類は、永い年月を経て、刀身部はボロボロになり、柄や、鞘等木質からなる外装の状況も、不明の場合が多いのです。しかし、この板石に描かれた大刀と刀子は実に写実的であり、失われた当時の姿をしめす貴重な資料といえましょう。

また、石棺の石材に、大刀、刀子、鏡が彫り込まれた理由について、乙益重隆氏は、死者に捧げられた財宝を意味するものと解釈しました。だから、石に刻み赤く塗って、永久に伝えられることを祈ったものであろうというのです。

大村横穴墓群11号墓

人吉市城本町

球磨川の右岸、JR 人吉駅の北側の急崖に計26基の横穴墓があり、この内の7基に装飾が見られます。展示資料はこの内の11号墓外壁のもので、入り口の右側に1つ、左側に2つの靫があります。入り口の上方と左側の三日月形のは靫でしょうか。また2つの靫の間には、刀子が3つと円文が4つ表現されていますが、円文のなかの二重の円で表したものは鏡かも知れません。これらの装飾は武器や武具の威力によって、悪霊の侵入を防ぎ、黄泉の世界での安泰あんたいを願って描かれたものと思われる。

横穴墓に葬られた人とは、

ひとむかし前までは、横穴墓を昔の人の「穴住まいの跡」と信じている人が殆どで、納得してもらうまでが大変でした。

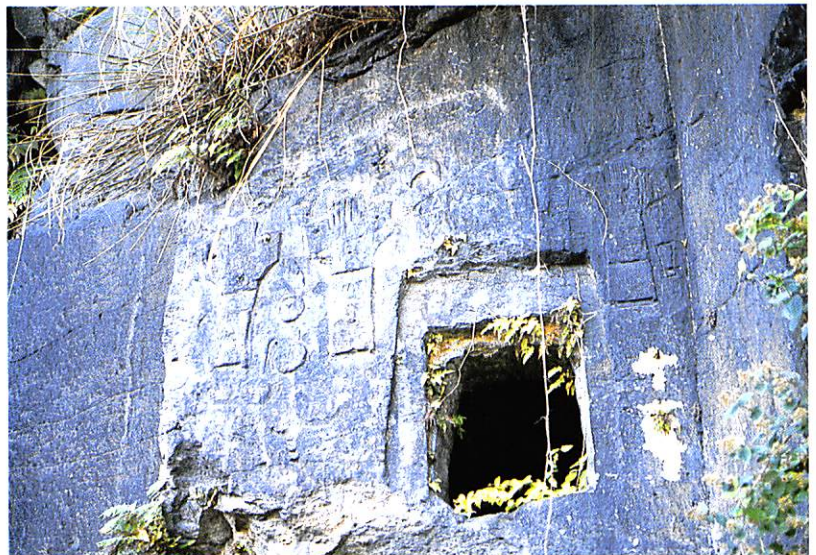
現在、横穴墓についての質問は、「どんな階層の人のお墓ですか。やはり、豪族ですか。」と尋ねられることが一番多いようです。そこで、私たち学芸課の職員は、次のように答えることにしています。「横穴墓の被葬者は、古墳時代後期に、鉄製農具を使用して生産力をあげ、富を蓄えた有力農民の墓です」と。

そして、次の言葉を付け加えることも忘れません。「もし、この蜂の巣のようにある横穴墓が、すべて豪族の墓としたら、それこそこの地は、豪族ばかりになってしまい、一般庶民はいなくなるじゃありませんか。」

横穴墓からの出土品が、鉄製武具等が多いことから、その被葬者を、「戦闘を職掌とする武装集団の墓では」という仮説を立てた地元研究者もいましたが、いずれにせよ、当時、成長しつつあった新興勢力階層の墓であることは、疑いない事実といえましょう。



⑫大村横穴墓群11号墓装飾（レプリカ）



大村横穴墓群（現地写真）

菊池川流域の装飾文様と石人

—— 菊池川流域の特色 ——

人と馬と舟と

菊池川流域の装飾古墳の図柄で、とくに目立つのは人と馬と舟でしょう。チブサン古墳では、おそらく死者の枕もとに描いたものと思われる人物、足を踏んぱり両手を開いてあげた姿が描かれています。悪霊の侵入を防ぐ意味のものでしょう。長岩、城、桜の上、小原大塚、浦田、石貫、原などの横穴墓の図柄も同様な意味のものと思われます。舟の絵も特徴的です。弁慶が穴にも永安寺東古墳や桜の上、長岩などの横穴墓にもあります。また弁慶が穴や永安寺東、鍋田横穴墓等の馬もよく知られています。人物像や舟や馬の絵に古代人はどんな夢を託したのでしょうか。これらの絵の背後にある社会のしくみなども考えてみましょう。



白塚石人

また、馬・鞆・蓋・翳等をかたどったものを石製品といいます。一般にはこれらを、石人・石馬と呼び、福岡・熊本・大分の3県に多く分布しています。

熊本県における石人の分布は、菊池川流域に圧倒的に多く見られます。まず菊池川上流から見ていくと、フタツカサン古墳（菊池市）、白塚古墳（山鹿市）、チブサン古墳（山鹿市）、清原古墳群（菊水町）、三の宮古墳（荒尾市）等があります。清原古墳群の石人は、あるいは短甲をかたどった石製品の可能性もあります。菊池川流域以外では、富の尾石人（熊本市）があります。石人は、武装した武人を表したものが多く、中には富ノ尾石人のように女性像の石人もあります。

石製品としては、菊池川流域では袈裟尾高塚古墳（菊池市）や清原古墳群（菊水町）から、またそれ以外では、石ノ室古墳（城南町）や姫ノ城古墳（竜北町）、天堤古墳（竜北町）等からも発見されています。袈裟尾高塚古墳の石製品は、板石に鞆を浮き彫りにしたもの、清原古墳群発見のものは石殿（家形石棺か）や腰

白塚石人

石人（せきじん）は、古墳時代に古墳の墳丘の上に立てられた石で造った人形です。菊池川流域の古墳に見られますが、関東や関西の古墳の墳丘に並べられた武人の埴輪と同じ性格を持つものです。

この石人は、元来、山鹿市石にある白塚古墳（円墳）の墳頂中央部に、南向きに立っていたものです。

6世紀前半頃、阿蘇凝灰岩で造られた高さ約2メートルの武装石人で、現在頭部を失っていますが、元々兜をつけた頭があったのでしょうか。背中に鞆（矢筒）を背負い、体に短甲を着けています。短甲には、帯状に朱が塗られているのが判ります。武装しているのは、古墳に近寄る悪霊等から古墳を護るためでしょう。

造りは円体で、力量に溢れ石人の中でも最高の傑作とされています。現物は、県重要文化財の指定を受け、県立美術館の装飾古墳室に展示されています。

石人・石馬の文化

石人というのは、古墳時代の5世紀後半から6世紀後半ごろにかけて、古墳の墳丘上に立てられた石の人形のことで、武人の姿をしたものが多く、関西・関東辺りの古墳の人物の埴輪に相当するものです。他に威儀具・儀礼具とする説もあります。

掛け（^{まないた}俎か）などです。

なお、髻は、大きな団扇に長柄を付けたような形をしており、絹や羽毛で出来ています。左右から貴人の前方にさしかける儀式用の道具です。蓋は、貴人の上を覆う傘形のもので儀式に使う道具です。鞆は、弓の矢を入れる矢筒で矢筈から転じたものといわれ、矢を入れて背負う武具の一つです。

このように、石人・石馬は、菊池川流域に集中的分布をみますが、実は、隣の福岡県八女市にある岩戸山古墳からは、このような石人・石馬以外に色々の石製品が多数見つかったのです。この古墳は、昔から筑紫の国造・磐井の墳墓と伝えられる前方後円墳です。磐井は、継体天皇の御代の527年、朝廷に対して反旗を翻したことで知られます。いわゆる「磐井の乱」を指揮した大豪族です。

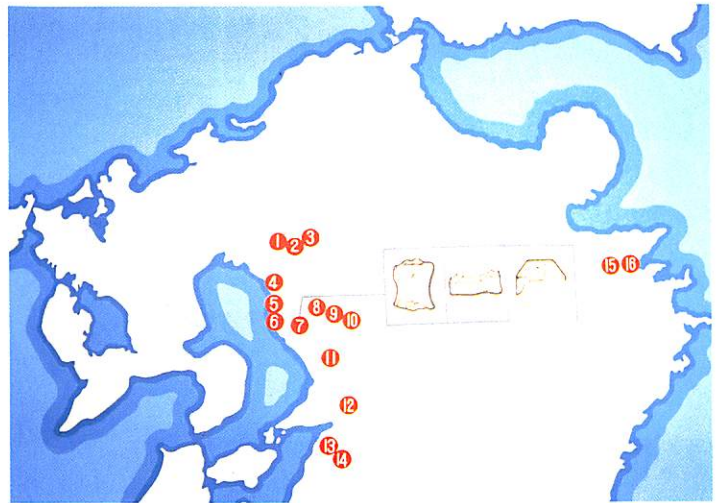
当時、大和朝廷は大陸政策の失敗から生じた任那の失地を回復するため、度重なる朝鮮出兵を実行します。その結果、重い負担が北九州の豪族・民衆に課せられました。

負担に苦しむ豪族たちは、新羅の支援のもと磐井を中心に団結し、朝廷軍に激しく抵抗しましたが、翌528年、乱は物部の鹿火によって鎮圧されます。

菊池川流域の豪族の古墳が、磐井と同様に石人を持つということは、磐井の文化圏と深いかわりをもっていたことの証であり、磐井の乱の時に菊池川流域の豪族たちは、こぞって磐井を支援したことが考えられます。

このように、磐井を支援した菊池川流域の豪族たちは、その後石人・石馬文化に引き続き、素晴らしい装飾古墳文化を当地方に残すこととなります。それは度重なる大陸出兵の過程の中で、もたらされた文化であったのかも知れません。

しかし、独自の文化を創造した菊池川流域の豪族たちの住む「火の国」は、その後、逆族の住む国として中央政府から疎まれ、約1世紀の間、中央の記録から完全に抹殺されてしまうのです。



石人・石造物の分布（菊水町提供）



三の宮石人（荒尾市）



フタツカサン石人（菊池市）



清原石人のレプリカ（短甲か）（菊水町）

三角形の系譜

——チブサン・塚坊主・大坊古墳——

三角形の系譜

古墳等に描かれる装飾文様で最も古く現れるのは、嘉島町^{かしま}の井寺古墳などに見られる直線と弧を組み合わせた直弧文^{ちよっこもん}です。しかし、現在までその起源、意味するところなどに関して納得いく学説を提示した人はなく、考古学上依然として謎に包まれている文様です。私達はこの図柄に、限り無い宗教性と呪術^{じゆじゆつ}性を感じます。

直弧文の次に現れるのは、円・同心円^{どうしんえん}・三角形^{ひし}・菱形^{きか}等の幾何学文様ですが、菊池川流域の古墳には、このなかでも、とくに三角形が好んで描かれています。三角形も直弧文と同様に、著しく呪術性を帯びた形といえましょう。三角形と言っても、古墳等に描かれるものには不思議と直角三角形は見られません。一番多いのは二等辺三角形で、正三角形もあまり多くないのです。何故でしょうか。また、装飾文様に三角形はあっても四角形はありません。しかし、菱形はチブサンや弁慶が穴古墳の文様等に見られます。菱形に対角線を引くと、二つの三角形が生まれるのです。三角形の源流は本来菱形だったのではという思いにもかられます。翻^{ひるがえ}って、かつて小学校の運動会の時、無数に張り巡らされた赤と白の二等辺三角形の旗は、まさに連続三角文と瓜二つ。何を意味したものであったのでしょうか。

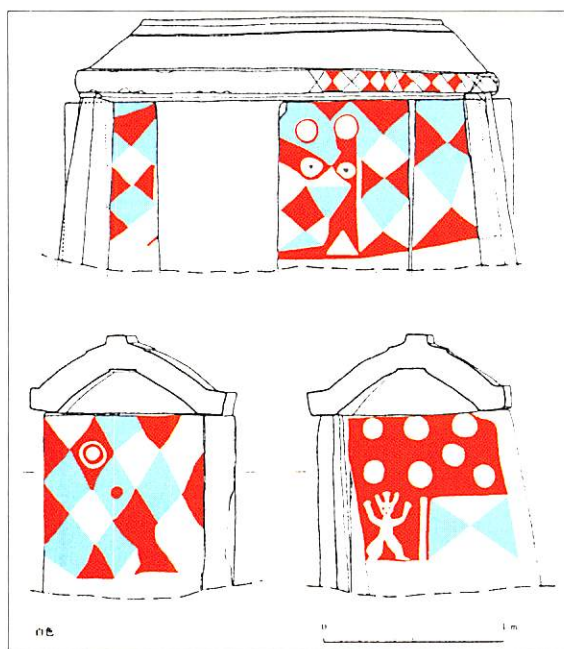
さらに時代がくだって、横穴墓が盛んに作られた時代、入り口部の外壁に浮き彫りするの的人物像や武具類であっても、墓室内の最も遺体に近い仕切り石や奥壁に微かな沈線^{ひがき}で刻まれるのは、連続三角文や菱垣^{ひがき}形の菱形文などが多いのです。また、身を守るための楯^{たて}等の縁にも、連続三角文が巡らされています。三角形に対する古代人の特別な思いは一体何だったのでしょうか。



塚坊主古墳の幾何学文様（1階回廊に写真パネル展示）



⑥チブサン古墳石屋形の装飾

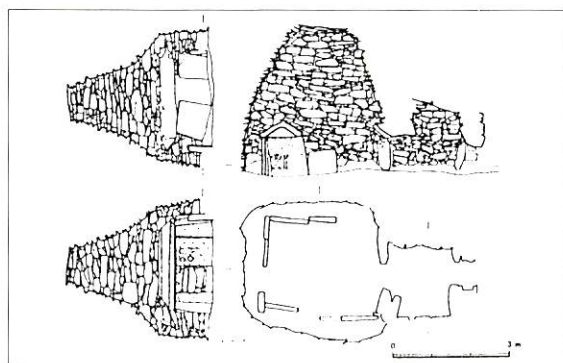


⑥チブサン古墳後室家形石棺実測図

チブサン古墳（6世紀）

山鹿市大字城字西福寺

市街地の北西約2km、平小城台地の東端にある全長約44mの前方後円墳です。墳丘には埴輪・葺石が残り、北側には周溝もみられます。後円部に複室の横穴式石室があり、南側に入り口をもっています。石室の側壁は割り石を小口積みにしており、玄室奥壁にそって美しい家形石棺がおかれています。その内側には、赤・白・青で装飾文様が描かれています。向かって右側壁の人物像は、ここに葬られた被葬者自身を写したものでしょうか。土地のひとびとは、昔から正面の二つの目のような図柄を乳房に見立てて「乳房さん→チブサン」と呼び、乳の神様として信仰してきました。この古墳も、6世紀の初頭この地方に君臨した豪族の墳墓であったと思われます。



⑥チブサン古墳石室実測図

大坊古墳

玉名市大字玉名字出口

玉名平野のほぼ中央部、菊池川右岸の丘陵上にある前方後円墳です。後円部の南側に入り口をもつ横穴式石室があります。石室は安山岩の割り石を小口積みにして造り、奥壁にそって石屋形が設けられています。

石室の各所に赤と青で三角文を基本として描かれた図柄は素晴らしいものです。壁面を5段にわけ、各段に三角形を上下たがいに配列し、赤と青で塗り分けて、さらに2段目と4段目には円文が3個ずつ描かれています。昭和38年に調査の際、石室内から金製垂飾りのある耳飾・真珠玉・めのう製勾玉・直刀・鉄剣・鉄鉾・鉄斧・杏葉・鏡など多くの遺物（副葬品）が出土しています。



⑦大坊古墳の装飾

舟と馬と太陽と

—— 弁慶が穴古墳と永安寺東古墳 ——

弁慶が穴古墳（6世紀）

山鹿市熊入町

市の東北部、通称熊入台地にある直径15m、高さ5.70mの円墳で、内部は南西側に入口をもつ複室の横穴式石室です。

石室には巨大な阿蘇凝灰岩が使用され、前室・玄室とも側壁の基礎部分には大きな板石をたて並べ、その内側にさまざまな壁画が描かれています。

前室の向かって右側の壁には「馬を乗せた舟」や「舟と荷と鳥」、正面右側の袖石には赤と白と青で描いた幾何学文様、左側袖石の小口部分には「馬を乗せた舟」を中心に、上方には同心円文、下方には、靱が2つ並べて描かれており、現在は色が薄れています。左側壁には太陽と人物と馬を乗せた船団があり、羨道部左壁には人物像の浮彫りがあります。

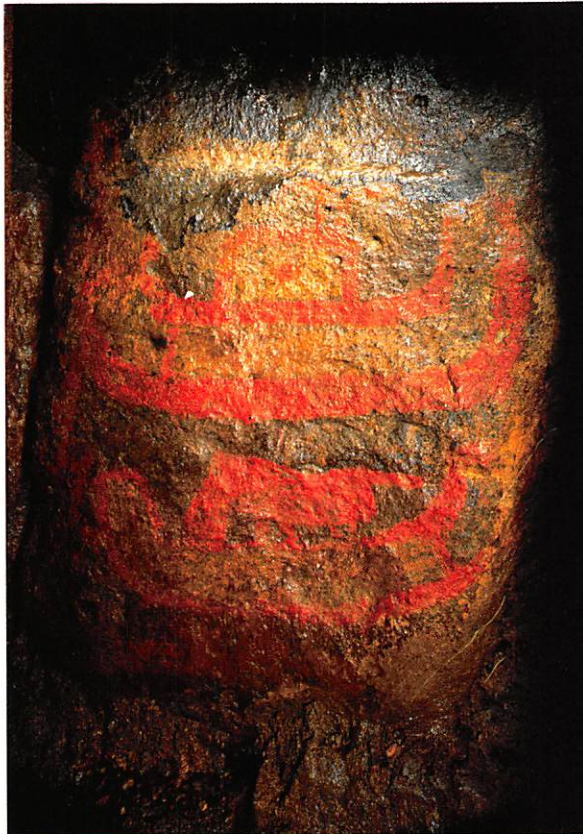
石室の大きさや装飾の鮮かさでは、県下屈指の装飾古墳といえましょう。



⑩ 弁慶が穴古墳墳丘



⑩ 舟と馬と太陽と幾何学文様



⑩ 柩を積んだ舟・馬を乗せた舟

天翔ける鳥

弁慶が穴古墳前室の右側壁には、荷を積んだ舟と、馬を積んだ舟が描かれています。

荷を積んだ舟の荷の右上に、鳥がとまっています。当時、人が死んだら魂は、白鳥となって、空の彼方に飛んで行くという思想がありました。古代のヒーロー 倭建命は、国家統一を目前にして外征の途中に倒れます。

望郷の念やみ難き倭建命の魂は、鳥となって、懐しい大和へ向かって翔んでいきます。

ロマンに彩られた古事記の世界の、まさにクライマックスのシーンといえましょう。

荷にとまる鳥は、実にこの天翔ける鳥とされます。—— とすると、舟に積んだ荷はこの古墳の被葬者の柩であり、絵は、死者の魂が天翔ける鳥となって、まさに飛び立たんとする情景を写した、葬送の図だったのでないでしょうか。



⑩舟と馬と太陽と



⑩古墳を護る人物像

永安寺東古墳

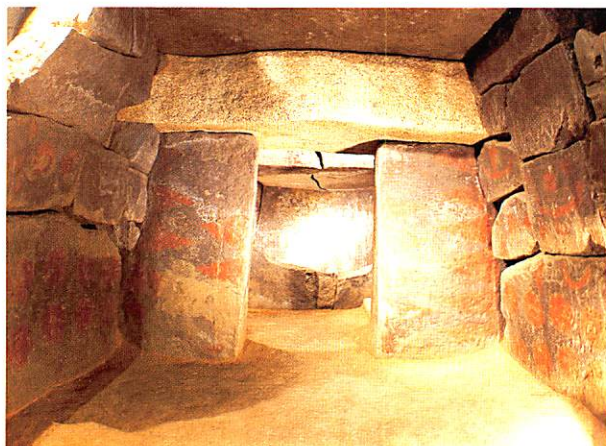
玉名市大字元玉名字永安寺

玉名平野の北方、東西につらなる丘^{さぬりょう}陵の南崖に築かれた円墳です。隣接して永安寺西古墳があり、さらにその西側に大坊古墳が位置しています。現在墳丘の高さは約3mですが、大部分が崩壊して石室が露出しています。内部に南東側に入口をもつ複室の横穴室石室があり、前室の前半分はこわれています。玄室奥壁に沿って石屋形があり、奥壁と左右の側壁には阿蘇凝灰岩切石の巨大な一枚石をたて、その上に小形の切石を持ち送り式に三段に積み上げ、さらに安山岩の板石を架けて天井としています。大坊古墳では三角文が主体であったのに対して、ここでは円文中心の装飾が施されています。赤く塗られた円文を並べ、前室右側壁上方に馬、左側壁の上方に帆掛け舟の絵がある構成は、幾何学文様から具象的文様への移行過程を示すものとして学界の注目を集めています。

北方文化と南方文化

永安寺東古墳の前室の右側壁には円文に混って帆掛け舟が、左側壁には三角文に混って馬が描かれています。舟は南方諸島の交通用具、馬は北方大陸の交通用具です。我々の容姿は大陸のモンゴロイドに近く、言語はアルタイ語、風習風俗は、南方諸島のそれを受け継いでいます。菊池川流域に見られる古代の舟葬思想も、南方の考え方であり風習です。

日本文化は、北方と南方文化が混合したものと云われますが、まさにこの古墳の装飾文様には、南方文化と北方文化と一緒に描かれており、日本文化の特質をよく表わしているといえましょう。



⑩舟と馬と幾何学文様

装飾古墳室内の展示遺物

— 鏡・埴輪・農具・工具・武器・装身具 —



古墳時代の鏡



古墳時代の農具・工具・武器・馬具



古墳時代の埴輪と土師器



古墳時代の装身具

鏡

鏡は、もともと中国大陸からもたらされたもの（舶載鏡という）ですが、その形をまねて日本で作ったもの（仿製鏡という）もあります。

すでに、弥生時代から鏡を大切に作る習慣が日本にはありました。古墳時代になると、鏡は古墳のなかに遺体とともに入れられるようになります。この鏡は自分の顔を写すためでなく、お祭りに使用したり、自分の権威をひとに示すために使ったものだとされています。

- 展示品 国越古墳 四獣鏡 (後期)
- 〃 半肉彫帯鏡 (〃)
- 〃 画文帯神獸鏡 (〃)

農具・工具

古墳時代には、鉄製の農耕具や工具が人々に広く使われるようになってきました。

弥生時代には鉄自体が貴重で、使用する度合いがあまり大きくありませんでしたが、弥生時代の終わり頃から鉄の生産が日本でも始まったようです。そして使用の度合いも急速に大きくなっていきます。

古墳内にも、自分の富を象徴するかのようによく多くの鉄製品が取られています。鎌、鋤先、斧、鑿等がそれです。

- 展示品 国越古墳 鋤先、鎌
- 〃 やりがんなその他

埴輪

埴輪は、古墳を飾り、権威を示すために古墳の頂部や中段、周溝の縁等に立てられていました。種類としては、形象（人物、動物、家型）埴輪、円筒埴輪、朝顔型埴輪などがあります。

また、九州では加工のしやすい凝灰岩を利用した、石人、石馬が有名です。これも、埴輪と同じ役目を持つと考えられます。菊池川流域は、福岡と並んで石人等がたくさん残っている地域です。

- 展示品 金屋塚古墳 円筒埴輪二点

武器・武器

戦に主に使われる道具は、すでに弥生時代にもありました。古墳時代になると大陸からの影響もあって、数多く技術も進歩しました。

武器としては、まず、鉄鍬、鉄戈、鉄剣、鉄刀、等があります。また、武器としては、身を守る甲冑、馬に使用した馬具等があります。

これらは実的なものも多く、実際に戦闘に使用したものでしょう。

- 展示品 国越古墳 鉄矛・鉄鍬その他
- 横山古墳 馬具(轡)その他

土器

古墳時代に使われた土器としては、「土師器」と「須恵器」があります。土師器のほうが古くから使われていました。

いずれも普段の生活で使われていたものですが、古墳へのお供えとしても、沢山取られています。ただ、普通に使われているものに比べ、赤く塗るなど特殊なものが多いようです。

墓のなかに一緒に取られたものと、墓の周りでお祭りをを行った際に使われたものがあるようです。

- 展示品 上ノ原遺跡 二重口縁壺 一点
- 釜尾古墳 朱塗高坏 一点

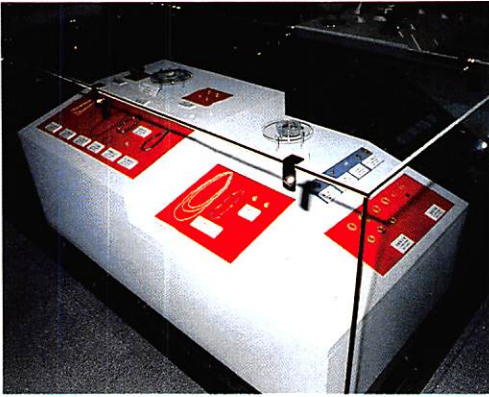
装身具

古墳時代には、人々がどの程度のおしゃれをしていたかよく分かりませんが、古墳から出てくるものを見ると、古墳に埋葬された人はかなりの飾りを身につけていたようです。

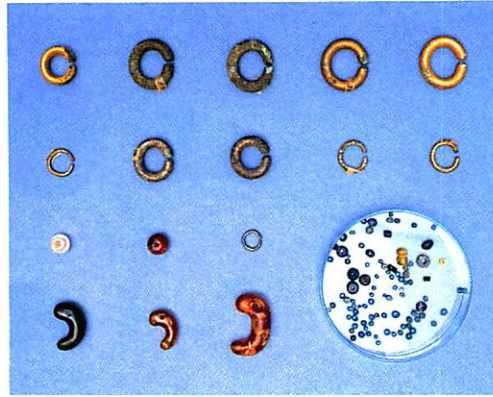
耳に耳飾り、首に首飾り、髪に櫛などがあります。ここに展示したのは、国越古墳から出土したのですが、玉の数は数百を数えます。

なかでも、黄色のガラス小玉は非常に珍しいものです。

- 展示品 国越古墳 ガラス小玉
- 横山古墳 金・銀製耳環その他



装身具展示ケース



左同耳環と玉類



土器・鉄器展示ケース



左同須恵器類

虚空蔵塚古墳出土人物埴輪頭部

県内出土は珍しい人物埴輪

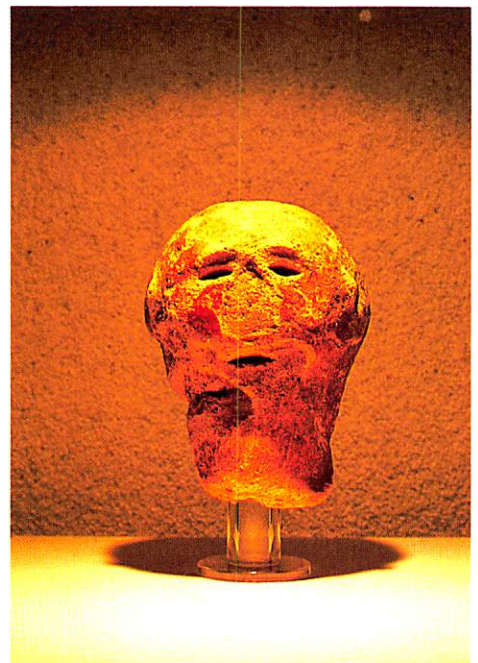
古墳の墳丘等に並べられる埴輪は、大別して円筒埴輪と形象埴輪等に分けられます。

県内の古墳からの円筒埴輪の出土は多いのですが、形象埴輪、特に人物埴輪の出土例は極めて少ないのです。形象埴輪は県内で17か所、人物埴輪は八代大塚古墳出土のもの、菊池川流域では、白塚古墳（山鹿市）出土の踊る人物の腕部分や、虚空蔵塚古墳（菊水町）出土の人物像頭部が知られる位です。

当館で展示している形象埴輪は、菊水町の虚空蔵塚古墳出土の人物像の頭の部分です。

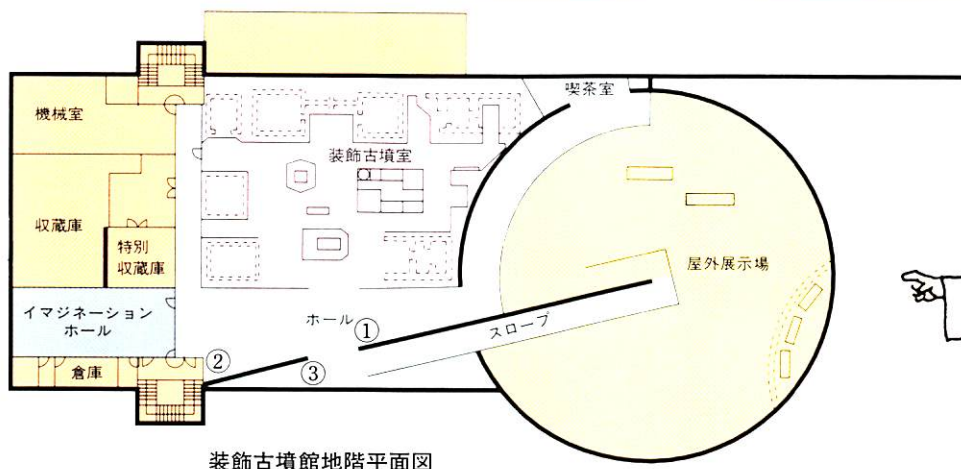
現存する首の高さは15センチ、頭部の最大幅は11.4センチとなっています。鼻、顎の一部は失われていますが、製作時の姿を良く留めています。竹箆を使ったのか、目、口は、きれ長の半円形となっています。

今も、顔全体と左右側頭部には、かなりの赤色顔料が残っています。



人物埴輪頭部

地下ロビーおよび回廊展示



装飾古墳館地階平面図



地下ロビーおよび回廊展示

一階の回廊の壁、および地下ロビーには、装飾古墳に関するパネルや、弥生時代の甕棺、全国風土記の丘一覧等の資料を展示して、入館者の利便に供しています。

① 装飾文様のパネル展示

一階と地下ロビーの壁面には、現在保護のために一般公開されていない県内外の著名な装飾古墳の文様を、大型カラー写真パネルを使って展示しています。

福岡県の王塚古墳の装飾をはじめ、高松塚古墳、虎塚古墳等、全国の有名な装飾古墳の文様10数点を紹介します。

② 弥生時代の甕棺展示

展示しているこの素焼きの大甕は、亡くなった人を葬った弥生時代の棺です。甕棺葬は、世界各地に見られるものですが、我が国では縄文時代の後期に、胎児や乳幼児の遺体を甕に入れて葬る風習として現れます。

弥生時代になると甕も大甕となり、成人の埋葬に使われるようになり、特に北九州では盛んに行われるようになります。埋葬には、甕を一つ使う場合と二つ使う場合があります、前者を単棺、後者を合口甕棺と呼んでいます。

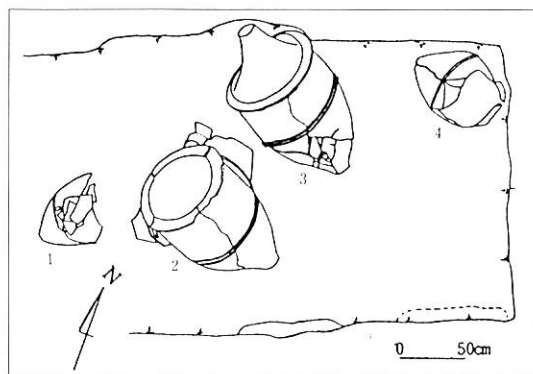
単棺の場合は、甕の口に石や板でもって蓋をして使われます。また、合口というの、二つの甕の口を合わせて葬る甕棺葬のことです。甕は一般には、水平か垂直で土中に埋葬しますが、菊池川流域では殆ど斜めにして埋葬されています。

埋葬した地点には、盛土等の施設はみられません、支石墓に付属する場合があります。北九州の甕棺内には、豪華な副葬品が見られる場合も多いのですが、熊本県では、ほとんど見られません。

当菊池川流域には、各地に弥生時代の甕棺群が多く見られ、山鹿市の川辺甕棺群、同南島甕棺群、当鹿中央町にも吉井原、千田甕棺群など多くの遺跡を残しています。



① 県外装飾古墳の写真パネルとホールの風景



② 甕棺の埋葬状態 (鹿央町吉井原)

これらの甕棺墓地の中には、木棺墓と並行して営まれた場合もあったようで、一緒に発見されることもあります。

熊本県での甕棺分布の南限は、宮原町付近までで、それより南での出土は見られません。

ここでは、弥生の前期・中期・後期三時期の、代表的な県内出土の甕棺を展示しました。

甕棺葬の時代（弥生時代の年表）

	弥生土器の編年	山鹿周辺の甕棺遺跡
3C		
前 期	○（板付Ⅰ）	○牟田原甕棺（旭志村）
	○（立屋敷）	
	○（下伊田）	
1C		
中 期	○（城ノ越）	○吉井原甕棺（鹿央町） ○千田甕棺（鹿央町） ○川辺甕棺（山鹿市） ○南島甕棺（山鹿市）
	○（須玖）	
	○ 黒髪Ⅰ	
1C		
後 期	○ 黒髪Ⅱ	
	○ 兔田	
	○ 野辺田	
3C		



② 甕棺内部の埋葬状態

③ 館のオブジェの須恵の大甕

この須恵の大甕は、国指定史跡「塚原古墳群」（城南町）のなかの、丸山3号方形周溝墓の周溝から出土した遺物をもとに製作したレプリカです。

遺物としての原寸大のレプリカではなく、館の建物の設計者の意向にもとづき、当装飾古墳館のオブジェとして製作されたものであります。

この甕は、高さが120センチ、最大胴廻りが300センチもあり、古墳時代における日本で最大級の須恵の大甕といえるでしょう。レプリカの材質は、特殊なモルタルを使用しております。このような大甕は、古墳の周溝等からよく発見されますが、もがり等の儀式に使われたものらしく、割られた状態で発見されることが多いようです。

この付近では、チブサン古墳（山鹿市）や、蒲生横穴墓群（同）などから、これに比べるとやや小振の須恵の大甕が出土しております。



③ 館建物オブジェの須恵の大甕

時宜にあった企画展示

—— 過去における企画展示 ——

企画展について

当館では、お客様に常に新しい文化財の情報を提供するため、年に2～3回、時宜にあつた館独自の企画展を主催しています。会場は館内の「企画展示室」を当て、期間は平均1か月乃至2か月間の開催となっています。

企画展の実施は、担当学芸員の学術研究の契機ともなるので、館学芸員の研修の場としての位置づけのもと、職員の総力を結集して企画・運営に当たっております。

また、企画展の場合、企画展示図録を発行し、文化財に関する啓蒙、研究者に対する資料の提供も図っています。当館が、過去に実施した企画展は下記の通りです。

過去における企画展示内容

○平成4年度企画展

・前期 開館記念展

—— よみがえる古代 —— 「装飾古墳の世界」

内容 最近発見された装飾古墳とその文様を紹介し、菊池川流域における集中的分布の背景等を考える。

・後期 第2回企画展

—— 縄文人の暮らしと風景 —— 「黒橋貝塚発掘展」

内容 平成元年から3年かけて県文化課で実施した、黒橋貝塚発掘調査の成果を、一般に初公開する。

○平成5年度企画展

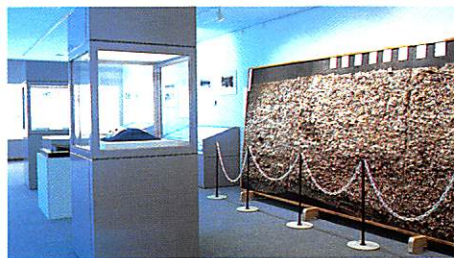
・前期 第3回企画展

—— 免田式土器の謎 —— 「弥生人の祈り」

内容 熊本の代表的な弥生土器である免田式土器の分布を把握し、土器の誕生とその後の行方を追う。



装飾古墳の世界



黒橋貝塚発掘展

・後期 第4回企画展

—— うつわは語る —— 「須恵器の美と技と」

内容 5世紀に朝鮮半島から伝えられた須恵器にスポットを当て、話題の須恵器を一堂に集め比較検討し、その美と技を探る。

○平成6年度企画展

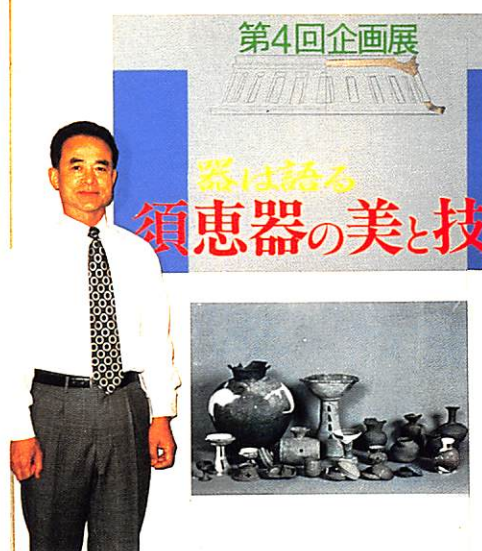
・前期 第5回企画展

—— 肥後古代の森三地区紹介 —— 「古代への誘い」
内容 今年で、県が実施してきた「肥後古代の森」の整備事業が完了する。そこで、三地区の主要史跡等をパネル写真、レプリカ等で紹介する。

・後期 第6回企画展（予定）

—— はにわの考古学 —— 「古墳時代の暮らし」

内容 埴輪を通して、当時の暮らしを考える。



須恵器の美と技と

検索システムとマジックビジョン



装飾古墳検索システム



検索システム

装飾古墳室の一角に、二基の^{けんさく}検索システムの機器を設置しているので、入館者は全国装飾古墳について、知りたいデータを自由に呼び出す事ができます。

このシステムの利用者は、小・中学生等に多く人気を博しています。現在インプットされているデータは、以下のとおりです。

- 第1類 展示されている古墳や横穴墓の特徴
- 第2類 古墳や横穴墓のいろいろなよびかた
- 第3類 古墳や横穴墓に描かれた色々な図柄

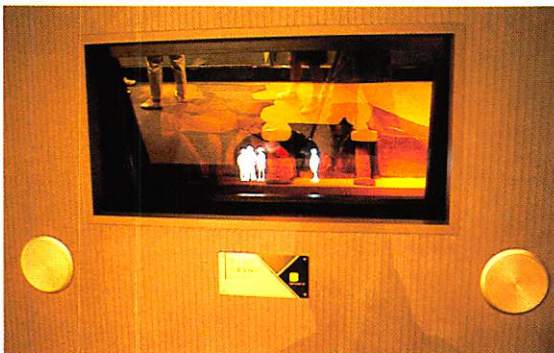
○第4類 全国にある主な装飾古墳や装飾横穴墓の場所

なお、第4類では、熊本県・福岡県・その他九州・外国（朝鮮半島）に分け入力されており、現在把握できる最大の資料を揃えています。

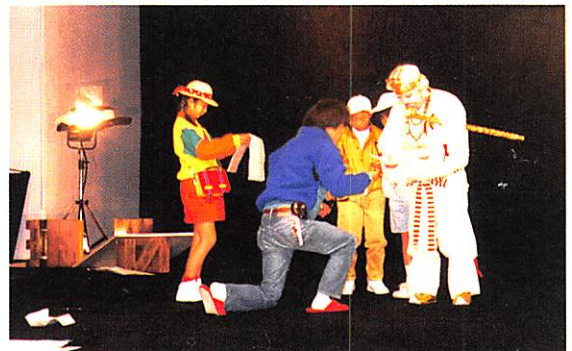
今後、さらに装飾古墳に関する数々のデータ入力の追加を計画中ですので、御期待ください。

マジックビジョン

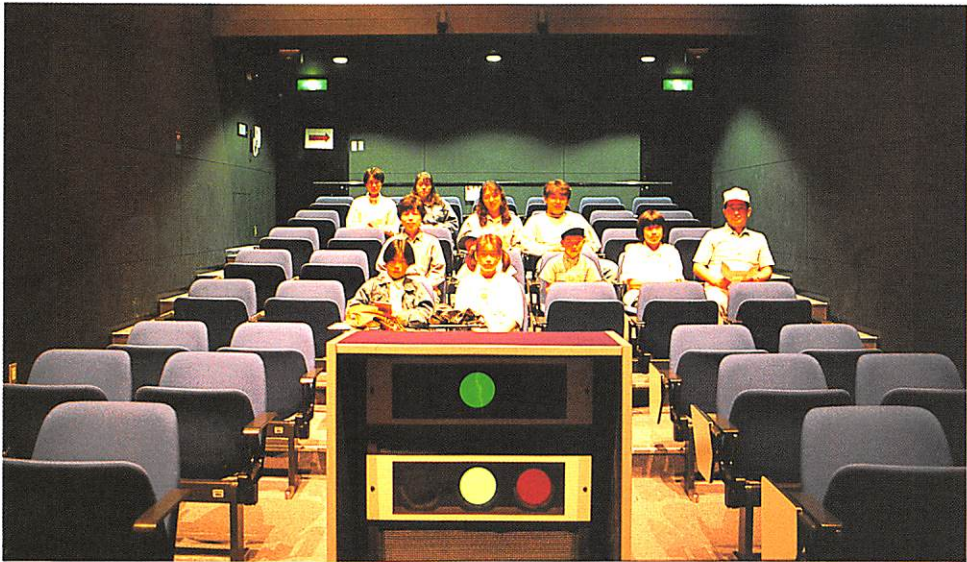
子供たち3人が、古墳（山鹿市所在の弁慶が穴古墳）の探検に出かけて、古墳のなかで被葬者のゴーストと会います。ユニークで楽しい内容の子ども達の冒険を、マジックビジョンで提供します。子供達に大人気の映像施設です。



装飾古墳室内のマジックビジョン



マジックビジョンの撮影風景



人気抜群のイマジネーションホール

イマジネーションホール

イマジネーションホールでは、展示では表現できないもの、理解しにくいものを映像を使って、より歴史への興味を高めます。ホールは、中央のスクリーンに向かって47座席が階段状に並べられ、小シアターといった雰囲気を出しています。映像という手段を用いて人々が歩いて来た道をふりかえるわけですが、このイマジネーションホールでは、※立体映像(3D)やハイビジョン方式による映像などを上映しています。縄文時代の食生活の再現や県内各地の遺跡の紹介、当時の時代背景を、子どもたちにも分かるような内容で解説しており、歴史をより身近なものとして感じることができるよう工夫されています。

「再現・縄文人の食生活」は、20分程度の映像で、大型画面の立体映像装置は世界でも初めての試みです。装飾古墳館開設に併せ、NIIK サービスセンター(財団法人)が開発したものです。他に、2Dの映像2本も準備しております。

上映のご案内

イマジネーションホールでは、開館日に毎日立体映像「生きていた石人」等を上映いたしております。

全ての入館のお客さまに御覧いただくために、入館時にカウンターで、上映時間の御案内をいたしております。上映直前にも館内放送で、上映をお知らせします。

また、団体のお客様の場合は、混雑を避けるため入館時に御覧頂くこともありますので、御了承ください。なお、午後4時20分から最終上映となります。見学に当たっては、下記の事項をお守り下さい。

- (1) 係員の指示に従って下さい。
- (2) ホール内に食べ物、飲み物等を持ち込まないでください。
- (3) 立体映像見学には、特別の眼鏡が必要ですが、壊れやすいので、特に子供さん方の取扱には御注意ください。
なお、団体入館に限り、「装飾古墳」等、他の映像の上映を希望される場合には、事前にカウンターの方にお申し出ください。



※3Dは、a three dimensional film の略。
(3 Dpicture=立体映像)

— 館が現在所有している映像ソフト —

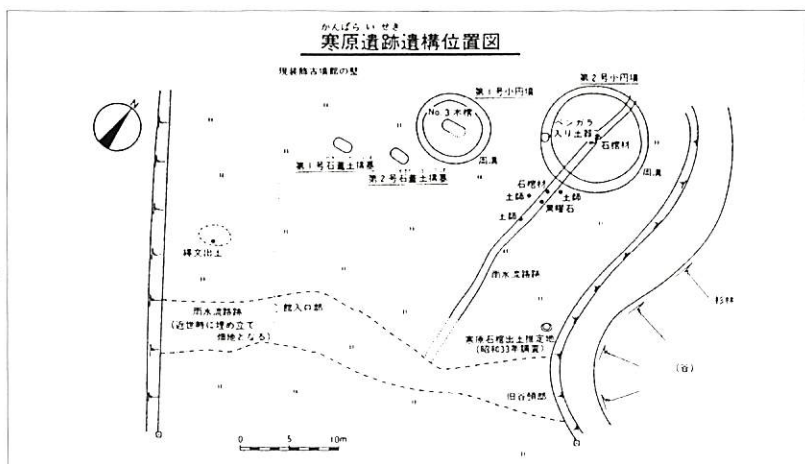
1. 「再現・縄文人の食生活」(立体映像)
2. 「火の国の古代人たち」(常田富士男 出演)
3. 「装飾古墳」
4. 「遺跡紀行・百済の里から火の国まで」
(ハイビジョン対応立体静止画) など
5. 「生きていた石人」(立体映像) 現在上映中

寒原遺跡

寒原遺跡は、昭和33年この地の地主が畑を耕作中に、家形石棺を発見して以来、古墳時代の「周知の遺跡」として現在にいらっています。

この石棺の中から鉄剣や刀子等が発見され、小字名に因んで寒原石棺と命名されました。平成2年2月、熊本県立装飾古墳館の建設に先立ち、県文化課で敷地約7,000平方メートルの発掘調査を実施した結果、北側の一角から、石蓋土壙墓2基、小円墳跡地2基が発見されました。

このため、建物の一部を南に移動させ、遺構の現状保存をはかりました。館の入口一带に屋外展示されている遺構は、その原寸大のレプリカで、現物は地下に保存されております。



第1号石蓋土壙墓

石蓋土壙墓というのは、地面に穴を掘りその底に、さらに遺体を取りめる穴を掘り、その上に石で蓋をして埋葬したお墓のことです。

このお墓には、三枚の安山岩の石の蓋がかぶせられていました。

掘られた穴、つまり土壙は、長さが122センチ、幅25センチ、深さ36センチで、内部には丹が塗られており、葬られた人の頭骨が若干残っていました。副葬品としては、棺のなかから刀子（小刀）1個が発見されました。

お墓が造られたのは、5世紀前半頃と考えられます。

第2号石蓋土壙墓

石蓋は、凝灰岩の亀甲状の板石を使っています。土壙は、長さ129センチ、幅36センチ、深さ33センチで、第1号石蓋土壙墓より若干大きいです。埋葬された遺体は、腐食して消滅していました。

副葬品はありませんでしたが、5世紀前半頃に造られたお墓でしょう。



整備された屋外展示施設



第1号石蓋土壙墓内部



第2号小円墳内の石棺残欠



朱の入った壺2個

第1号小円墳

墳丘はすでに失われていましたが、元来は、周囲に幅80センチの溝を巡らし、直径5.4メートルの墳丘を持つ小円墳であったと考えられます。

内部には、木棺もくかんが収められていたようですが、腐食してしまって棺材を埋め込んだ穴のみが残っていました。この穴から、長さ（内径）131センチ、幅42センチ、深さ37センチの組み合わせ式の木棺が復元されました。

棺の中からは、鉄鏃1個が出土しました。

5世紀前半に造られた古墳と考えられます。

第2号小円墳

この古墳も調査時には、墳丘を失っていましたが、直径9メートルの小円墳であったと思われます。内部の石棺は破壊されており、西側半分しか残っていませんでした。

棺材には凝灰岩の板石を使用しており、箱式石棺であったと思われます。周囲には幅1メートルの溝が巡り、その周溝底から、朱を入れた土師器の壺2個が出土しました。5世紀代に造られた古墳と考えられます。

第3号小円墳

この石棺は、館の北側に隣接する県有地から平成5年に発見された箱式石棺です。先に発見された第1号小円墳、第2号小円墳のグループに属するものでしょう。

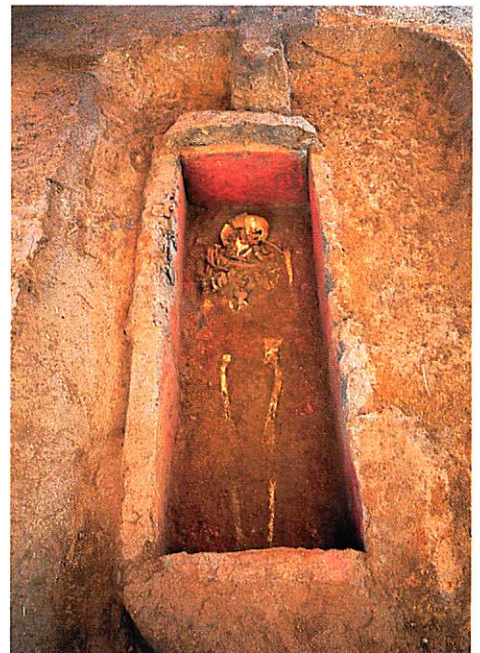
第1、第2号小円墳同様墳丘はありませんでしたが、江戸時代の畑地開墾の際に壊されたものと思われます。

石棺は、整形された凝灰岩の板石を組み合わせて造られ、内面には真っ赤な丹が塗られていました。棺の大きさは、内径で長さ190センチ、横幅60センチ、棺内には、人骨一体が埋葬されていました。副葬品は貧しく、渡金の施されていない耳環2個と鉄鏃と刀子が収められていただけでした。石棺の製作年代は、古墳時代中期（5世紀前半）頃と考えられます。

肥後古代の森整備事業に伴い、石棺は地下に保存し、その上に直径9メートル、高さ1メートルの墳丘を復元しました。



復元された第3号小円墳墳丘



第3号小円墳内の箱式石棺

舟形石棺等（地下中庭展示）

菊池川流域の舟形石棺

古墳時代の石棺の構造をみると、数個の石材を組み合わせた「組み合わせ式」と、一つの石をくり抜いて造った「くり抜き式」とがあります。舟形石棺は後者に属し、加工の容易な阿蘇溶結凝灰岩が多く用いられます。

棺の外側に、吃水線を示す帯状の突起が巡らされているのが特徴です。

古墳時代の前期後半から中期にかけて造られました。

県内では菊池川流域と、宇土、八代地区に多く見られます。舟形石棺は、南方の習俗である「舟葬」の名残りを留める貴重な資料です。

近接する岩原横穴墓群Ⅰ群-14号墓の屍床に残る櫓へそと共に、興味深いものがあります。

- 展示品 辻古墳 1号舟形石棺（中期）
山下古墳 舟形石棺（前期）
（レプリカ）



辻古墳出土舟形石棺（中庭展示）



山下古墳出土舟形石棺（中庭展示）



鹿央町出土家形石棺（中庭展示）

家形石棺と箱式石棺

（地下中庭および館東側展示）

菊池川流域の家形石棺

家形石棺は、棺の蓋が家の屋根の形をしているところから、この名称で呼ばれています。

蓋石の頂部に若干の平坦部をつくり、蓋に縄掛け突起を持っているのが特徴です。

棺身には、くり抜き式と組み合わせ式がありますが、菊池川流域では殆どが組み合わせ式となっています。棺身に縄掛け突起はありません。

菊池川流域の家形石棺は、畿内等で見られるような豪華な家形石棺ではなく、ここに展示しているような、極めて素朴な地方色豊かな石棺で、古墳時代後期に数多く造られました。

- 展示品 鹿央町出土家形石棺（後期）
植木町出土家形石棺（"）
" 箱式石棺（"）

館東側展示場

- 展示品 山鹿市辻古墳出土家形石棺（後期）
" 箱式石棺（後期）
その他小見用石棺蓋部など



館東側展示場石棺群（辻古墳出土他）

移築復元された横山古墳

この古墳は、もと、植木町の大字有泉字横山にあった、長さ約39.5^{ありぜ}、後円部直径29^{ありぜ}、高さ5^{ありぜ}の小型の前方後円墳です。

昭和44年、九州自動車道建設の際に調査が実施され、古墳の内外から、須恵器をはじめ鉄製品（馬具、武器）、装身具（玉類）等二百数十点の遺物が出土しました。しかも、横穴式石室の奥室に設けられた石屋形の両袖石に、装飾文様が描かれているのが発見されたのです。

左袖石の上部には双脚輪状文が描かれ、周囲は赤、青、白の三角文で埋められています。

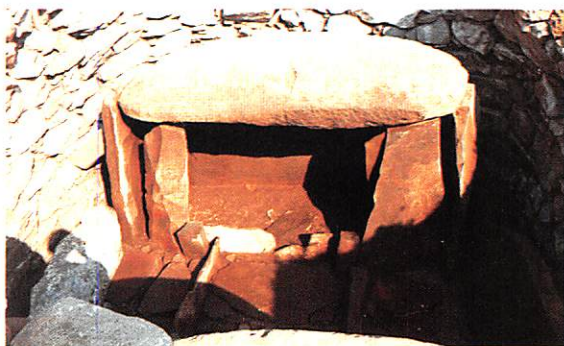
また右袖石には、同心円文、三角文、双脚輪状文が描かれており、その他にも、仕切り石などに三角文、連続三角文が施される第一級の装飾古墳であることが分りました。

それから24年後の平成5年、肥後古代の森(鹿央地区)にこの古墳を復元する事になりました。今まで倉庫に眠っていた大量の古墳石材が運び出され、当時の調査担当者および館職員の指導で、この地に移築復元が成ったのです。

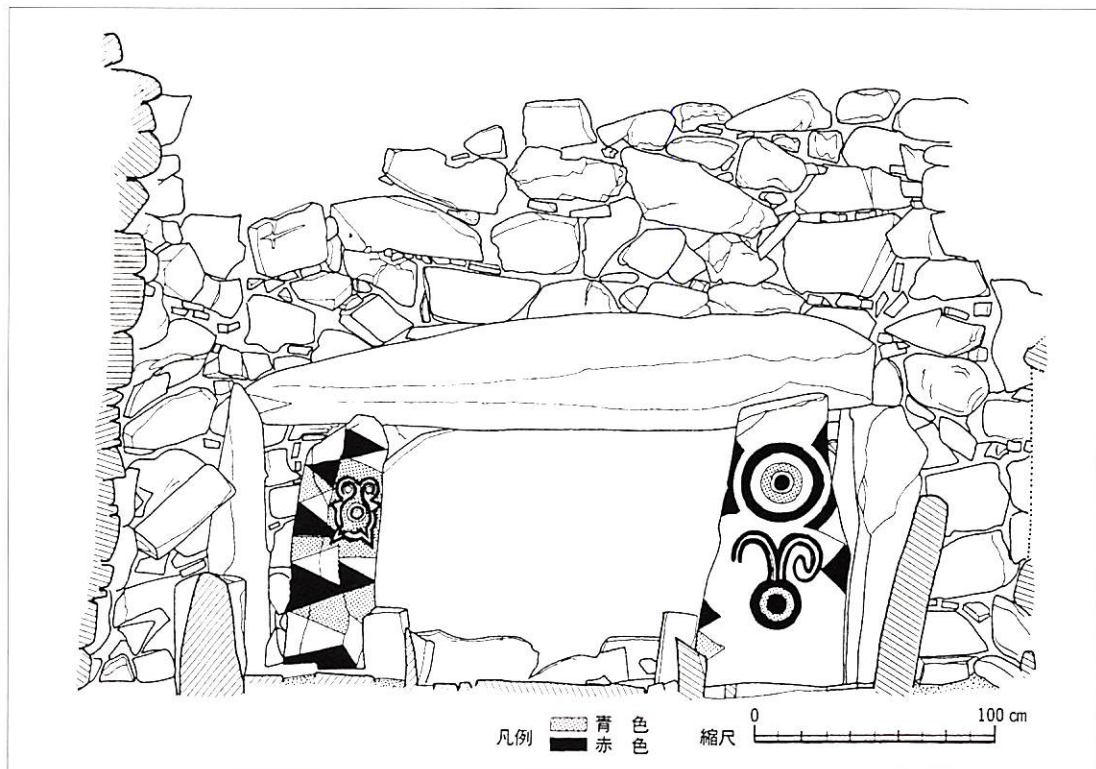
現在、石室内部及び装飾文様等が見学できるよう



発掘調査中の横山古墳



横山古墳の石屋形



横山古墳の装飾文様（石屋形両袖石）



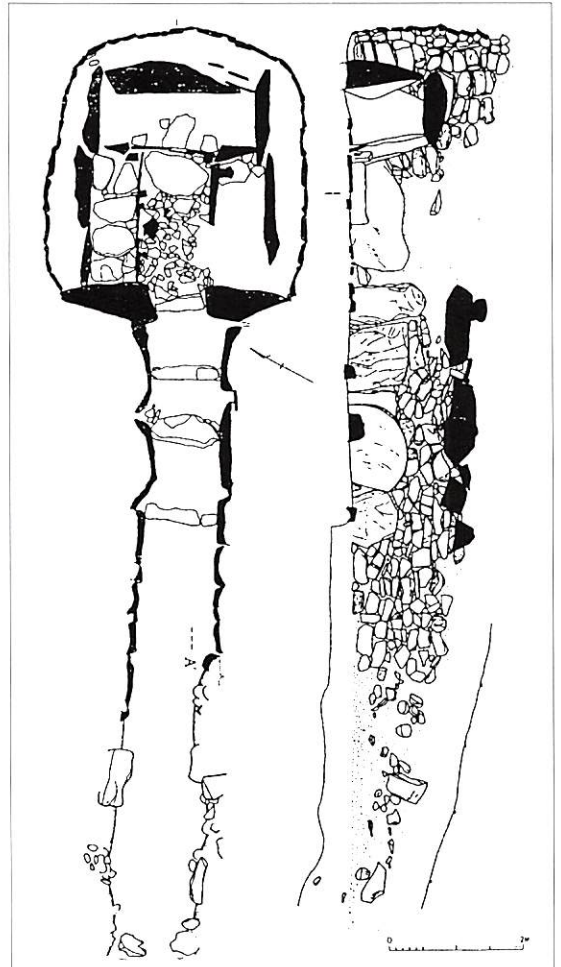
移築復元された横山古墳墳丘

整備されており、多くの見学者が訪れています。思えば、壊された古墳が、24年後にこの地に再び復元できると誰が想像できたでしょうか。当時、調査を担当した一員として、深い感慨を覚えます。

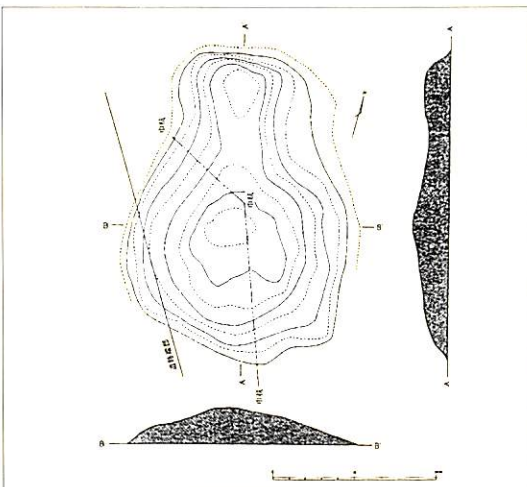
見学の御案内

横山古墳内部の見学時間は、午前9時30分から午後4時30分までとなっております。古墳館の開館・閉館に合わせています。館の休館日は閉鎖していますので、御了承ください。なお、古墳および装飾文様についての解説板は、見学路入口と古墳内部の2か所に設けています。

内部にはいますと、中にもうひとつ鉄の扉がありますので、それを開けて見学してください。明かりは、センサーが感知して点灯しますので、中にお入りください。



横山古墳石室実測図



墳丘実測図

肥後古代の森の史跡と遺跡

— 鹿央地区 —

肥後古代の森（鹿央地区）

肥後古代の森は、菊池川流域のなかで古代の遺跡が数多くある山鹿地区、菊水地区と、この鹿央地区（岩原台地）の三地区からなっています。

岩原台地は、菊池川の中流域にあり、東に菊鹿盆地の水田地帯を見下ろし、遠く阿蘇山の噴煙を望むことができます。また、東から北にかけては、伝説の豊富な不動岩、震岳、彦岳などの山々が連なり、西には米野山があり、素晴らしい自然環境に恵まれています。

この台地には、国指定史跡の岩原古墳群があり、前方後円墳の双子塚古墳を中心に円墳群が並び、古墳時代の風景をしるふことができます。

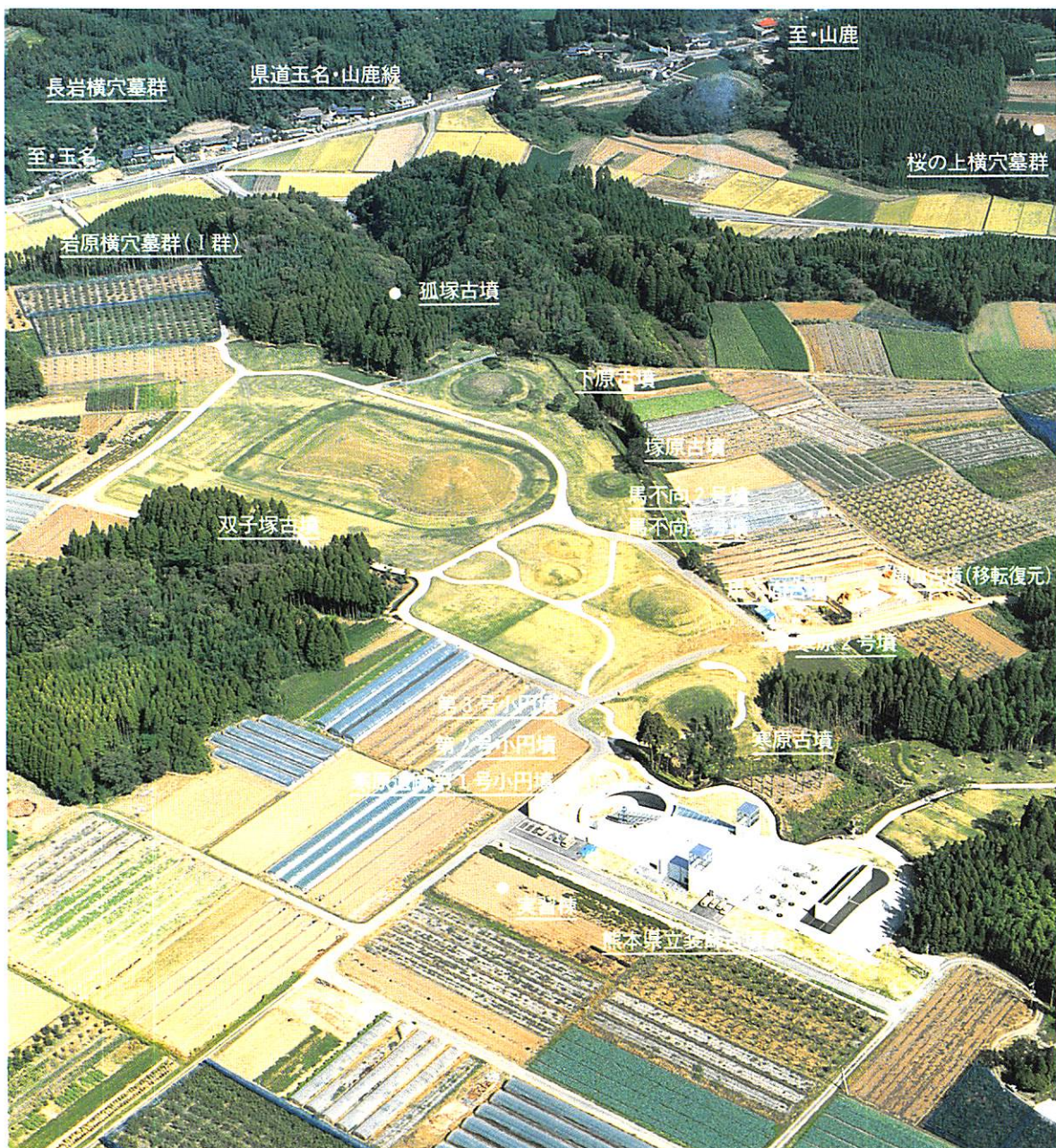
また、台地の周辺には、装飾をもつ岩原横穴墓群（県指定史跡）、桜の上横穴墓群（同）、長岩横穴墓群（同）、小原大塚横穴墓群、小原浦田横穴墓群などの横穴墓群が密集しており、特異な古代遺跡の集積地となっています。



装飾古墳館周辺の史跡・遺跡群



古墳の築造に励む人々（菊水町提供）



空から見た岩原古墳群（国指定史跡）

岩原古墳群の中の雄、双子塚古墳は、丘の長さが107㍍、後円部直径57㍍、高さ9㍍の前方後円墳で、日本有数の姿形を持つ国指定の史跡です。

昔から、^{ふたごづか}双子塚または夫婦塚とよばれ、丘陵に描くなだらかなスロープは、王者の墓にふさわしい美しさと力強さを感じさせます。この古墳を中心に円墳が点在し、石棺等が多数発見されております。

古代豪族の一大墓所であったこの一帯も、現在、県立肥後古代の森（鹿央地区）として整備され、多くの人々の学習と憩いの場所として大いに利用されております。

館周辺の遺跡

(1) 岩原台地上の遺跡群

装飾古墳館のある岩原台地は、東西1,000m、南北約700mの広大な台地です。乾燥度が激しいため、現在、畑地として利用されています。

この岩原台地上の遺跡としては、現在A～E地点の5か所程が確認されており、遺物の散布が見られます。A～B地点からは、先土器時代のナイフ形石器、スクレーパー等が、また縄文時代の遺物としては、ドリル、石匙、石鏃、石斧（打製、磨製）敲石、くぼみ石などが採集されています。A～B地点は、館の東側、深く侵食した谷の東一帯に位置します。

また、弥生時代の遺物としては、館西側のC地点から中、後期の弥生の甕形土器片をはじめ石包丁等が、古墳時代では、須恵器の坏蓋や円筒埴輪片、歴史時代では、甕の柄や破片などが採集されています。

散布する遺物から見ると、古墳時代の豪族の墓所となった時期を除いてこの岩原台地は、先土器時代から古代にかけて、人々の生活の舞台となっていたことが分ります。

これらの遺物は、地元岩原地区の立山淳一、立山賢志君達によって採集されたものです。

(2) 岩原横穴墓群

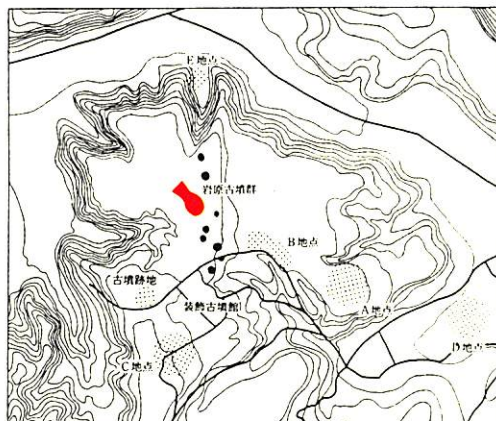
岩原横穴墓群は、米野山の北麓に広がる岩原台地（標高75m）の北側から南西側にかけての崖面に6群、131基の横穴墓があります。この内の8基に装飾が見られます。

装飾があるのは、I群（48基）に6基と最も多く、他にIV群（11基）とV群（43基）にそれぞれ1基があります。

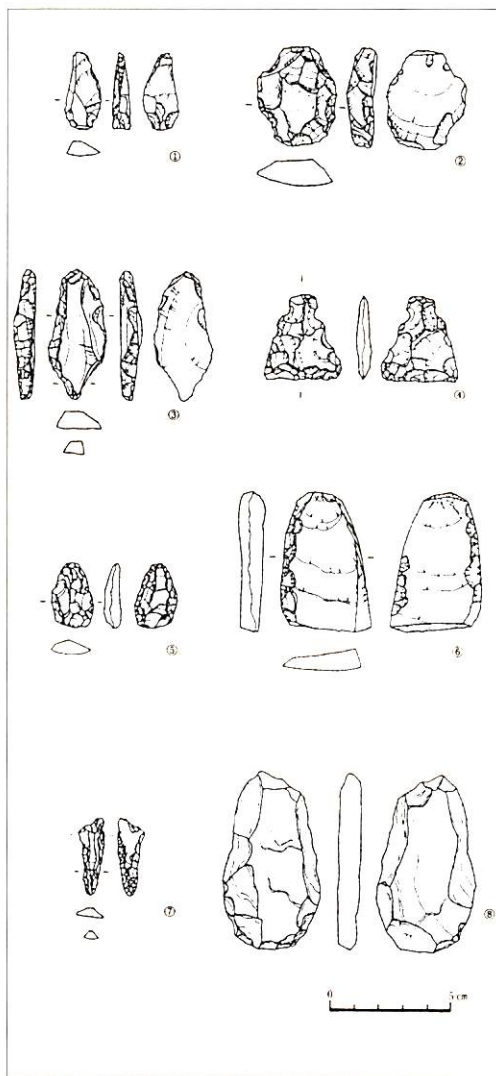
整備し公園化したI群を見てみますと、14号墓は奥屍床障壁を舟形にして、櫓べそが設けられています。続いて、15号墓に連続三角文の装飾。24、26号墓は小型横穴墓。38、39号墓には赤の彩色。32号墓には靱の浮き彫り。41号墓は未完成横穴墓と、I群には見るべき遺構が数多く残っています。



岩原横穴墓群（I群）遠景



岩原古墳群周辺遺跡分布図



岩原古墳群周辺採集遺物（①②③は先土器時代）

舟と舟葬思想

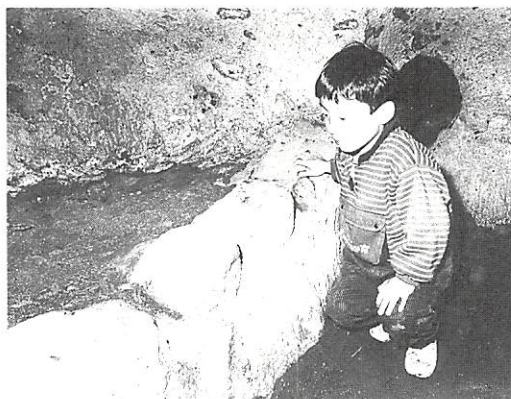
(3) 舟葬について

舟葬とは、人が死んだら遺骸を舟に乗せて、海のかなたの祖先の国、死者の国に送り返そうとする習俗で、古くポリネシアやミクロネシアなど南の島々で広く行われていました。

わが国では、古墳時代中期から後期にかけて、その影響を受けました。

古墳館の地下中庭に展示している舟形石棺は、それを示す有力な資料ですが、菊池川流域は、九州でもその分布の多い所です。

岩原横穴墓1群-14号墓の墓室内に設けられた奥屍床には、舟のかたちに両端が反り上がった舷と、舟をこぐ時の櫓べそが造り出されています。古代におけるこの地方の人々の意識の中に、南方の習俗である舟葬の影響があったことを物語る好例といえましょう。



岩原横穴墓1群-14号の櫓べそ

(4) 長岩横穴墓群

長岩横穴墓群（県指定史跡）は、岩原横穴墓群に相対する志々岐台地の南崖面にあります。

大小さまざまな横穴墓が約118基残っており、その内6か所に装飾が見られます。

これらの装飾の中でもっとも代表的なものが、東から数えて108号と109号の間にある浮き彫りです。108号の上方に人物と靫と楯らしきものがあります。

また、109号の二つ並んだ大楯の浮き彫りは、雄大なものです。岩肌は良く研磨され、表面の細かい斜交の刻線は、この楯が革縫いの楯であることを示しています。楯の上部の、丸みをもった山形のカーブがこの楯の特徴です。

大正天皇御即位の儀式に、使用する古代の楯を製作する際、この浮き彫りの楯が、参考に供されたという地元伝承も残っているほどです。

装飾文様をカットしている横溝は、後世、ここから屋根を葺き下ろした際のタルギ受けのあとです。

装飾古墳館周辺崖面には、この他、桜の上、小原大塚、小原浦田横穴墓群等四百基にもものぼる横穴墓が残っていて、6世紀から7世紀にかけての熊本の古代史を知るうえでの貴重な学術資料となっています。



小原大塚横穴墓の舟と靫（39号）



長岩横穴墓の装飾文様（108号と109号）

(5) 桜の上横穴墓群 (県指定史跡)

この横穴墓群は、志々岐台地の東南の凝灰岩壁に設けられています。11基の横穴墓からなり、その1号と2号に装飾文様が見られます。

1号墓は、羨道および前室と奥室からなり、高塚式の古墳に見られる横穴式複室墳の形をとっています。

装飾は、奥室入り口の左右の袖石に、四神獣らしきものが描かれています。

また、奥屍床の仕切りは、舳の上上がった舟形に造られています。この仕切り石には連続三角文が、奥壁中央にも、二重同心円文が描かれています。

2号墓には、奥床前端的仕切りから、中央通路にかけて、赤地に白色で大の字状の人物像が描かれています。また、中央の通路左右の仕切り部の通路側には、白色でゴンドラ形の舟が各一隻ずつが描かれていましたが、現在では彩色は薄れてしまっているようです。

この他、桜の上には、小型横穴墓等もあり、興味をそそられます。

(6) 見学の御案内

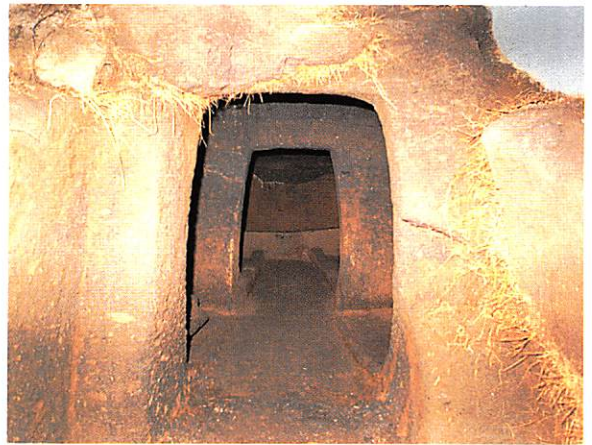
装飾のある1号横穴墓については、その保存上の必要性から、保護施設を設けており、一般公開はしていません。

ただし、調査・研究等で見学を必要とする方は、管理者の鹿央町教育委員会から鍵を預かっていますので、カウンターまでお申し出ください。

なお、その他の桜の上横穴墓については、自由に見学することができます。



桜の上 1号横穴墓遠景



1号墓室内の状況



桜の上横穴墓出土遺物



舟を形どった奥屍床の状況

館の体験学習会

県民参加型の博物館をめざして

従来の博物館は、中央・地方を問わず、自然科学及び人文科学を網羅する総合博物館を目指した時期がありました。

しかし、近年における博物館は、専門化、テーマ化が全国的な傾向となっています。

特に考古系や民俗学系博物館では、展示資料の量的な限界もあり、館独自のテーマの設定や特別活動などが重要な課題となっています。

この事は、県民の多様なニーズに応えるものとして、大いに歓迎され期待されています。当館もこの期待に沿いたいと考えています。



どんな味かなドングリクッキー



火起こし実験



親子古代絵画教室



館内学習会

体験学習会

そこで、当装飾古墳館では、従来の展示して「見せる」だけの博物館から脱却して「県民参加型」の博物館をめざします。

具体的には、原始・古代の衣・食・住にかかわる、より身近なテーマを中心に置き、屋内外での体験学習を行います。このことは、生涯学習の推進や、学校週五日制の実施とも関連して、さらに県民の要望が高まる傾向にあります。

このため、館では別館の「実習棟」の建設を計画し、新設実習棟での体験学習の充実をめざしています。

菊池川流域関係歴史年表

年代	時代	西暦	事 項	年代	時代	西暦	事 項
50万	先 土 器 時 代		●原人類現わる 直立猿人 北京原人	1万	早		東鍋田遺跡（山鹿市） 轟貝塚（宇土市） 向原遺跡（鹿央町） 長沖遺跡（山鹿市） 浦生・下原遺跡（山鹿市）
8万			4000	縄			曾畑貝塚（宇土市）
4万			3000	文	阿高貝塚（城南町） 黒橋貝塚（城南町） 若園貝塚（菊水町） 南福寺貝塚（水俣市）		
3万			2000	時	二子山石器製作遺跡（西合志町） 西平貝塚（竜北町） 鍋田東遺跡（山鹿市） 三方田東原遺跡（泗水町） 御領貝塚（城南町）		
2万	後		曲野遺跡（松橋町） 狸谷遺跡（山江村） 大観峰遺跡（阿蘇町） 伊野遺跡（菊池市） 下城遺跡（小国町） 松島遺跡（七城町） 柿原遺跡（鹿北町） ●土器が作り始められる	1000	代	天城遺跡（菊池市） 牛草遺跡（山鹿市） この頃、水田耕作が始まる	
	(草創期)			300	晩		●弥生式土器の使用始まる 無田原甕棺群（大津町）

年代	時代	西暦	事 項	年代	時代	西暦	事 項		
900	平	858	鞠智城の不動倉11棟が焼ける	1400	南 北 室 朝	1333	●鎌倉幕府の滅亡		
		859	合志郡の西部をわけて山本郡をおく			1334	●建武の新政 菊池武重、肥後守護に任ぜられる		
		869	大水害が肥後一円を襲う			1336	南北朝抗争時代に入る		
		879	群鳥が菊池郡の倉庫の葺草を噛みぬく			1358	日輪寺の梵鐘		
		905	●古今和歌集・延喜式ができる			1369	西福寺摩崖仏		
	1000	安	935		●承平・天慶の乱始まる 和名抄に「温泉・来民・小野・津村・神世・ 緒緑・伊智・夜間・三重・高原」等の鹿本 都市関係の郷名がみえる	1392	●南北朝合一		
			986		清原元輔が肥後の国司となる	1400	町	1423	南・北の阿蘇大宮司家が統一
			992		肥後に玉名庄など大宰府天満宮の荘園 ができる			1500	時 代 戦 国 期
			1058		康平寺の建立（鹿央町）	1472	菊池重朝が孔子廟を建てる		
			1086		●白河院政始まる	1520	菊池氏滅亡		
1100		時	1092	山鹿荘が白河院に寄進される このころ中村庵寺建立される(山鹿市)	1600	安土 桃山 時代	1559	菊池氏の三家老の対立抗争	
			1145	僧、慶有が蒲生に埋経（久安の経筒） （山鹿市）			1573	●足利氏滅亡	
			1192	●鎌倉幕府の創立			1587	佐々成政肥後入国 肥後国衆一揆	
			1198	相良頼景が多良木庄の地頭になる			1588	加藤清正入国 この頃から、菊池川の水運盛んとなる	
			1221	●承久の変 菊池隆定・能隆京方につく			1600	●関ヶ原の戦い	
	1200	鎌 倉 時 代	1274	●文永の役 菊池武房・竹崎季長等肥後国御家人出 陣	1603	●江戸幕府の創立			
			1300	代	江 戸 時 代	1632	細川忠利、熊本城入城		



●印は全国の事柄

県内主要装飾古墳見学案内一覧

(1) 菊池川流域の装飾古墳

	古 墳 名	場 所	管 理 者	見 学 の 是 非
1	チブサン古墳	山鹿市城西福寺	山鹿市教育委員会	可
2	オブサン古墳	山鹿市城西福寺	同上	可
3	鍋田横穴墓群	山鹿市鍋田	同上	可
4	弁慶が穴古墳	山鹿市熊入	同上	可
5	馬塚古墳	山鹿市鬼天神	同上	可
6	臼塚古墳	山鹿市臼塚	同上	不可
7	小原大塚横穴墓群	山鹿市小原大塚	同上	可
8	長岩横穴墓群	山鹿市志々岐長岩	同上	可
9	付城横穴墓群	山鹿市城付城・小原	同上	可
10	城横穴墓群	山鹿市城	同上	可
11	小原浦田横穴墓群	山鹿市小原浦田	同上	可
12	桜ノ上横穴墓群	鹿央町岩原大野原	鹿央町教育委員会	可・注、本文の項参照
13	岩原横穴墓群	鹿央町岩原塚原	同上	可
14	長力・北原横穴墓群	菊水町瀬川長力・北原	菊水町教育委員会	可
15	塚坊主古墳	菊水町瀬川清水原	同上	不可(公開を検討中)
16	江田穴観音古墳	菊水町江田	同上	可
17	馬出古墳	玉名市玉名馬出	玉名市教育委員会	消失
18	永安寺東古墳	玉名市玉名永安寺	同上	不可・注
19	永安寺西古墳	玉名市玉名永安寺	同上	可
20	大坊古墳	玉名市玉名出口	同上	不可
21	石貫穴観音横穴墓群	玉名市石貫安世寺	同上	可
22	石貫ナギノ横穴墓群	玉名市石貫ナギノ	同上	可
23	石貫古城横穴墓群	玉名市石貫古城原	同上	可
24	原横穴墓群	玉名市富尾原	同上	可
25	横島横穴墓群	玉名市溝ノ上横島	同上	可
26	城迫間横穴墓群	玉名市溝ノ上城迫間	同上	可
27	田崎横穴墓群	玉名市田崎檜山	同上	可
28	大原9号石棺	岱明町野口大原	岱明町教育委員会	可
29	横山古墳	植木町有泉横山	熊本県立装飾古墳館	平成5年移転復元
30	石川山4号古墳	植木町石川塚前	植木町教育委員会	可
31	袈裟尾高塚古墳	菊池市袈裟尾高塚	菊池市教育委員会	可
32	御霊塚古墳	鹿本町津袋広江	鹿本町教育委員会	可
33	四ツ山古墳	荒尾市大島区笹原四ツ山神社内	荒尾市教育委員会	可
34	三ノ宮古墳	荒尾市平井区下井出三ノ宮	同上	可

(2) その他県内の装飾古墳

1	釜尾古墳	熊本市釜尾	熊本市教育委員会	可
2	千金甲古墳第1号墳	熊本市小島下町勝負谷	同上	不可
3	千金甲古墳第3号墳	熊本市小島下町高城山	同上	不可
4	稲荷山古墳	熊本市清水町打越	同上	不可
5	井寺古墳	嘉島町井寺富屋敷	嘉島町教育委員会	可
6	今城大塚古墳	御船町滝川	御船町教育委員会	不可
7	小田良古墳	三角町中村前畑	三角町教育委員会	可
8	鴨籠古墳石棺	熊本県立美術館	熊本県立美術館	可
9	国越古墳	不知火町長崎国越	不知火町教育委員会	可
10	広浦古墳石材	熊本県立美術館	熊本県立美術館	可
11	長砂連古墳	大矢野町長砂連上貝場	大矢野町教育委員会	可
12	大鼠蔵東麓1号古墳石材	八代市立博物館	八代市立博物館	可
13	田川内1号(甲号)古墳	八代市日奈久新田町	八代市教育委員会	可
14	大村横穴墓群	人吉市城本町	人吉市教育委員会	可
15	京が峰横穴墓群	錦町蓑毛田	錦町教育委員会	可

(1) 菊池川流域の装飾古墳

1	チブサン古墳・管理者（山鹿市立博物館）☎0968-43-1145	見学日・休館日以外可 時間 午前10時と午後2時 料金 大人 100円 団体（20名以上）大人 60円 子ども 50円 子ども 30円 その他 博物館で申し込んでください。係員が案内します。 休館日は月曜日です。月曜日が祝祭日の場合は、翌日が休館日となります。	13	岩原横穴墓群・管理者（鹿央町教育委員会）☎0968-36-2183	見学できます。 その他 駐車場・トイレ・ベンチ有ります。木陰もあり静かで見学の休憩には最適です。
2	オブサン古墳・管理者（同 上）	見学は自由です。 その他 公園の一角にトイレ、休憩所があります。	14	長力・北原横穴墓群・管理者（菊水町教育委員会）☎0968-86-3131	見学は自由です。 その他
3	鍋田横穴墓群・管理者（同 上）	見学は自由です。 その他 公園になっています。トイレ有り。水遊び場もあります。	15	塚坊主古墳・管理者（同 上）	現在は見学できません。来年度以降、保全工事完了後一般公開を検討中です。 その他
4	弁慶が穴古墳・管理者（同 上）	見学日・休館日以外可 時間 午前10時と午後2時 料金 大人 100円 団体（20名以上）大人 60円 子ども 50円 子ども 30円 その他 博物館で申し込んでください。係員が案内します。 休館日は月曜日です。月曜日が祝祭日の場合は、翌日が休館日となります。	16	江田穴観音古墳・管理者（同 上）	見学できます。事前に教育委員会に見学を申し出てください。なお石室内保全のため見学をお断りする場合もできます。御了承下さい。日、祝日は御遠慮ください。 その他
5	馬塚古墳・管理者（山鹿市教育委員会）☎0968-43-1111	見学できません。石室内の装飾の保全のため、見学は当分の間できません。 その他	17	馬出古墳・管理者（玉名市教育委員会）☎0968-75-1312	現在、消失しておりわずかに封土の一部を残すのみです。 その他 熊本県装飾古墳総合調査報告書（1884刊）に記録。
6	白塚古墳・管理者（山鹿市教育委員会）☎0968-43-1111	見学できません。 その他	18	永安寺東古墳・管理者（同 上）	見学できません。現在石室内の損傷が進んでいるため一般公開はしていません。 その他 見学希望の場合、公的機関より文書等を提出願います。
7	小原横穴墓群・管理者（同 上）	見学は自由です。 その他	19	永安寺西古墳・管理者（玉名市教育委員会）☎0968-75-1312	見学できます。 その他 住宅の裏になりますので、迷惑にならないよう見学してください。
8	長岩横穴墓群・管理者（同 上）	見学は自由です。 その他	20	大坊古墳・管理者（同 上）	見学できます。年に一度10月第3土・日に公開します。（1992年度） その他
9	付城横穴墓群・管理者（同 上）	見学は自由です。ただし、足元に御注意ください。 その他	21~23	石貫穴観音・ナギノ・古城横穴墓群 管理者（同上）	見学は自由です。 その他 未整備のところもありますので、見学の際十分気を付けてください。
10	城横穴墓群・管理者（同 上）	見学は自由です。ただし、足元に御注意ください。 その他	24	原横穴墓群・管理者（同 上）	見学は自由です。 その他 未整備ですから、見学には十分気を付けてください。
11	小原浦田横穴墓群・管理者（同 上）	見学は自由です。 その他	25	横島横穴墓群・管理者（同 上）	見学は自由です。 その他 未整備ですから、見学には十分気を付けてください。
12	桜ノ上横穴墓群・管理者（鹿央町教育委員会）☎0968-36-2183	見学できます。ただし、1号墳については、事前に必ず教育委員会に連絡してください。なお、保全のため見学をお断りする場合もできます。御了承下さい。また、日・祝日は見学できません。 その他	26	城迫間横穴墓群・管理者（同 上）	見学は自由です。 その他、未整備ですから、見学には十分気を付けてください。
			27	田崎横穴墓群・管理者（同 上）	見学は自由です。 その他、未整備ですから、見学には十分気を付けてください。

28	大原9号石棺・管理者（岱明町教育委員会）☎0968-57-0135
	見学できます。現在、岱明町公民館敷地内に復元展示中です。その他 見学は自由にできます。
29	横山古墳・管理者（県立装飾古墳館）☎0968-36-2151
	見学できます。高速度建設にともない記録保存をしました。その他 平成5年に肥後古代の森（鹿央地区）に移転復元。午前9時30分から4時30分まで一般公開中
30	石川山4号古墳・管理者（植木町教育委員会）☎096-272-6906
	見学できます。その他 未整備です。見学される場合、足元に気をつけてください。
31	袈裟尾高塚古墳・管理者（菊池市教育委員会）☎0968-25-1672
	見学できます。市教育委員会に事前に見学目的・日程・時間等を必ず御連絡おねがいします。日・祝日は御遠慮ください。その他 施設してあります。鍵は教育委員会が保管しています。
32	御霊塚古墳・管理者（鹿本町教育委員会）☎0968-46-4270
	見学できます。教育委員会および富田昭一氏宅に鍵が保管されています。見学される時は教育委員会に連絡をお願いします。その他 富田昭一氏の連絡先☎0968-46-4760
33	四ツ山古墳・管理者（荒尾市教育委員会）☎0968-63-1111・内線266
	見学できます。その他 現在、神社の境内の下になっています。見学する時はお気を付けてください。
34	三ノ宮古墳・管理者（同上）
	見学できます。その他 石室は未調査。石人と装飾のある板石が神社に保管されています。

(2) その他、県内の装飾古墳

1	釜尾古墳・管理者（熊本市教育委員会・文化課文化財係）☎096-328-2741
	見学できます。申請書を教育委員会（文化財係）に事前に提出してください。見学日については教育委員会に申請書を提出するとき御相談ください。鍵は地元の田代氏が保管されています。申請書は当館にあります。その他 田代氏の連絡先☎096-245-0434 必ず教育委員会を通じて連絡して下さい。
2～3	千金甲古墳第1号・3号墳・管理者（同上）
	見学できません。その他
4	稲荷山古墳・管理者（同上）
	見学できません。その他
5	井寺古墳・管理者（嘉島町教育委員会）☎096-237-0058
	見学できます。許可申請書を教育委員会に提出してください。申請書は当館にあります。見学日は申請する時に教育委員会に相談してください。
6	今城大塚古墳・管理者（御船町教育委員会）☎096-282-1111
	見学できません。その他

7	小田良古墳・管理者（三角町教育委員会）☎0964-52-2245
	見学できます。見学される場合は必ず教育委員会に連絡してください。ただし、内部の装飾文様は見れません。その他 足元が悪いので、見学の際は十分気を付けてください。
8	鴨籠古墳・石棺・管理者（熊本県立美術館）☎096-352-2111
	見学できます。現在、石棺は熊本県立美術館に保管・展示してあります。その他 古墳は現在消失しています。
9	国越古墳・管理者（不知火町教育委員会）☎0964-32-0277
	見学できません。その他 現在、装飾古墳館に出土遺物は保管・展示してあります。
10	広浦古墳・石材・管理者（熊本県立美術館）☎096-352-2111
	見学できます。現在、石材は熊本県立美術館に保管・展示してあります。その他 古墳は現在消失しています。
11	長砂連古墳・管理者（大矢野町教育委員会）☎0964-56-1111
	見学できます。教育委員会に連絡して許可を取ってください。鍵は地元の塩田氏が保管されています。その他 塩田氏の連絡先☎0964-59-0361
12	大鼠蔵東麓1号古墳石材・管理者（八代市立博物館）☎0965-34-5555
	見学できます。現在、石材は八代市立博物館に保管・展示してあります。その他 現在、古墳は消失しています。
13	田川内1号（甲号）古墳・管理者（八代市教育委員会）☎0965-33-4111
	見学できます。教育委員会に連絡して許可を得てください。管理者は森下安治氏。鍵は森下氏が保管されています。その他 森下安治氏の連絡先☎0965-38-1621
14	大村横穴墓群・管理者（人吉市教育委員会）☎0966-22-2111
	見学は自由です。その他 人吉駅の真側にあります。
15	京が峰横穴墓群・管理者（錦町教育委員会）☎0966-38-1111
	見学は自由です。その他 線路横を通っていきますので、見学に際して十分気を付けてください。壁面がもろくなっており、石が落ちてくる場合があります。見学時は頭上に御注意下さい。



全国風土記の丘（資料館）一覧

風土記の丘構想

全国の風土記の丘は、昭和41年文化財保護委員会（現文化庁）によって発案された「風土記の丘構想」に基づいて設置されたものであります。

昭和35年以降は、乱開発によって各地で自然環境や遺跡が無差別に破壊された時代でしたが、このような環境変化に対応するため、遺跡の広域保存と環境整備をはかり、併せて資料の収蔵設備を備えた事業計画が風土記の丘構想でありました。

事業計画は、用地の確保、環境整備、資料館の設置を中心に据え、設置場所は遺跡を広域にもち自然環境を保った地域が当てられ、公有化によって確保される基準面積は16万5千㎡以上とされました。

熊本県では、昭和54年からこの事業に着手し、平成4年4月15日にその中核となる「熊本県立装飾古墳館」の開館をみるに到ったもので、当施設は全国では13番目の開設となります。



館内地下ホール展示の全国風土記の丘一覧

肥後古代の森（風土記の丘）

熊本県では、文化庁の「風土記の丘設置基準要項」に基づき、昭和54年から風土記の丘整備事業に着手しました。

熊本県の場合、肥後古代の森が三地区に分かれているのは、菊池川流域には、装飾古墳が集中的に分布しており、国・県指定の「史跡」が多いため、一市二町が整備対象地区として選ばれたからです。当時は、「菊池川流域風土記の丘」と仮称で呼んでいました。

平成3年には、「肥後古代の森」と正式名称が決定され、整備地区はそれぞれ、「山鹿地区」「鹿央地区」「菊水地区」となりました。そして、平成4年、その中核施設として、また、三地区のガイドセンター的役割も担って、鹿央地区に熊本県立装飾古墳館が開館しました。

平成6年度で、県が進めて来た肥後古代の森整備事業も終了しますが、館では、さらなる発展を目指して、現在「実習棟」の新設に着手しています。



肥後古代の森・三地区案内図

全国風土記の丘一覧

	風土記の丘名称	同・資料館名称	郵便番号	所 在 地	TEL
1	しもつけ風土記の丘	栃木県しもつけ風土記の丘資料館	329-04	栃木県下都賀郡国分寺町大字国分993	0285-44-5049
		<p>栃木県の南西部を流れる思川・姿川流域には、古墳時代から律令期にかけての重要な遺跡が多く、古代下野国の中心地でありました。資料館には、周辺古墳群の出土品や、下野国分寺・国分尼寺に関する資料を中心に展示されています。</p>			
2	さきたま風土記の丘	埼玉県さきたま資料館	361	埼玉県行田市大字埼玉4834	0485-59-1111
		<p>国宝金錯銘鉄剣の出土で著名な、稲荷山古墳のある埼玉古墳群を中心とする風土記の丘です。忍藩主松平家の菩提寺でもある天祥寺や、天正年間の忍城水攻めの遺構等が整備されています。資料館には石田堤等に関するものや、民俗資料も納められています。</p>			
3	ほうそう房総風土記の丘	千葉県立房総風土記の丘資料館	270-15	千葉県印旛郡栄町竜角寺978	9476-95-3126
		<p>千葉県の北総台地にあります。史跡岩屋古墳をはじめ百数十基にも及ぶ竜角寺古墳群と、白鳳時代の寺院である竜角寺との組み合わせが特色となっています。資料館には、考古資料や民俗資料を展示しています。</p>			
4	たてやま立山風土記の丘	富山県立立山博物館	930-14	富山県中新川郡立山町芦崎寺	0764-81-1216
		<p>富山県立山町にあります。かつて芦崎寺は、阿彌陀信仰を基本とした立山信仰の中心地として、多くの宿坊が軒を並べて栄えていました。博物館には、立山信仰関係の資料等が展示されています。</p>			
5	かい甲斐風土記の丘	山梨県立考古博物館	400-15	山梨県東八代郡中路町下曾根923	055266-3881
		<p>曾根丘陵の古墳群を中心とする風土記の丘です。古墳群中に考古博物館があり、周辺部には、古代生活体験のキャンプ場や、歴史植物園、日本庭園、研修センターなどの多目的施設が併設されています。</p>			
6	近江風土記の丘	滋賀県立近江風土記の丘資料館	521-13	滋賀県蒲生郡安土町大字下豊浦	0748-46-2427
		<p>滋賀県蒲生郡安土町にあります。織田信長の居城であり、近世城郭の先駆とされる特別史跡安土城跡を中心に整備しています。観音城跡、史跡瓢箪塚古墳などの豊富な遺跡・史跡のなかに資料館が位置しています。</p>			
7	近つ飛鳥風土記の丘	近つ飛鳥風土記の丘資料館	585	大阪府南河内郡河南町大字東山299	0721-93-8321
		<p>「近つ飛鳥」とは、古代河内地域の名称にちなんだものです。約250基からなる一須賀古墳群を中心として史跡の整備がおこなわれています。なお資料館は平成六年に完成しました。</p>			
8	きい紀伊風土記の丘	和歌山県立紀伊風土記の丘資料館	640	和歌山県和歌山市岩橋1411	0734-71-6123
		<p>和歌山市にある特別史跡岩橋千塚古墳群を中心に整備されたものです。弥生時代の高床式倉庫を模した松下記念資料館があり、出土品などを展示しています。移築復原した民家にも、農耕・漁労具などの民俗資料が展示されています。また万葉植物園も併設されています。</p>			

9	八雲立つ風土記の丘	島根県八雲立つ風土記の丘資料館	690	島根県松江市大庭町有456	0852-23-2485
		島根県松江市。この一帯はくまびき神話の地で、縄文・弥生・古墳時代の遺跡をはじめ、出雲国府や国分寺、出雲国造家関係の社寺遺跡が多く残っています。資料館にはこれら主要遺跡の出土品を展示しています。			
10	吉備路風土記の丘	岡山県立吉備路郷土館	719-11	岡山県総社市上林1252	08669-3-2239
		岡山県岡山市・総社市。旧山陽道に沿った古代吉備の国には、造山古墳やこうもり塚古墳、備中国分寺跡、宝福寺三重塔など貴重な歴史的遺産が集中しています。郷土館にはこれら関係資料を展示しています。			
11	みよし風土記の丘	広島県立歴史民俗資料館	729-62	広島県三次市小田幸町大平122	08246-6-2881
		広島県三次盆地にあります。この地方は、古代から県北における文化の中心地でした。資料館には浄楽寺・七ツ塚古墳群の出土品を中心に、江の川水系の漁業・民俗資料などを展示しています。			
12	宇佐風土記の丘	大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	872-01	大分県宇佐市大字高森字京塚	0978-37-2100
		大分県宇佐地方は、古代文化の集積地です。古代寺院と特に富貴寺や皇位すら左右するほどの勢力をもった宇佐八幡、さらに隣接して六郷満山等があります。資料館は古墳群の中にあり、関係資料を展示しています。			
13	西都原風土記の丘	宮崎県総合博物館西都原資料館	881	宮崎県西都市大字三宅西都原西5670	0968-43-1354
		宮崎県西都市。総数329基におよぶ特別史跡西都原古墳群を中心とした風土記の丘です。資料館には古墳群の出土品を中心として、地下式横穴墓に関する資料、民俗資料などを展示しています。			
14	肥後古代の森(風土記の丘)	熊本県立装飾古墳館	861-05	熊本県鹿本郡鹿央町大字岩原3085	0968-36-2151
		熊本県の北部を流れる菊池川の豊かな恵みは、その流域に数多くの装飾古墳を残しました。当装飾古墳館は、県下の著名な装飾古墳を原寸大のレプリカとして公開すると共に、菊池川流域の各遺跡から出土した代表的な遺物も展示しています。			
15	なす風土記の丘	栃木県立なす風土記の丘資料館	324-05 324-04	(小川館) 栃木県那須郡小川町大字小川3789 (湯津上館) 栃木県那須郡湯津上村大字湯津上192	0287-96-3366 0287-98-3322
		栃木県の北東部に位置する那珂川流域は、古墳群や寺院跡等が数多く残る遺跡地帯です。箒川北側にある上・下侍塚古墳は、江戸時代に徳川光圀によって学術調査が成された古墳として著名です。「なす風土記の丘」はこの那珂川と箒川の合流地点の南北約5kmにわたって定められ、6km離れて、小川館と湯津上館の二館が「なす風土記の丘資料館」として設けられています。			
16	うきたむ風土記の丘	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	992-03	山形県東置賜郡高畠町大字安久津2117	0238-52-2585
	(平成5年開館)	置賜地区は、県内でも大型古墳、群集墳等古代の遺跡が多い地域です。館周辺には、日向洞窟など四か所の縄文草創期の洞窟遺跡が、豊かな自然のなかに保存されています。館の常設展示室には、日本固有の漆文化が、縄文前期まで遡ることを示す押出遺跡出土の彩文土器や、当時の食べ物である縄文クッキーの炭化物などが展示されています。			

利用案内

1. 館の御案内

- 開館時間 午前9:30から午後5:00まで
(入館時間は4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日
(当日が祝日の場合はその翌日)
年末年始
(12月25日～1月4日まで)

■観覧料

区分	個人	団体(20人以上)
一般	400円	1人につき280円
大学生	250円	1人につき180円

※高等学校以下の児童・生徒は無料です
※特別展の場合は、別途に定めます。

◎お問合わせ先

- TEL0968(36)2151まで
(熊本県立装飾古墳館)

2. 交通案内その他

■交通機関(バス)

- 熊本交通センター ↔ 山鹿温泉
(新道經由米田農協前バス停下車、徒歩20分)
- 山鹿 ↔ 玉名
米ノ岳經由城ヶ鼻バス停下車、徒歩20分
東郷經由長岩バス停下車、徒歩20分
- ◎大型車(バス)は
長岩(岩原横穴墓群)方面より
- ◎小型車は
南島陸橋より通行可

■交通機関

- タクシー
産交バス山鹿営業所より10分
- 自家用車
熊本市内より約60分
菊水インターより約15分
植木インターより約15分

4. 関連施設(町・農協関係)

- 鹿央ツインドーム
 - やすらぎ館(食事・休憩)
 - ふれあい館(物産・土産)
- ◎お問合わせ先
 - TEL0968(36)3838まで
(鹿央ツインドームプラザ)

3. 装飾古墳館周辺拡大図

- 下図参照のこと



(平成6年現在)

編集後記

ものが豊かになった現在、何かを作る場合、その制作過程においては、全てが細分化され、その分野、分野のプロの手によって成される昨今ですが、今回は敢えて、手作りの図録制作に挑戦してみました。

文章執筆を始めとして、製図、写真撮影、割り付け、図録全体の装丁・表紙のデザイン等、すべてを素人が行いました。このため、他館の図録のように、洗練された美しさはないかも知れません。

しかし、すべてが、自給自足の原始・古代人の生活を考える時、手作りによる図録制作もまた、意義のあることではないかと思えます

短期間による制作のため、不備な点も多々あることでしょうが、機会ある毎に訂正、補訂を行い、より良いものへ育ててゆきたいと考えています。

粗末な図録ではありますが、入館の際の伴侶として可愛がって頂ければ幸いです。 (桑原憲彰)

舟と馬と太陽と

—— 常設展示図録 ——

平成13年7月30日発行（四版）

発行 熊本県文化財保護協会

〒862-0970

熊本市渡鹿3-15-12

電話 096-362-9491

（県文化財収蔵庫内）

執筆編集・熊本県立装飾古墳館（桑原憲彰）

〒861-0561

熊本県鹿本郡鹿央町大字岩原3085番地

電話 0968-36-2151（代）

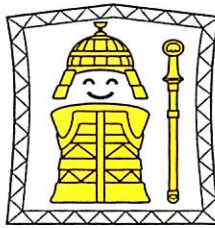
FAX 0968-36-2120

印刷 シモダ印刷株式会社

〒862-0951

熊本市上水前寺2丁目16-16

電話 096-383-5512



この電子書籍は、熊本県立装飾古墳館 常設展示図録 第1集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、全国の歴史博物館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：舟と馬と太陽と

発行：熊本県立装飾古墳館

〒861-0561 熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085 番地

電話：0968-36-2151

URL：<http://kofunkan.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦 2018 年 6 月 1 日